

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第545集

まつやしき  
**松屋敷遺跡第2次発掘調査報告書**

県立松園養護学校整備事業関連遺跡発掘調査

2008

岩手県教育委員会事務局教育企画室  
(財)岩手県文化振興事業団

# 松屋敷遺跡第2次発掘調査報告書

県立松園養護学校整備事業関連遺跡発掘調査

## 序

岩手県では旧石器時代をはじめとする一万箇所以上の遺跡の所在が知られており、地中には貴重な埋蔵文化財が豊富にのこされています。地域の風土が生み出したこれらの遺産は、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料であるとともに、岩手県民のみならず国民的な財産といえます。現代に生きる私たちが、これらの埋蔵文化財を将来にわたって大切に保存し、その活用に力を注ぐべきであることは言うまでもありません。

一方、豊かな地域づくりのためには社会資本の整備・充実が必要不可欠であることもまた事実です。故郷の大地と共にある埋蔵文化財の保護と開発行為との調和は、現代社会に暮らしを営む私たちに与えられた大きな課題といえましょう。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を実施し、調査成果を記録化し保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、県立松園養護学校整備事業に伴い発掘調査を実施した盛岡市松屋敷遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査では、縄文時代中期中葉を中心とする竪穴住居跡や土器・石器等の遺物が検出され、平成5年度に実施された第1次調査の成果に加え、当時の様相をより一層明らかにする考古学的資料を得ることができました。

本書が学術研究や教育活動などに広く活用されることにより、埋蔵文化財への理解と関心が一層深められ、ひいては埋蔵文化財保護思想の涵養に資するものとなれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました岩手県教育委員会事務局教育企画室、盛岡市教育委員会をはじめ、関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成20年12月

財団法人 岩手県文化振興事業団  
理事長 武田牧雄

## 例　　言

- 1 本書は岩手県盛岡市上田字松屋敷11-25ほかに所在する松屋敷第2次調査の成果を収録したものである。
- 2 岩手県遺跡台帳における本遺跡の登録番号はKE86-2378、調査略号はUMY07-02である。
- 3 本遺跡の発掘調査は、県立松園養護学校整備事業に伴い、岩手県教育委員会生涯学習文化課の調整を経て、岩手県教育委員会事務局教育企画室の委託を受けた財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが、記録保存を目的として実施したものである。
- 4 野外調査を実施した期間／調査面積／調査担当者は下記の通りである。  
平成19年9月3日～平成19年12月5日／780m<sup>2</sup>／村上　拓・横山寛剛
- 5 室内整理の期間／担当者は下記の通りである。  
平成19年11月1日～平成20年2月15日／村上　拓・横山寛剛  
平成19年10月19・23・24日には、松園養護学校の生徒に公開授業を行った。
- 6 本文の執筆は以下のとおりである。  
岩手県教育委員会事務局教育企画室・・・I  
村上　拓・・・IV1、IV2（1）～（4）、IV3（2）・（3）、V1  
横山寛剛・・・II、III、IV2（5）、IV3（1）、V2
- 7 本書中に示した平面座標値は、平成5年度に実施された第1次調査に準じ、平面直角座標第X系（日本測地系）を用いた。
- 8 石質鑑定は花崗岩研究会に委託した。
- 9 基準点測量業務は（株）岩手開発測量設計に委託した。
- 10 野外調査では下記の機関・個人の協力を得た。（敬称略・順不同。所属は平成19年度。）  
岩手県立松園養護学校、小笠原祐喜（岩手県教育委員会事務局教育企画室）、斎藤邦雄・菅　當久・花坂政博・櫻井友梓（岩手県教育委員会生涯学習文化課）、高木　晃（岩手県立博物館）。
- 11 今次調査で得られた出土遺物および諸記録類の一切は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管している。

## 目 次

I 調査に至る経過	1
II 立地と環境	1
1 遺跡の位置	1
2 周辺の地形	1
3 基本層序	1
4 周辺の遺跡	2
5 過去の調査	2
III 野外調査と室内整理	5
1 野外調査	5
2 室内整理	8
IV 検出遺構と出土遺物	9
1 概要	9
2 遺構	10
(1)豎穴住居跡	10
(2)土坑	21
(3)陥し穴	21
(4)焼土遺構	23
(5)捨て場(遺物包含層)	23
3 遺物	25
(1)縄文土器	25
(2)土製品	26
(3)石器類	27
V まとめ	37
報告書抄録	85

## 図版目次

第1図 松屋敷遺跡基本層序	2	第17図 出土遺物 (5)	33
第2図 遺跡周辺の地形と遺跡分布	4	第18図 出土遺物 (6)	34
第3図 調査区の位置とグリッド配置	6	第19図 出土遺物 (7)	35
第4図 各地点における任意の区割り	7	第20図 出土遺物 (8)	36
第5図 RA15・16・17堅穴住居跡平面図	14	第21図 出土遺物 (9)	37
第6図 RA15・16・17堅穴住居跡断面図 (1)	15	第22図 出土遺物 (10)	38
第7図 RA15・16・17堅穴住居跡断面図 (2)	16	第23図 出土遺物 (11)	39
第8図 RA15・16・17堅穴住居跡遺物出土状況	17	第24図 出土遺物 (12)	40
第9図 RA15堅穴住居跡	18	第25図 出土遺物 (13)	41
第10図 RA16堅穴住居跡	19	第26図 出土遺物 (14)	42
第11図 RA17堅穴住居跡・RD13上坑	20	第27図 出土遺物 (15)	43
第12図 RD14・15陥し穴	22	第28図 出土遺物 (16)	44
第13図 出土遺物 (1)	29	第29図 出土遺物 (17)	45
第14図 出土遺物 (2)	30	第30図 出土遺物 (18)	46
第15図 出土遺物 (3)	31	第31図 出土遺物 (19)	47
第16図 出土遺物 (4)	32	第32図 出土遺物 (20)	48

## 写真図版目次

写真図版1 調査開始時の状況	61	写真図版13 出土遺物 (2)	73
写真図版2 調査区全景	62	写真図版14 出土遺物 (3)	74
写真図版3 RA15堅穴住居跡 (1)	63	写真図版15 出土遺物 (4)	75
写真図版4 RA15堅穴住居跡 (2)	64	写真図版16 出土遺物 (5)	76
写真図版5 RA15堅穴住居跡 (3)	65	写真図版17 出土遺物 (6)	77
写真図版6 RA15堅穴住居跡 (4)・作業風景	66	写真図版18 出土遺物 (7)	78
写真図版7 RA16堅穴住居跡 (1)	67	写真図版19 出土遺物 (8)	79
写真図版8 RA16堅穴住居跡 (2)	68	写真図版20 出土遺物 (9)	80
写真図版9 土坑・陥し穴	69	写真図版21 出土遺物 (10)	81
写真図版10 挣て場	70	写真図版22 出土遺物 (11)	82
写真図版11 基本上層	71	写真図版23 出土遺物 (12)	83
写真図版12 出土遺物 (1)	72	写真図版24 出土遺物 (13)	84

## 表 目 次

第1表 周辺の遺跡	3	第4表 出土土製品一覧	54
第2表 新旧遺構名対応表	9	第5表 出土石器・石製品一覧	55
第3表 出土土器一覧	49		

## I 調査に至る経過

松屋敷遺跡は、県立松園養護学校高等部建設事業に伴い、その事業区内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

本事業は、同校と県立青山養護学校との統合により不足となる高等部校舎棟を整備するものであり、現在のグランドの一都を校舎敷地として造成のうえ新校舎を建設するものである。

本事業の施行に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成18年9月14日付教企第385号により岩手県教育委員会事務局教育企画室より岩手県教育委員会（生涯学習文化課）に対し試掘調査の依頼を行った。

依頼を受けた岩手県教育委員会は平成18年10月16日に試掘調査を実施し、その結果、T工事に着手するには発掘調査が必要となることが判明し、平成18年10月18日付教生第982号でその旨回答があったものである。

その結果を踏まえて、平成19年8月27日付けで財團法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなったものである。

（岩手県教育委員会事務局教育企画室）

## II 立地と環境

### 1 遺跡の位置（第2図）

松屋敷遺跡の所在する盛岡市は、岩手県のほぼ中央部に位置し、北に滝沢村、岩手町、東は岩泉町、川井村、南は大迫町と矢巾村、紫波町、西は零石町に接する。県庁所在地であり、文化・行政・経済の中心でもある。平成18年1月20日に旧盛岡市の北に位置する玉山村と編入合併し、面積約890km<sup>2</sup>、人口約30万人となり、平成20年4月の中核市移行を目指している。松屋敷遺跡は、岩手県盛岡市上田字松屋敷11-18ほかに所在し、盛岡市の中心街である市役所から直線距離で北へ約6.5km付近、北緯39度45分27秒、東経141度9分33秒付近に位置する。

### 2 周辺の地形（第2図）

本遺跡の所在する盛岡市は、県南最大の河川である北上川と、それに注ぐ支流によって北上川中流域に形成された北上盆地の北端に位置している。この北上川以東では、北上川の支流である中津川・梁川流域に発達した沖積段丘が形成されている。本遺跡は北上山地西縁にあたる四十四田丘陵上に立地し、調査区は丘陵の北端で、舌状に張り出す部分にあたる。遺跡の西側には北上川が南流し、四十四田ダムに接している。東側に接する松園ニュータウンの一带は、人口改変地であり、かつての地形はほとんど残っていない。

### 3 基本層序（第1図）

野外調査では、遺跡内に堆積する上層の新旧関係及び各層の時刻を把握するようつとめた。第1図は松屋敷第2次調査区の基本上層模式図である。大きくI～V層に分けることができる。

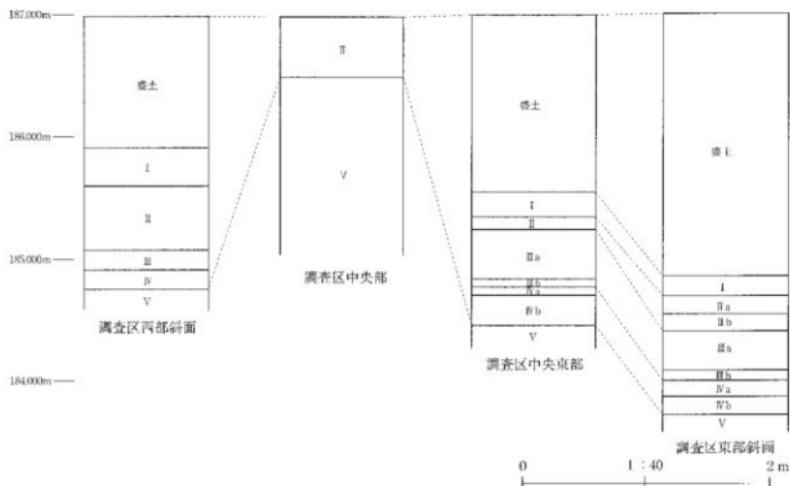
I 層 10YR3/3 暗褐色シルト 松園養護学校グラウンド造成前の表土

II 層 10YR4/4 褐色シルト

- IIIa 層 10YR5/6 黄褐色シルト 縄文時代遺物（中期）包含層  
 IIIb 層 10YR3/4 暗褐色シルト 縄文時代遺物（中期）包含層  
 IVa 層 10YR2/3 黒褐色シルト  
 IVb 層 5/6-5/8 黄褐色シルト  
 V 層 地山砂礫層。

調査区は松園養護学校グラウンドの南縁部に沿った狭小な範囲で、北側から南西方向に向かって延びるやせ尾根を斜めに横断している。尾根頂部の両側はそれぞれ斜面となっている。

Ⅲ層の黄褐色上層が遺物包含層及び造構埋土の主体上となっている。竪穴住居跡の検出された尾根頂部では、Ⅳ層の堆積は確認されず、黄褐色の埋土直下にV層以下の地山が露出した状況を呈する。



第1図 松屋敷遺跡基本層序

#### 4 周辺の遺跡（第2図）

盛岡市内には平成17年現在739の遺跡が登録されている。松屋敷遺跡周辺を概観すると、縄文時代の遺跡の多くは本遺跡と同じく、北上山地西縁の四十四田丘陵上に立地する。丘陵の北側は北上川に接しており、北上川対岸の丘陵地にも、縄文時代の遺跡が多く分布する。本遺跡の北東に位置する小島沢A～P遺跡は、全て縄文時代の遺跡で、特に小島沢B遺跡では縄文時代中期の土器と竪穴住居跡が見つかっており、松屋敷遺跡と同時期の集落跡であった可能性がある。しかしA～D遺跡は既に消滅しており、その他の地点についても本格的な発掘調査は行われていない。

#### 5 過去の調査（第3図）

松屋敷遺跡では、松園養護学校校舎整備事業に伴う発掘調査が、平成5年4月8日～7月14日に実施された。2地点、計1,800m<sup>2</sup>を調査し、南側のA区からは竪穴住居跡11棟、竪穴状造構1棟、土坑2基、陥没穴5基、柱穴16基、北側のB区から竪穴住居跡2棟、上坑5基、焼土造構1基、柱穴3基

の遺構が検出された。B区で検出された住居跡のうち2棟は、早期のものである。またB区全域に遺物包含層が形成されており、B区北側に中期の土器、B区西側に早期の土器が多く分布する傾向がみられた。

この調査成果は「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第224集 松屋敷遺跡発掘調査報告書」として刊行（平成7年）されている。

第1表 周辺の遺跡

No.	遺跡コード	市町村名	遺跡名	探査	時代	遺構・遺物	所在地
1	KE86-2209	盛岡市	黒塚A	散布地	縄文・古代	陶文土器、土器群	上田字山崎町敷
2	KT86-2334	盛岡市	黒塚敷B	散布地	縄文・古代	縄文土器、土器群	下田字山崎町敷
3	KE86-2378	盛岡市	松尾痕	集落跡	縄文	縄文土器(前・中期)	上田字松尾痕
4	KE87-1183	盛岡市	小鳥沢N	散布地	縄文	陶文土器、土器、残穴住居跡	上田字小鳥沢
5	KE87-1193	盛岡市	小鳥沢E	散布地	縄文	縄文土器	上田字小鳥沢
6	KT87-1196	盛岡市	小鳥沢O	散布地	縄文	縄文土器	上田字小鳥沢
7	KE87-2007	盛岡市	小野松一里塚	散布地	古世	毎之草	上田字小鳥沢(12)、後壁敷12
8	KE87-2007	盛岡市	小鳥沢C	散布地、堆塁	縄文・古世	縄文土器、土器	上田字小鳥沢
9	KT87-2010	盛岡市	小鳥沢P	散布地	縄文	縄文土器	上田字小鳥沢
10	KE87-2006	盛岡市	小鳥沢G	散布地	縄文	縄文土器	上田字小鳥沢
11	KE87-2028	盛岡市	小鳥沢H	散布地	縄文	縄文土器、土器	上田字小鳥沢
12	KT87-2044	盛岡市	小鳥沢A	集落跡	縄文・近世	縄文土器(早~晩期)、民家、土器	上田字小鳥沢
13	KE87-3048	盛岡市	小鳥沢M	散布地	縄文	縄文土器	上田字小鳥沢
14	KE87-2054	盛岡市	小鳥沢Q	散布地	縄文	縄文土器	上田字小鳥沢
15	KT87-2066	盛岡市	小鳥沢D	散布地	縄文・近世	縄文土器、民家、土器	上田字小鳥沢
16	KT87-2062	盛岡市	小鳥沢B	集落跡	縄文	縄文土器(中期)、残穴住居跡	上田字小鳥沢
17	KE87-2079	盛岡市	小鳥沢F	散布地	縄文	縄文土器	上田字小鳥沢
18	KE87-2102	盛岡市	小鳥沢J	散布地	縄文	縄文土器、土器	上田字小鳥沢
19	KE87-2104	盛岡市	小鳥沢M	散布地	縄文	縄文土器、土器	上田字小鳥沢
20	KE87-2116	盛岡市	小鳥沢J	散布地	縄文	縄文土器	上田字小鳥沢
21	KE87-2180	盛岡市	小鳥沢I	散布地	縄文	縄文土器	上田字小鳥沢
22	KT87-4109	盛岡市	庄ヶ原A	散布地	縄文	縄文土器	上田字小鳥沢
23	KE87-2221	盛岡市	庄ヶ原B	散布地	縄文	縄文土器	上田字小鳥沢
24	KE87-2230	盛岡市	庄ヶ原C・D	散布地	縄文	縄文土器	上田字小鳥沢
25	KE87-2283	盛岡市	庄ヶ原E	散布地	縄文	縄文土器	上田字小鳥沢
26	KE96-0384	盛岡市	四十田原A	散布地	旧石器・縄文	旧石器、縄文土器	上田字松屋敷
27	KE96-1280	盛岡市	四十田原B	散布地	縄文・古代(平安)	西田上原(下・古代)、上原谷、おとした、ま、残穴住居跡	馬鹿野二丁目
28	KE96-1373	盛岡市	寒風山	散布地	縄文	縄文土器	馬鹿野二丁目
29	KT96-2301	盛岡市	上田原古森古墳群	散布地・古墳	縄文・古代	終末期古墳1基、土器群、コハク、青、陶瓶	鬼石野・丁目
30	KE96-1394	盛岡市	鬼石野	散布地	縄文・古代	縄文土器、土器、陶器、鏡、武器(稚又鏡)	鬼石野二丁目
31	KE96-2314	盛岡市	鬼石野	散布地	縄文	縄文土器	鬼石野二丁目・鬼石
32	KT96-2320	盛岡市	黒石野平	散布地	古代(平安)	残穴住居跡	缺記(丁・丁目・四丁目)
33	KE96-2382	盛岡市	東糸川	散布地	縄文	縄文土器	東糸川
34	LE07-0307	盛岡市	良板	散布地	縄文	縄文土器	上田字千景坂長坂
35	LE07-0009	盛岡市	宇摩坂	散布地	縄文	縄文土器(中期)	上田字千景坂長坂
36	LT07-0322	盛岡市	上坂頭	散布地	縄文	縄文土器(早~中期)	上田頭・丁目・一丁目
37	LT07-0326	盛岡市	雁垂	散布地	縄文	縄文土器	三ノ湖字鶴の山
38	LE07-0039	盛岡市	鶴森	散布地	縄文	縄文土器	二ノ割字鶴森
39	LE07-0114	盛岡市	波ノ浦	散布地	縄文	縄文土器(早~後期)	山岸六丁目
40	LE07-0143	盛岡市	新吉田	散布地	縄文	縄文土器(後期)	山岸六丁目・下内田
41	LE06-0218	盛岡市	有京貝根	散布地	縄文	Tピット	缺記(丁目)
42	KE86-0278	盛岡市	有木沢B	散落跡	縄文・古代	縄文土器(前・後期)、土器群、隙空状遺構	河岸字葉の木沢山
43	KE86-1203	盛岡市	葉の木沢II	散布地	縄文	縄文土器(後期)	河岸字葉の木沢山
44	KE86-1248	盛岡市	葉の木沢III	散布地	縄文・古代	縄文土器、土器群	河岸字葉の木沢山
45	KE86-1251	盛岡市	御屋敷	散布地	縄文	縄文土器(後期)	河岸字葉の木沢山
46	KE87-0094	盛岡市	葉の木沢A	散布地	縄文・古代	縄文土器(後期)・土器	河岸字葉の木沢・葉の木
47	KT87-0083	盛岡市	葉の木沢B	散布地	縄文	縄文土器(後期)・土器	河岸字葉の木沢
48	KE87-0062	盛岡市	葉の木沢C	散布地	縄文	縄文土器(後期)	河岸字葉の木沢
49	KE87-0093	盛岡市	葉の木沢D	散布地	縄文	縄文土器(後期)・土器	河岸字葉の木沢
50	KE87-1162	盛岡市	大平	散布地	縄文	縄文土器	山岸字大平
51	KT96-1288	盛岡市	大霧山	散布地	古代・中世	土器群	上田東里石野
52	KE87-0009	盛岡市	川口字船頭(もぐら船頭)	城郭跡	中世	鐵、土器、甲部	玉山臥川字船頭
53	KE87-2147	盛岡市	名桑坂一里塚	一里塚	近世	塚	上田米字名塚



第2図 通跡周辺の地形と遺跡分布

### III 野外調査と室内整理

#### 1 野外調査

##### (1) 調査区

登録されている松屋敷遺跡の範囲は、南北660m・東西420m、面積にして約12万m<sup>2</sup>である。今回調査対象となつたのは、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課による試掘調査の結果から本調査を要すると判断された780m<sup>2</sup>の範囲で、松岡養護学校敷地内グラウンドの南縁の擁壁に沿つた細長い形となつてゐる。調査では便宜上、調査区西側を「北西部」、調査区中央を「中央部」、調査区東側の斜面を「東部」とした。「北西部」が平成5年度調査区のA区と、「東部」がB区とそれぞれ隣接している。

##### (2) グリッドの設定と基準点 (第3・4図)

グリッドは第1次調査で設定したものをそのまま用いた。このグリッドを現地に割り付けるため、X=26845.000m Y=27915.000m (基1)、X=26845.000m Y=27940.000m (基2) を打設した。基1はY17I24グリッドの北1m・西1m、基2はY17U24グリッドの北1mの位置にあり、グリッドラインの交点とはざれがあることに留意されたい。また、このグリッドとは別に、調査区中央部及び東部においては、第4図に示した任意の区画を用いて遺物のとり上げを行つてゐる。

##### (3) 試掘・表土除去

調査では、まず対象区域に任意に試掘トレンチを設定し、人力掘削によって土層の堆積状況と遺構の存否の把握につとめた。その結果、調査区全体に盛土が厚く堆積していることがわかり、バックホー・キャリアダンプ等の重機を用いてこれを除去した。盛土を除いた後は、検出面までの上層が薄い場合や遺物が集中的に出土する場合など、重機の使用が適当でないと判断した区域では人力による掘削を行つた。

##### (4) 遺構の検出と精査

表土除去の後、鏽簾(じよれん)・両刃草刈り・移植ベラを用いて遺構検出を行い、必要に応じてスプレー塗料による白線で遺構プランにマーキングを施した。精査では遺構の規模に応じて2分法・4分法を使い分け、十層断面を観察しながら埋土を除去した。検出時に遺構の重複が認められた場合、なるべく平面観察で新旧関係を把握するよう努め、原則として新期のものから順に埋土の掘削を行つた。この場合、両者を縱断する断面を設定し土層の堆積状況からも併せて新旧関係を検討した。出土した遺物は、遺構名やグリッド名および出土層位を記録して取上げ、必要に応じて出土状況記録としての実測・撮影を行つた。

##### (5) 遺構名

###### ① 野外調査での名称

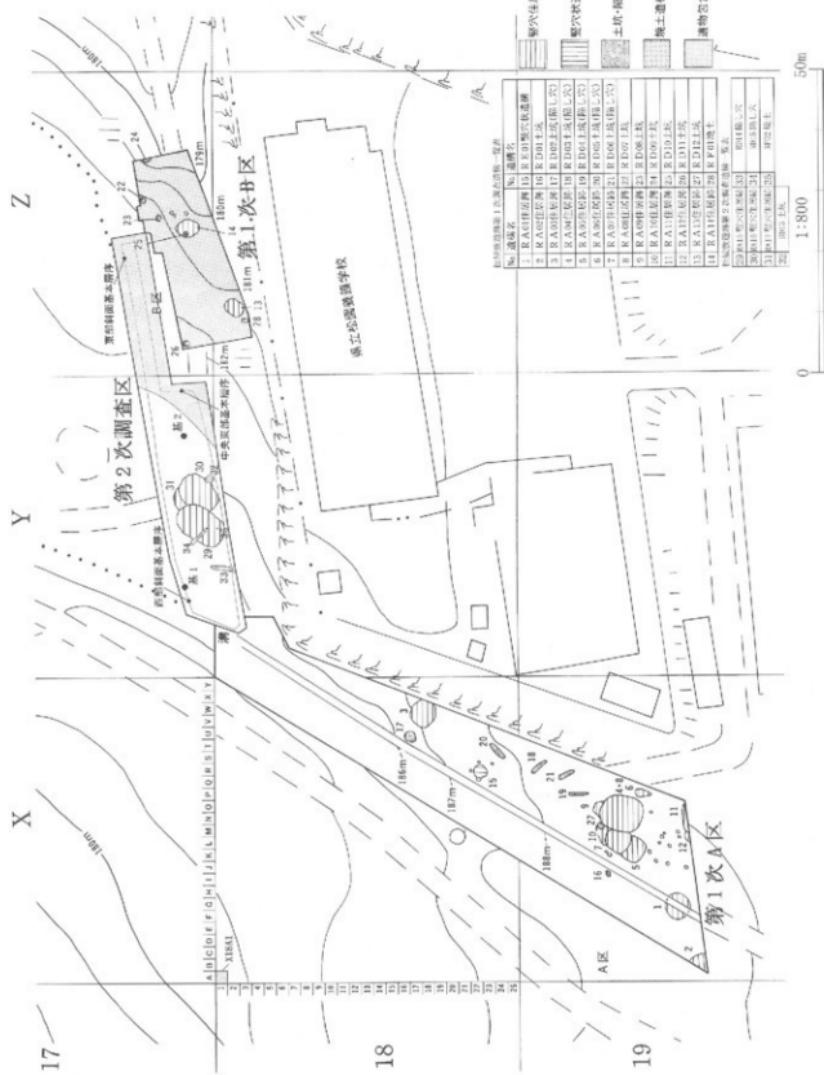
遺構には検出時点に固有の名称を与えた。検出段階で堅穴住居跡の可能性があると判断したものは、「SI」の略号を用い、検出した順から「SI01」、「SI02」・・・のように表した。同様に円～楕円形のプランをもつ遺構には「SK」の略号を用いた。

###### ② 本書中の掲載名称

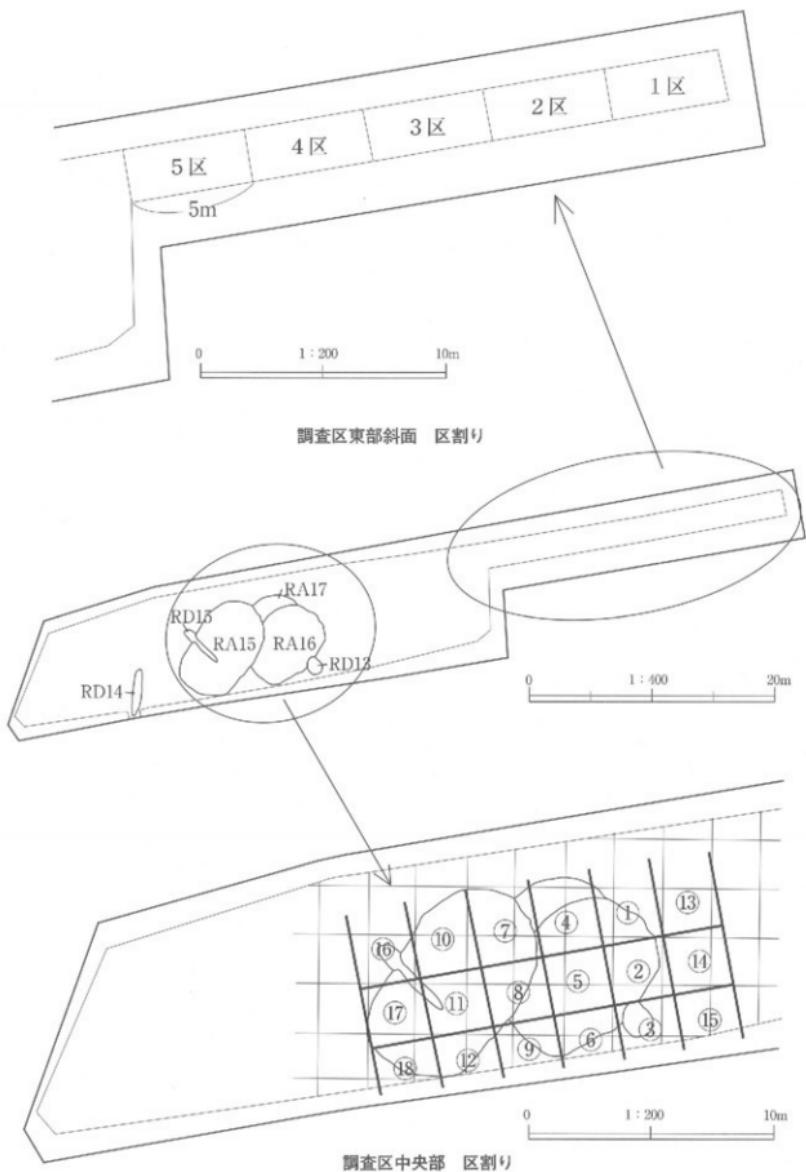
掲載にあたつては盛岡市教育委員会の定める略号を用いて遺構名を改め、第1次調査で検出された遺構の番号に連続する通し番号をつけた。遺構の記号と名称は以下のとおりである。

〔堅穴住居跡〕 SI01・02・04→RA15・16・17。〔土坑・陥没穴〕 SK01・02・03→RD13・14・15。〔焼土遺構〕 焼上1→RF02。

また、堅穴住居跡の柱穴についても、事実記載に際しそれぞれに名称を与えた。(pp1~pp62)



第3図 調査区の位置とグリッド配置



第4図 各地点における任意の区割り

### (6) 実測

遺構や遺物出土状況などの平面実測は、小グリッドを再細分した1m方眼を基準に実測・作図する「簡易造り方測量」を行った。縮尺は1/20を基本とした。このほか光波トランシットを用いて、遺構配置図・現況地形図等の作成を行った。断面図は水平に設定した水糸を基準にして実測・作図した。縮尺は1/20を基本とした。

### (7) 土層断面の分層と注記

遺構やトレンチなどの十層断面は慎重に観察し堆積状況を把握するよう努めた。分層は堆積過程を表現するのに必要と思われた場合は細部にも配慮したが、薄層が連続的に互層をなす部分や、偶然の結果と思われる混入物の偏りなどは徒らに細分せず、有意と思われるまとまりの境界を表現した。この分層の根拠を示すため、各層の性状を記録した。土層は主体土と混入土（物）によって構成されるものと考え、色調・土性・混入物・粘性・締まりの程度等を記載した。また、解釈可能な場合は、その層の持つ性格を想定し付記した。

遺構埋土や捨て場堆積層の「主体土」には、認識可能な場合、その層が堆積した時点で周辺の表土を形成していたと思われる土（埋没開始時点における最新期の土）をあてた。例えば地山土のブロックが大半を占める遺構の壁の崩落層であっても、当時の表土と思われる黒色土が僅かに含まれている場合は、後者を主体土とし、「地山土が大量に混入している状態」と解釈している。主体土と基本土層の対比から、その層の堆積時期を推定することが可能だと考えたからである。

土色の表記は新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議事務局）に準じたが、調査員が受ける層間の印象の差が土色名の違いとして反映されない場合も少なくなかった。このため、各層の記録には調査員個人の主觀による相対的な層全体の印象（明暗や色味の差）も併記した。

### (8) 写真撮影

野外調査では6×7cm判カメラ（モノクロ）、35mm判カメラ（カラーリバーサル）、デジタルカメラを用い、各種遺構の全景・土層断面・遺物出土状況等を撮影した。なお、一部の遺構ではいずれかのカットを省略した場合がある。

## 2 室内整理

### (1) 作業手順

出土遺物の洗浄と地點別の仕分け作業、土器を除く各遺物の分類は、野外調査と並行して現地で行った。野外調査終了の後、室内において土器の接合・復元作業を開始し、隨時掲載資料の選別・登録を行った。その後、実測図作成・拓影作成・トレースの順に作業を進めた。調査員はこれらの作業の統括と並行して図面合成・遺物観察表作成・原稿執筆を行った。

### (2) 遺構

各遺構は必要に応じて第2原図を作成し、これをもとにトレースのうち国版を作成した。図中には縮尺を示すスケールを付し、また方位マークにより座標北を示した。

### (3) 遺物

土器は出土地点・遺構別に分けた後、それぞれの集合の内容を代表させる資料を選抜し、実測等の作業対象資料とした。石器は、いわゆる定型的な石器に加え細部加工剥離または微細な剥離をもつ剥片類、使用痕跡をもつ礫石器類を全点登録した。

## IV 検出遺構と出土遺物

### 1 概要

#### (1) 検出遺構と出土遺物

##### ① 繩文時代早期

<遺構> なし

<遺物> 土器（貝殻文）[6片]。

##### ② 繩文時代中期

<遺構> 壓穴住居跡3棟、土坑1基、焼土遺構1基。

<遺物> 土器（中期中葉）[大コンテナ25箱]、

石器（尖頭器4点、石錐16点、石錐5点、石匙6点、石砲7点、削器・搔器類15点、磨石6点、凹石9点、特殊磨石10点、石皿・台石6点、石斧5点)

##### ③ 繩文時代（その他）

<遺構> 陥し穴状遺構2基（中期中葉住居跡を切る）。

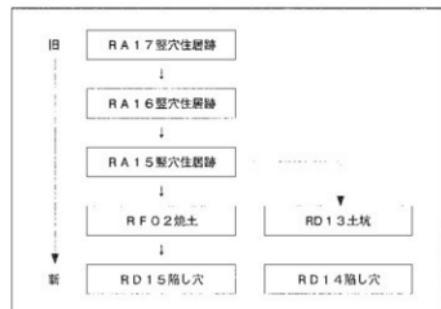
<遺物> なし。

#### (2) 成果の概要（第3図）

調査区は松園幼稚学校グラウンドの南縁部に沿った狹小な範囲で、北側から南西方に向かって連続する痩せ尾根を斜めに横断している。尾根頂部に相当する調査区中央では、繩文時代中期（大木8a式期主体）の壓穴住居跡3棟が重複して検出された。尾根頂部の両側はそれぞれ斜面となっており、このうち南東側斜面からは土器等の遺物がまとまって廃棄されている状況が観察された。

出土遺物の大半が繩文時代中期に属するが、ごくわずかに数片の早期土器（貝殻文）破片が確認されている。また、住居跡埋土や捨て場からは多数の琥珀細片が出土した。

遺構の新旧関係は以下のようにまとめられる（旧→新）。



第2表 新旧遺構名対応表	
新	旧
RA15 陥し穴住居跡	SI01
RA16 陥し穴住居跡	SI02
RA17 壓穴住居跡	SI04
RD13 土坑	SK03
RD14 陥し穴	SK01
RD15 陥し穴	SK02
RF02 焼土	—

## 2 遺構

### (1) 穴住居跡

#### R A 15 穴住居跡 (第9図、写真図版3~5)

[位置・検出状況]

調査区中央部、Y17N23~Y18L01グリッドに位置する。はじめV層上面において土器片や炭化物の混じる不整円形の黒褐色土の広がりとして検出された。その後精査の過程で、周囲に広がる地山に似た褐色土が埋土であることが判明し、結果的に検出段階に想定した形状からは大きく変化した。

[規模・形状・主軸方向]

平面形は840×530cmの楕円形を呈するが、長軸に平行する東西の両壁は直線的で隅丸長方形の趣も持つ。床面までの残存深度は最大62cmである。主軸（長軸）方向は、N-34°-Eで、本遺構が立地する尾根頂部の輪線にはほぼ平行するよう設定されている。

[埋土と堆積状況] (断面A-A'・B-B'・C-C' 1~6層)

床面直上には混入物を含まない均質な黄褐色土（4・6層）が厚く堆積している。本層は当初その上面を床面と誤認したほど地山V層に酷似する。実際の壁面・床面との間に目立った挟在物や間層は認められず、精査に際しては緻密度の差異がほぼ唯一の識別基準となった。断面A-A'右側には、3層が4・6層を切って床面に達する状況が観察されるが、これは床面に掘り込まれた柱穴の一つから連続する柱痕跡とみられ、4~6層の堆積が、柱材が立ったままの状態で短時間のうちに（一気に）進んだ可能性を示している。

4~6層の堆積後に生じた凹地には比較的多くの土器が投棄されており、これに混じて頁岩の微細剥片がつかみほどの塊で出土している。また門地南端部の底面には地床炉様の円形焼土（→RF02焼土）が生成しているなど、廃絶後の住居内部が再び人の行為の場とされた様子が観察できる。

門地底面は本遺構の埋土のうち最も炭化物や土器片が日立つ3層に覆われている。混入物の絶対量は決して多くないが、本遺構出土遺物の大半は本層に伴うものであり、他の堆積土に比して埋土中最も遺構内堆積土らしい土層といえる。この上位には再び地山V層類似の2層が堆積し、最上位をそれ以下とは全く異なる黒褐色土（1層）が覆っている。

[壁・周溝・床面・柱穴など]

壁は全体的には直立しているが、RA16・17と重複する北東部ではやや外傾する。壁面は埋土に比して緻密である点、埋土にごくまれに含まれる炭化物粒が壁面では皆無となる点などが識別根拠となつたが、視覚的な判別基準は見出しづらかった。

周溝は主軸と平行する東西壁面の直下で検出された。幅は10~26cm、長さは東壁側で6.0m、西壁側で3.8mである。東壁側のものは南北が、西壁側では大半が直線的に延びる。周溝底面には深さの異なる小さな凹部が連続しており、この中にはしっかりした円形の小ビットが一定の間隔を置いて複数見られる。周溝や小ビットの埋土はV層土に酷似していた。

床面は全体的に平坦に整っており、北端部を除き大半がガッチャリと硬化していた。不自然な段差や硬化面の重複等ではなく、住居の拡縮等に伴う床面更新の痕跡は認められない。

柱穴は床面上ではほとんど認識できなかった。そこで床の硬化面を除去し慎重に精査をすすめたところ、壁寄りに一定間隔で配置された柱穴列が検出された。直径50cm前後のpp11・12・13・16・29・30・33・34が本縦穴住居跡に帰属する主たる柱穴と見られる。pp19・22・23なども本遺構に帰属する可能性が高い。

## 〔炉跡・焼上〕

床面からは3基の炉が検出された。炉aは中央部からやや北壁側に寄った、柱穴pp12とpp30の間付近に位置している。床面を約60cm四方の方形に掘り下げ、内部周縁に沿って扁平な河原石を配した石囲炉である。内部底面に極めて微弱な赤変箇所が見られるほかは、炉石にも被熱痕跡は認められず、燃焼行為の頻度は乏しいものであったと推測される。この炉は中心部に直径18cmのピットをもっている。断面によれば、このピットは燃焼面を直に覆う3層を切って炉内底面を掘り込んでおり、また、開口部より上位は住居廃絶時の最初の埋土である黄褐色土（断面A～C・6層）に直に覆われている。したがって炉構築後から本住居廃絶までの期間に帰属するものであることは明らかである。炉の廃絶後3層の堆積のうちに掘り込まれ住居廃絶の前に埋没したものか、あるいは、炉の中心に柱状の何物かが据え置かれた状態で3層の堆積が進み、その後住居廃絶の前に抜き取られた痕跡と考えることができる。

炉bは炉aの南側に接しており、炉aの掘り方によって一部が切られている。長径48cmの楕円形で厚さ4cmの焼上が生成しており、上面はガリガリに硬化している。周間に炉石の痕跡はなくともと地床炉だったと思われる。燃焼面の上位は住居埋土最下層の黄褐色土に直に覆われており、炉跡aと同一の床面に設けられたものと判断される。

炉cは炉a・bから離れた床面の南部に位置しており、主軸からもやや大きく東側に逸れている。直径28cmの円形で厚さ3cmの焼土が生成している。燃焼面の中央部がややくぼみ上面はガリガリに硬化している。炉bと同様、炉石等の痕跡はなく地床炉と見られる。

なお、炉a～cで形成された焼土を除けば、床面上における焼土塊や炭化物の分布はほぼ皆無であった。生活痕跡としての「火の気」がこれほど感じられない例は特異におもわれ、住居の使用状況（居住期間の長短、炉の使用頻度）や、廃絶時の状況を推し量る上で興味深い。

## 〔重複〕

R A17堅穴住居跡・R A16堅穴住居跡より新しく、R F02焼土・R D15陥し穴より古い。

## 〔出土遺物〕（第44・45図・写真図版33・34）

出土遺物は住居北側の炉a周辺に、比較的まとまって出土した（第8図）。

＜上器＞ 埋土および床面からII群土器が出土している。床面から出土した7は、口縁部に山形隆帯波状文や渦状文が施されるII群3類土器である。第8図に示した13・14・27・40は、4～6層の堆積後に生じた凹地から出土したもので、同じくII群3類に属する。

＜右器＞ 刺片石器では石鋸・石錐・削搔器類と考えられる不定形石器、礫石器では磨石・特殊磨石・凹石・右皿・台石が出土した。

微細剥片は複数のつぶれた土器に接して出土しているが、特定の土器内部に集中する様子は認められなかったことから、土器を容器に貯蔵されたものではなさそうである。ただし飛散せず一箇所に集中しており何らかの有機質容器に入れられていた可能性が考えられる。

## 〔遺構の時期〕

出土遺物から縄文時代中期中葉に帰属すると思われる。

## R A 16堅穴住居跡（第10図、写真図版7・8）

## 〔位置・検出状況〕

調査区中央部、Y17Q23～Y18O01グリッドに位置する。V層上面において、上器片とわずかな炭化物を含むV層土に良く似た黄褐色土の広がりとして認識したが、この時点においては範囲・形状は判然としなかった。先行して精査着手したR A15堅穴住居跡にも類似した埋土の堆積が認められたた

め、造構の可能性が高いと判断し精査に着手した。

〔規模・形状・主軸方向〕

平面形は $690 \times 520\text{cm}$ の楕円形～隅丸長方形を呈する。床面までの残存深度は最大50cmである。主軸方向はN-49°-Eで、本造構が立地する尾根頂部の軸線にはほぼ平行するよう設定されている。

〔埋土と堆積状況〕（断面D-D'～H-H' 1～7層）

床面直上を広く覆うのは混入物をほとんど含まない均質な褐色土（5層）である。V層に良く似るが、炭化微粒が散見され僅かに暗い。壁際では特に厚く床面から検出面までを一気に埋めている。住居中央に向かって次第に層厚を減じ、本層堆積後は上面が凹レンズ状を呈する。この凹地の上面には木炭小片（径5～20mm）と土器等の遺物を多く含む暗褐色土（3層）が堆積している。5層の及ばない住居中央付近では本層が直接床面に接する箇所もある。本住跡の遺物の大半は本層からの出土であり、完形に近い個体や大型破片も多いことから、半埋没の住居内への人為的な投棄が行われたものと思われる。この上位は再び地山V層に類似する褐色土（2層）、黄褐色土（1層）に覆われ埋没を終えている。

〔壁・周溝・床面・柱穴など〕

埋土が地山V層に類似するため壁面の検出は困難であった。埋土に比してやや緻密で、炭化微粒を含まない点を識別根拠として精査を行った。壁の残存が良好なのは北部～西部である。一方RA15堅穴住跡に重複する南西部と斜面下方側にあたる東部では壁が失われている。残存部に見られる壁面はやや外傾するものの直線的に立ち上がっており大きな崩落痕跡等は認められなかった。

周溝は北西壁の直下で明瞭に検出された。幅10～20cm、長さは約4.6mで、壁に沿って弧状に延びている。周溝の底面には杭穴式の小ピットが一定の間隔を置いて複数見られた。北西部のほかにも南壁や東壁下の一部で周溝が痕跡的に認められる。

床面は全体的に平滑だが、南東側に向かってごく緩く傾斜している。床面には、炉が設けられている中央部と各壁のドを除き、環状の硬化面が形成されている。炉を取り囲む硬化面は居住に伴って形成された生活痕跡のようにも見えるが、主柱穴が設けられているラインと重複していることを考えれば、住居構築時の「突き固め」による可能性が高いと思われる。

柱穴は床面上ではほとんど検出できなかった。そこで床の硬化面を除去し慎重に精査をすすめたところ、壁寄りに一定間隔で配置された柱穴列が検出された。直径50cm前後のpp32・41・43・49・55・59が本堅穴住跡に帰属する主たる柱穴と見られる。pp51なども本造構に帰属する可能性が高い。

〔炉跡・焼土〕

住居主軸線上、中央部からやや北壁側に寄った位置に1基の炉が設けられている。62×50cmの楕円形で厚さ7cmほどの焼土が生成しており、燃焼面の中央はやや凹み上面は硬化している。被熱の度合は南西側のほうが顯著である。炉石等の痕跡はなく地床炉の可能性が高い。炉跡の上面や周囲の床面には焼土塊や炭化物の飛散がほとんど見られなかった。

〔重複〕

RA17堅穴住跡より新しく、RA15堅穴住跡・RF02焼土・RD15陥し穴・RD13上坑より古い。  
〔出土遺物〕（第44・45図・写真図版33・34）

＜土器＞ 埋土および床面からII群土器が出土している。79の深鉢は床面からほぼ完全な形で出土した。埋土出土のものは、炭化物黒褐色層（3層）の上下で遺物を分けて取り上げたが、両者はII群3類でまとまっている。

＜石器＞ 刃片石器では石鎚とスクレイパー、砾石器では磨石・特殊磨石・凹石が出土した。387

の磨石は床面から出土した。

〔遺構の時期〕

出土遺物から縄文時代中期中葉に帰属すると思われる。

R A 17 竪穴住居跡（第11図、写真図版2）

〔位置・検出状況〕

調査区中央部、Y17O23～Y17P23グリッドに位置する。V層上面においてわずかな炭化物を含むV層上に良く似た黄褐色土の広がりとして認識した。当初V層上面で検出したR A16竪穴住居跡のプランの一部と認識していたが精査の過程で別の住居跡であることが判明した。

〔規模・形状・主軸方向〕

R A15・R A16竪穴住居跡との重複により大きく破壊され原形を留めていないが、北西壁と思われる残存部は弧状を呈し、他の二棟と同様、楕円形を呈する可能性が高いと思われる。残存範囲の平面規模は310×270cm、床面までの残存深度は最大32cmである。

〔埋土と堆積状況〕（断面D-D'・E-E'・G-G' 11～14層）

床面を覆っているのは炭粒を僅かに含む褐色土である。その上位には地山V層に類似する黄褐色土がやや厚く堆積し、さらに暗褐色土の流入によって埋没している。断面E-E'には床面から延びる柱痕跡（14層）が認められる。また、床面からは繊維方向を残す炭化材が出土しており廃絶時の焼失の可能性を示唆している。

〔壁・壁溝・床面・柱穴など〕

埋土が地山V層に類似するため壁面の検出は難しかった。埋土に比してやや緻密で、炭化微粒を含まない点を識別根拠とし精査を行った。残存する壁面は住居の北部～西部のものと思われる。残存部に見られる壁面はやや外傾するものの直線的に立ち上がっている。

周溝は残存する壁の直下で明瞭に検出された。幅10～15cm、深さ5cmほどの溝が壁に沿って弧状に延びている。周溝の底面は一定で、一部に杭穴状の小ビットが重複している。

床面は平坦に整っている。明瞭な硬化面は認められないが、やや白っぽく粘性のある土が床面に広がっており、床面構築に用いられたものである可能性がある。

柱穴はpp37・38の2個が床面から検出されている。本住居跡に帰属する柱穴は本来さらに南側に配置されていたはずであるが、床面はR A15・16によって大きく掘り下げられており、これらの構築時に多くが失われたものと見られる。

〔炉跡・焼土〕

住居内から炉跡・焼土は確認されなかった。炉跡は新期住居の構築により失われた可能性が高い。

〔重複〕

R A16竪穴住居跡・R A15竪穴住居跡・R F02焼土・R D15陥し穴・R D13土坑より古い。

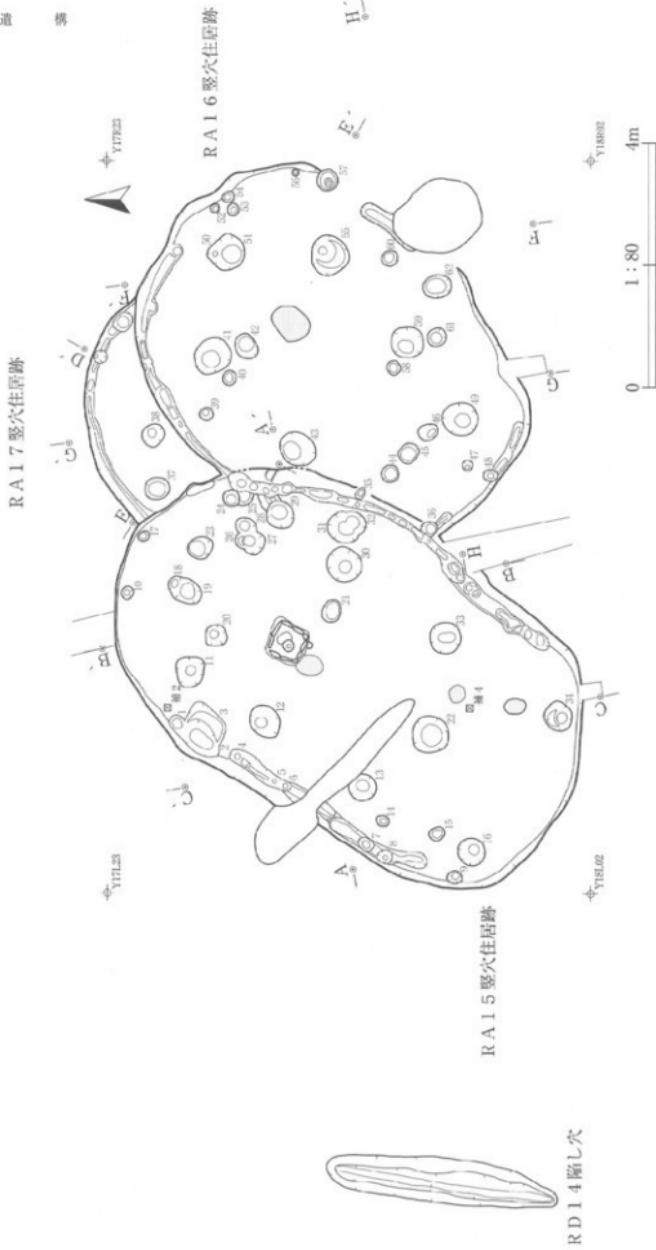
〔出土遺物〕（第44・45図、写真図版33・34）

＜土器＞ 埋土および床面からII群土器が出土している。周溝から90の小形深鉢、床面から91の深鉢の小破片が出土した。

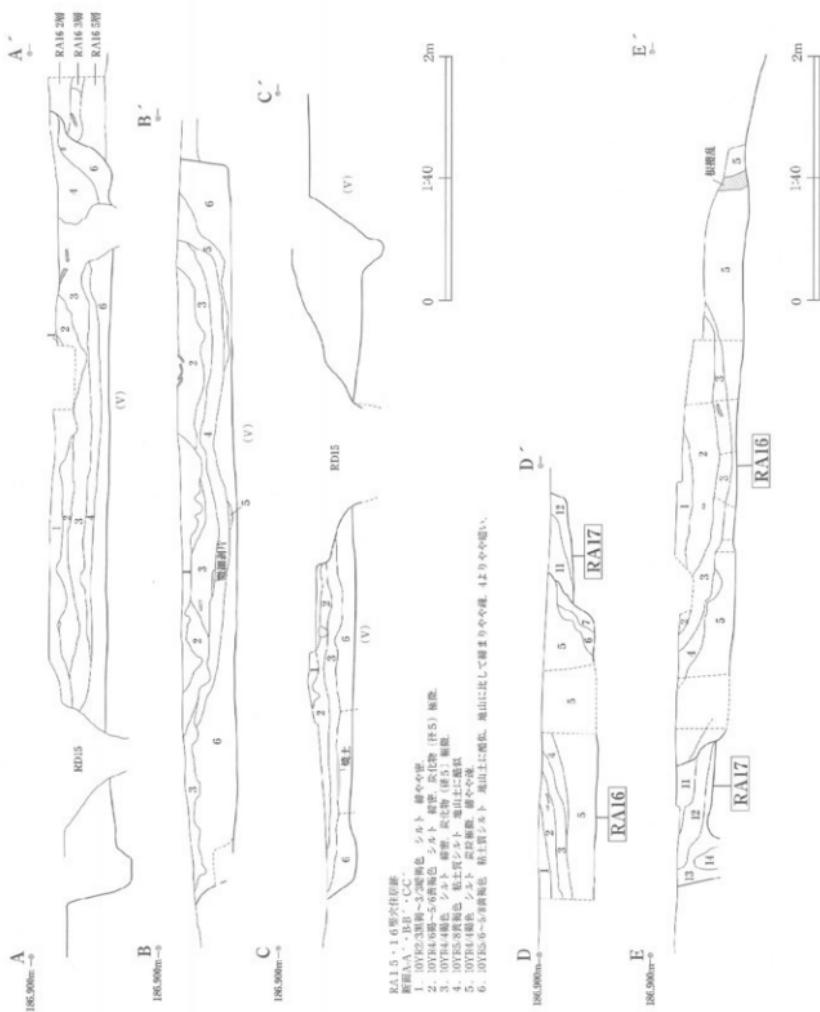
＜石器＞ 尖頭器・石鏃・スクレイバーが出土した。

〔遺構の時期〕

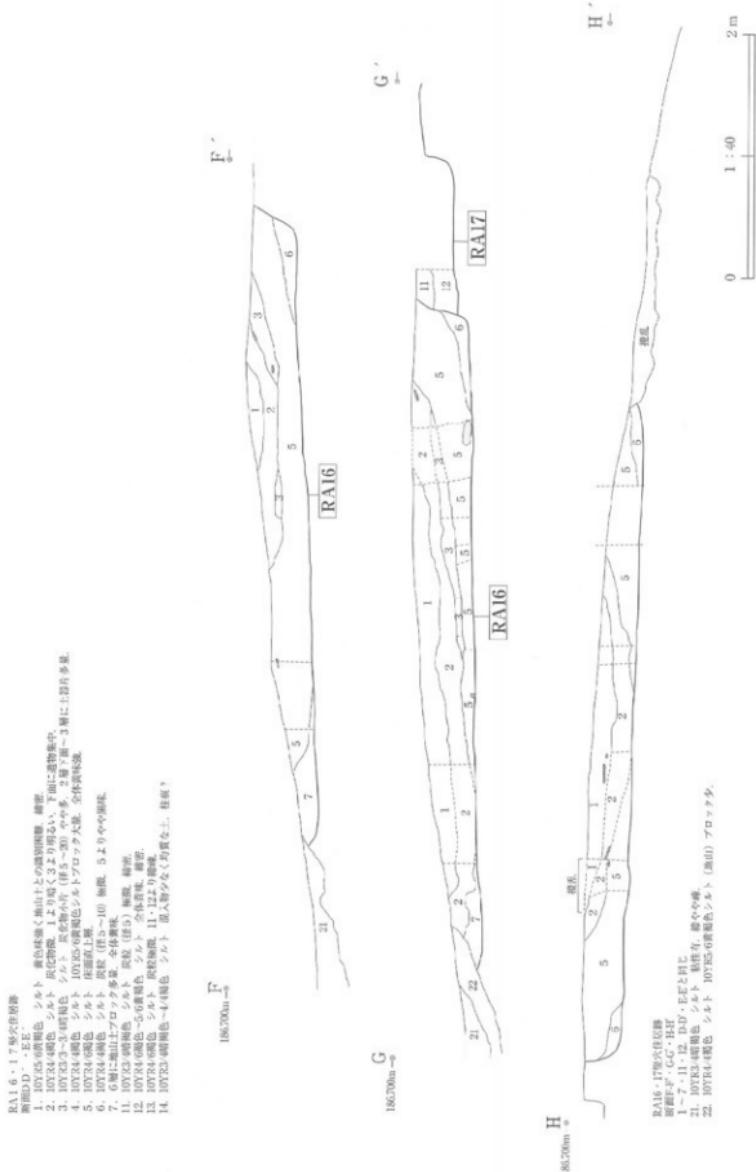
出土遺物から縄文時代中期中葉に帰属すると思われる。



第5図 RA15・16・17竪穴住居跡平面図



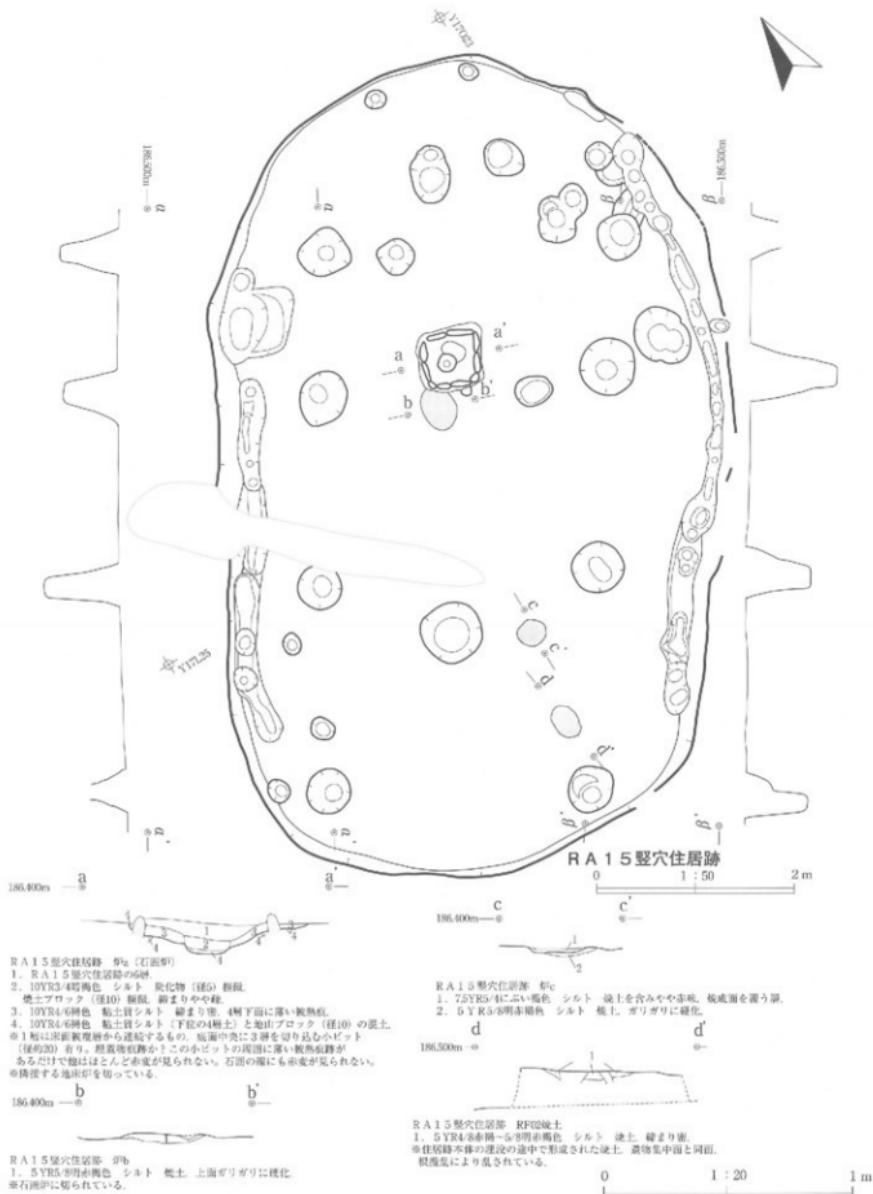
第6図 RA 15・16・17 竪穴住居跡断面図 (1)



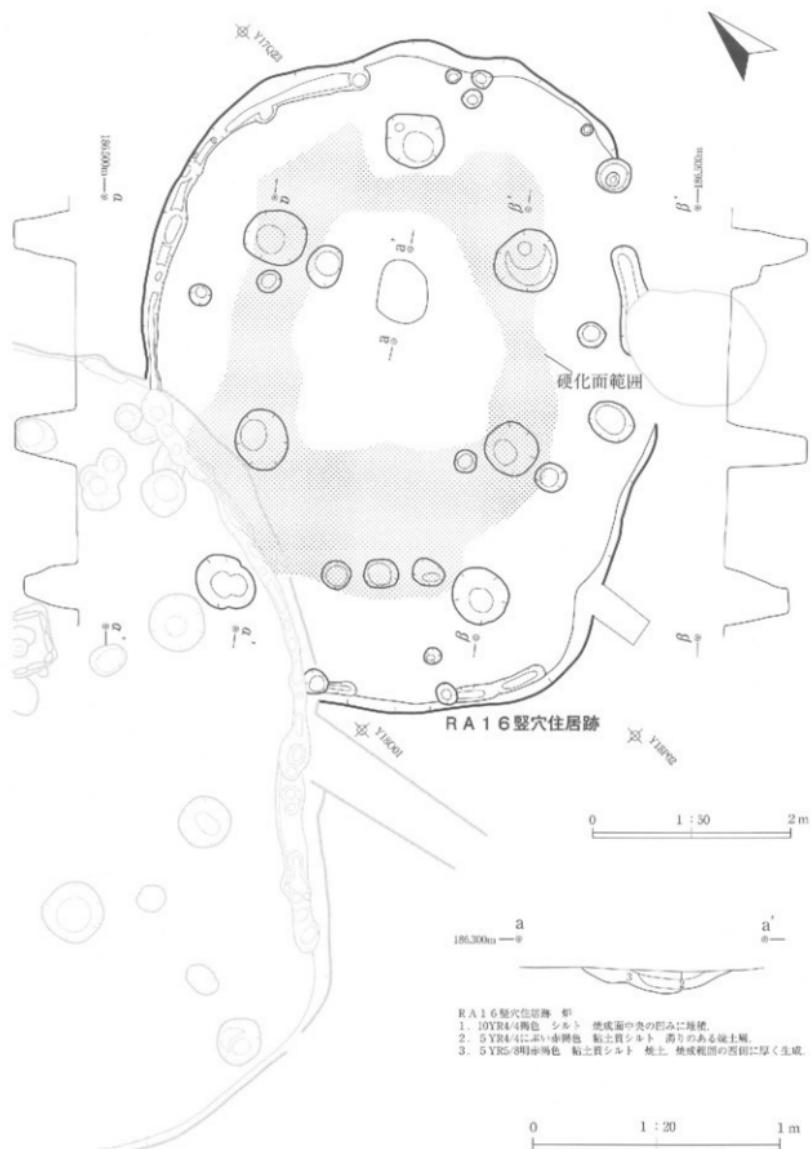
第7図 RA15・16・17壁穴住居跡断面図(2)



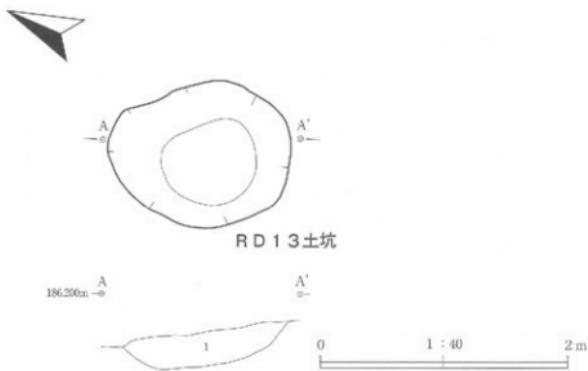
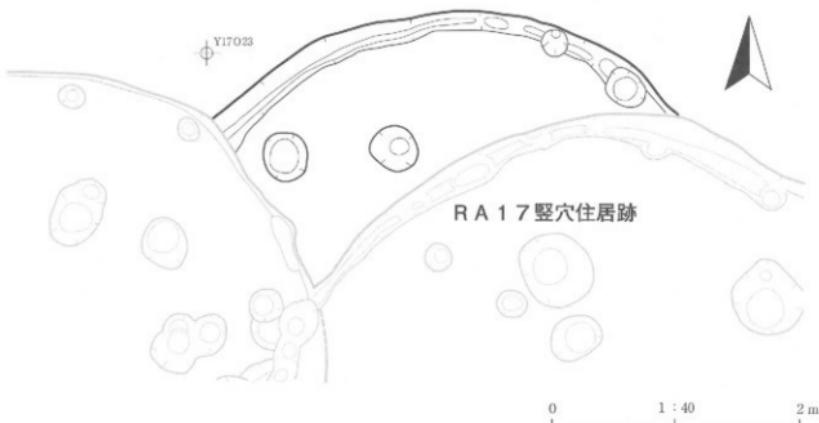
第8図 RA 15・16・17竪穴住居跡遺物出土状況



第9図 RA 15 竪穴住居跡



第10図 RA 16 壁穴住居跡



RD 13 土坑  
I. 10Y3/4暗褐色 シルト 塗色土ブロック少、炭化物数(径5mm)多。  
※人為堆積と思われる。

第11図 RA 17 壇穴住居跡・RD 13 土坑

## (2) 土坑

## R D 1 3 土坑 (第11図、写真図版9)

## 〔位置・検出状況〕

調査区中央部、Y17Q25グリッドに位置する。R A16竪穴住居跡の床面精査の際に、当該住居跡の東壁側の周溝に重複する暗褐色土の円形範囲として検出された。

## 〔規模・形状〕

開口部は148×120cmの楕円形で、底面までの残存深度は28cmである。

## 〔埋土と堆積状況〕

暗褐色シルトを主体とし、Ⅲ層土類似の褐色土ブロックを全体に含む。褐色土ブロックは底面や壁際に偏ることなくほぼ均質に含まれていることから、人為的に埋められた可能性がある。

## 〔重複遺構〕

R A16竪穴住居跡より新しい。

## 〔出土遺物〕

なし。

## 〔遺構の時期〕

埋土の様相から縄文時代中期中葉に帰属するものと考えられる。

## (3) 陥し穴

## R D 1 4 陥し穴 (第12図、写真図版9)

## 〔位置・検出状況〕

調査区中央部、Y17J25～Y18J02グリッドに位置する。V層上面において黒褐色土の明瞭な長梢円形の範囲として検出された。

## 〔規模・形状〕

開口部の平面形は385×74cmの不整長梢円形で、底面までの残存深度は126cmである。壁面は下半部がほぼ垂直であるのに対し、上半部が外反気味に大きく開いている。底面は全体的に平坦で両端のみ僅かに低くなっている。底面に小穴等は認められなかった。

## 〔埋土と堆積状況〕

最下部及び最上部には埋没時の表土とみられる黒褐色土が堆積するが、遺構内の大半は壁面崩落土と思われる地山V層類似の黄褐色土によって埋没している。

## 〔重複遺構〕

なし。

## 〔出土遺物〕

埋土からⅡ群土器が数片出土している(19-101～103)。

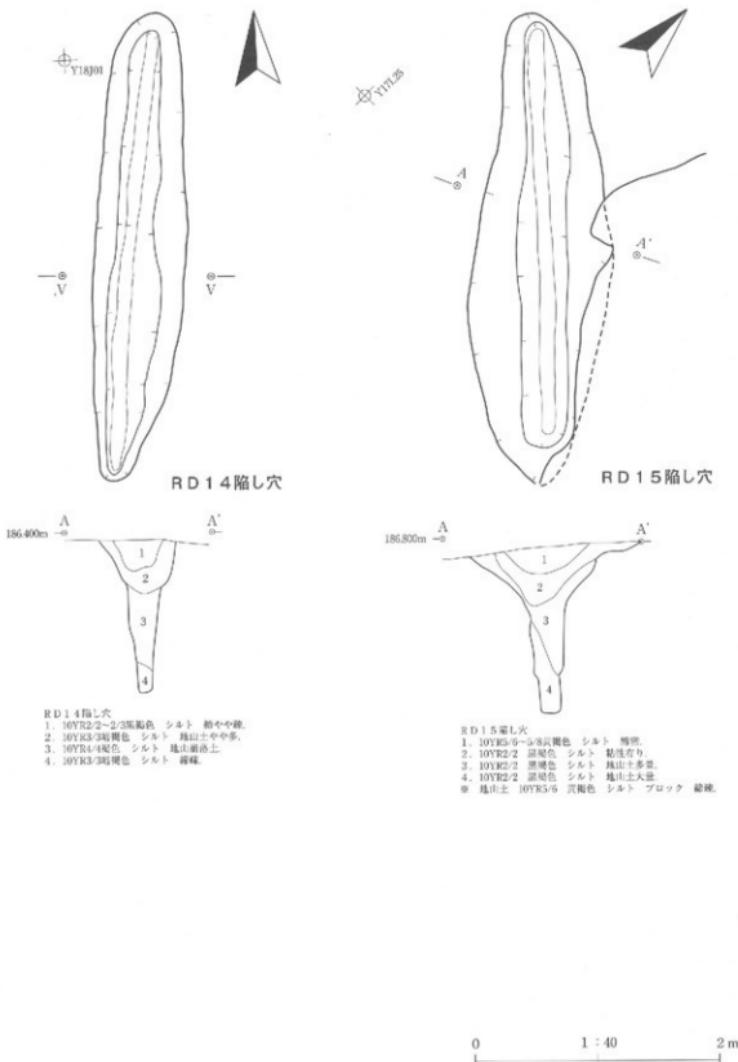
## 〔遺構の時期〕

形態と埋土の様相から、R D15と同時期と考えられる。

## R D 1 5 陥し穴 (第12図、写真図版9)

## 〔位置・検出状況〕

調査区中央部、Y17L24～Y17M25グリッドに位置する。V層上面において黒褐色土の明瞭な長梢



第12図 RD 14・15陥し穴

円形の範囲として検出された。

〔規模・形状〕

開口部の平面形は388×122cmの不整長楕円形で、底面までの残存深度は142cmである。壁面は下半部がほぼ垂直であるのに対し、上半部が外反気味に大きく開いている。底面は全体的に平坦で両端のみ僅かに低くなっている。底面に小穴等は認められなかった。

〔埋土と堆積状況〕

埋没時の表土とみられる黒褐色土が埋土の主体上であるが、遺構内の大半は壁面崩落土と思われる地山V層類似の黄褐色土によって埋没している。

〔重複遺構〕

なし。

〔出土遺物〕

埋土からⅡ群土器が数片出土している(19-104~107)。

〔遺構の時期〕

R A15より新しい、縄文時代中期中葉以降に属すると考えられる。

#### (4) 焼土遺構

##### RFO2焼土(第9図・写真図版3)

調査区中央部、Y18M01グリッドに位置する。R A15堅穴住居跡の精査の過程において、南端部付近の埋土から検出された。平面形は36×28cmの楕円形、中央部での焼土の厚さは約4cmである。全体が根掘乱によって乱されている。焼土の絡まりは密で燃焼部上面はやや硬化している。

同一面からは投棄されたと思われる土器等の遺物が多量に出土している。層位的事実や出土遺物から縄文時代中期中葉に帰属するものと考えられる。

#### (5) 捨て場(遺物包含層)

捨て場は、調査区の尾根頂部東部から南東に形成されたY17Y19~Z17L20グリッドに位置する斜面地で検出された。調査区東部の斜面は南東方向に向かって傾斜しており、高低差は東部5区と東部2区とで約1.5m、最東端の1区では、現地表面からの深さが約3.5mとなっている。遺物量は東部(斜面下方)に向かって多くなる。

調査区は尾根縁部の斜面を斜めに横断しており、さらに幅2mという狭い調査範囲であったため、捨て場全体の堆積状況を把握することは困難であった。しかし、個別の地点における土層の堆積状況は比較的明瞭に把握でき、遺物の面的な上下関係を捉えることができた。

調査区南東の捨て場(調査区中央東部)はY17T24~Y17W24グリッドにかけて大きく搅乱されており、Y17V22~Y17X23グリッドと、調査区南東コーナーのY17X24グリッドにかろうじて搅乱をまぬがれた部分が検出された。搅乱のないところは調査区東部の捨て場とはほぼ同様の堆積状況であった。

①捨て場の区割

調査区東部は、精査の初段階において、斜面に沿って多量の遺物が層位的な上下を保って堆積している可能性が高いと思われた。調査区が細長い東部斜面では、傾斜方向に合わせた堆積状況の観察を行うため、グリッドとは軸の異なる区割を設定した。調査区に沿って5mごとに任意の区画を設定し、東側から東部1区・2区・3区・4区・5区という区割りを設定し、遺物を取り上げた(第4図)。

調査区中央東部から出土した遺物は、グリッドごとに遺物を取上げた。

### ②遺物出土状況と取り上げ方法

調査区東部の精査において、まず東部2・3・4区で遺物の集中が面的に広がる箇所（復元可能な単一個体または同時廃棄による複数個体のまとまり）が3箇所検出された。この3つのグループのうち、一番東側のグループは黒褐色土、他の2つのグループは黄褐色土に遺物が包含されており、それぞれのグループを「黒褐色土層」（東部2区）、「黄褐色土層上面」（東部3区）、「黄褐色土層下面」（東部3・4区）出土遺物として一括して取り上げた。遺物を取上げた後、黒褐色土層（東部2区）を掘り下げた結果、その下に東部3区と同様の黄褐色土に包含された遺物集中面が検出され、黒褐色土と黄褐色土の層序を確認することができた。さらに黄褐色土層を掘り下げると、黄褐色土上面で検出されたものとは異なる黒褐色土が見られ、これを「黄褐色土下位黒褐色土層」、先の黄褐色土より上位の黒褐色土を「黄褐色土上位黒褐色土層」と区別して、遺物を取上げた。「黄褐色土下位黒褐色土層」以下は、ほとんど遺物が出土しなかった。

後に「黄褐色土上位黒褐色土層」をⅡ層、「黄褐色土層」をⅢ層（「黄褐色土層上面」をⅢ層上面、「黄褐色土層下面」をⅢ層下面として細分）、「黄褐色土下位黒褐色土層」をⅣ層と、名称を整理した。

この土層堆積状況は調査区中央東部にも認められ、同じ層序で取り上げた。

Ⅲ層は遺物集中面を上面、下面に分けて遺物を取り上げた。その後調査区東部の基本層序を検討した結果、Ⅲ層が2つに分層できることがわかり、それぞれⅢa層・Ⅲb層と名づけた。ただし、基本層序におけるⅢa層・Ⅲb層が遺物取り上げの際に便宜的に用いた「Ⅲ層上面・下面」の呼称に対応するものではないことに留意されたい。

### ③捨て場の形成時期と集落について

今次調査で検出した捨て場の形成時期は出土土器から縄文時代中期中葉に位置づけられる。この地点は第1次調査において同時期の捨て場が確認された地点（第1次調査B区）に隣接しており、両者は連続するものとみられる。

また、調査区中央部に分布する住居跡や第1次調査A区で確認された住居跡は捨て場形成時期と同時期のものであり、これらの住居によって構成された集落に伴う捨て場であったと理解される。

### 3 遺物（表3～5・第13～32図・写真図版12～34）

#### （1）縄文土器

出土した遺物の総量は大コンテナ25箱分である。遺構内出土土器は主に竪穴住居跡の埋土から、遺構外としたものは調査区東部の斜面に堆積していたⅢ層（Ⅲa層）から出土したものが大半を占めている。調査区中央部の竪穴住居跡や西側斜面地では、遺物が少なかった。また、西側斜面地は大きな擾乱を受けており、出土層位を把握することができなかった。

出土土器の主体は縄文時代中期に位置づけられ、縄文時代早期の土器も若干出土している。分類については松屋敷遺跡第1次調査のものを参考に、早期の土器を第I群、中期の土器を第II群とし、さらに小分類を1類・2類・・・、a類・b類・・・として記載した。

#### 第I群土器

縄文時代早期に属する土器群である。

本調査で出土した第I群土器は6点のみで、全て小破片である。口縁部破片の2点は斜位（左下り）の貝殻復縁文を地文とし、口縁部に横走する刺突文が施される（1・2）。体部破片には斜位（左下り）の貝殻腹縁文を地文とするもの（3・5・6）や貝殻腹縁文を矢羽状に施したもの（4）がある。

#### 第II群土器

縄文時代中期に属する土器群で、器形や文様要素の違いから以下のように細分した。

##### ・ II群1類

円筒上層式またはその影響が顕著に見られるもので、器種は深鉢がある。文様の特徴から、①口唇部に原体圧痕が施された波状隆帯があり、口縁部に爪形の原体圧痕が施されるもの（73・116・119・256）、②波状口縁の頂部から垂下する2条の隆帯文と、曲線状の隆帯文が施されるもの（117・128・191・250・252）、③細い弧状の隆帯文が施されるもの（43・147・158）、④細い弧状の沈線文が施されるもの（33・157・207・209）に細分される。それぞれ①円筒上層b式、②円筒上層c式、③円筒上層d式、④円筒上層e式に相当すると考えられる。

その他、円筒上層式と大木式を折衷した様なもの（II群2類74）や、装飾の一部にその影響を受けたと見られるもの（72・123の口唇部装飾）がある。

##### ・ II群2類（大木7b式）

原体圧痕文を多用して文様が施される土器群である。器種には深鉢と浅鉢がある。深鉢はキャリバー形を呈するものがあるが、屈曲が弱い。ほとんどが平縁で、弁状突起や山形突起が施されるものがある。文様は口縁部に集約される傾向があり、原体圧痕のみで文様が施されるもの、隆帯に沿って原体圧痕が施されるもの（8・142）、隆帯により文様が区画されるもの（153・154）がある。体部には綾格文（153）や羽状縄文（206）が見られる。

浅鉢は平縁と波状口縁のものがある。また底部に段が付く特徴が見られる（122・253・257・258）。口縁部に文様が施されるものが多く、波状・ループ状の原体圧痕文（118など）やボタン状貼付（270など）が見られる。体部文様には隆帯文（258）・沈線文（188）・原体圧痕文（219）などがある。

##### ・ II群3類

隆帯・沈線・隆沈線により文様が描かれる土器群である。器種は深鉢と浅鉢のほかに、コップ様の鉢（41）がある。

深鉢はキャリバー形のもの（7など）、口縁部が内傾するもの（15・79など）、外反するもの（14・86など）があるが、キャリバー形のものが主流である。口縁部形態は平縁と波状口縁（237・264）がある。平縁には4単位の弁状突起が施されるものが多く（78・129・145など）、その他の口縁部装飾としては、S字状隆帯の貼付（15）、三角状突起（135）、波上隆帯文（74・86など）がある。文様は口縁部に集約され、特に平縁でキャリバー形のものにその傾向が顕著である。口縁部の文様は、隆帯・沈線・隆沈線により山形波状文（13・23など）・旭曲文（7・129など）・渦状文（28・56など）などのモチーフを描き、これらを組み合わせて用いている。特に山形波状文と渦状文の組み合わせが多い傾向にある。文様の上下端の接点には、貼付突起や縦位の刻み日が施されるもの（7・27・129など）がある。原体圧痕文も見られるが、文様モチーフの主体とはならない（135・243など）。体部文様は隆帯文（15・79・220）、隆沈線（86・152）、沈線（148）により、口縁部とは趣の異なる幾何学的なモチーフが描かれる。地文は口縁部文様帶では横回転、体部では縦回転で施される傾向がある（27・28など）。地文は、口縁部は横回転、胴部は縦回転に施されるものが多い。

浅鉢は平縁で、口縁部に文様が集約するものと体部にまで文様が広がるもの（22・215・217）がある。文様は隆帯文によるものが主体だが、深鉢に比べると原体圧痕文が多用されている（22・77・214・215）。体部文様には縦位の隆帯文や原体圧痕文が見られる。

#### ・ II 群 4 類

隆帯・沈線・隆沈線により文様が描かれる土器群である。器種は深鉢で、器形はキャリバー形（106・273・282）や口縁部が外傾するもの（25・34・84・287）がある。キャリバー形は平縁、外傾するものは波状口縁で、頸部に無文帯や文様帯をもつもの（25・34・280）、波頂部に渦状文が施されるもの（84）がある。文様モチーフには隆帯文と沈線文による渦文が多用され、隆帯文と沈線文は一体化して調整がなされる。他の類系に比べて胎土や焼成が良い。

#### ・ II 群 5 類

中期に属する粗製の土器、網代痕や木葉痕をもつ底部破片、小形土器、その他全体形をうかがうことはできないが、特徴のあると思われるものを一括した。

網代痕が観察できたのは18・151の底部破片のほかII群2類の206、木葉痕は90の小形深鉢である。深鉢と浅鉢を問わず、土器を仕上げる際には底面から底部直上にかけて調整がなされるものが多く（68・75・80など）、これらの痕跡が残り難かったと考えられる。

小形土器には19・20・46・47・90・136・149・251がある。他の土器に比べて極端に小さいが、成形方法が同じことからミニチュアとは区別される。器種は深鉢と壺形様のものがある。

44はいわゆる器台と呼ばれるものである。粗雑な造りで、器面が粗い。

### （2）土製品

#### ミニチュア土器（291～298）

完形状態の器高及び最大幅が概ね10cmに収まると思われるものを集めた。手捏ね成形によるものが多いが、297は細い粘土紐による輪積み瓶が内外面に明瞭に観察される。295・298は底部を欠損し全体形状は不明であるが浅鉢形を呈すると思われる。このうち298の体部には2つの貫通口が観察される。  
円盤状土製品（299～301）

上器片を素材とし、周縁を打ち欠きや研磨で成形した板状の土製品である。300・301は円形、299は長楕円形を呈する。

その他（302・303）

302は紡錘車様の土製品である。一方が球面状の凸面、反対面が椀状の凹面をなし、凹面上端部と凹面底部を連絡する孔を持つ。孔の周囲や外縁部は丁寧な面取りとナデが施され、全体が曲面で構成されている。両面の一部にはアスファルト様の黒色付着物が残存している。

303は円筒形を呈する土製品の一部とおもわれる。外面は比較的丁寧になでられているが、内面には粘土上の接合部をなで消す縱横の雑な調整が見られるのみである。規則的な輪積み痕は認められず、粘土塊を手捏ねで繕ぎ合わせ成形したものと思われる。

### (3) 石器類

#### 尖頭器 (304~307)

4点登録、2点を図示した。304・305は細長い刃部の下端近くに最大幅を持ち、その直下が窄まって比較的明瞭なくびれをもつ。欠損している下端部には本来茎部があったと思われる。307・308は先の2点に比して幅広で、細部加工未了のまま放棄された未成品と見られる。

#### 石鎌 (308~323)

16点登録、5点を図示した。茎部形状で分類すると、有茎円基6点、有茎平基3点、無茎円基4点、不明3点となる。有茎円基鎌は6点中5点が茎部を欠損、3点にアスファルト様付着物が認められた。他の形態には付着物はみられなかった。

#### 石錐 (324~328)

5点登録、2点を図示した。324・325は剥片の一端に細長い刃部が作り出されたものである。ほかの3点は全体が細長く刃部と摘み部の境界が不明瞭なもので、尖頭器あるいは石鎌に分類すべきものかも知れない。

#### 石匙 (329~334)

6点登録、3点を図示した。329・330は横長の体部をもつ。両面加工による直線的な刃部を持ち、これと直交する方向に延びる摘み部を持つ。331もこれらに似た形状であるが、刃部及び摘み部作出の細部加工が雑であり未成品の可能性が高い。332~334は概ね三角形を呈する素材剥片に部分的に細部加工が施されたもので、石匙製作が意図された未成品とみられる。

#### 石籠 (335~341)

7点登録、5点を図示した。335~337は長さ8cm前後の短冊形を呈する両面加工石器である。両側縁は雑な加工ながら直線的に整えられ、下端部は入念な細部加工により弧状の刃部を形成している。340・341はこれらと同種の欠損個体であろう。338・339は長さ6cm前後とやや小形の長楕円形を呈するもので、縁辺全周の両面に入念な細部加工が施されている。

#### 削器・撃器類 (342~356)

15点登録、3点図示した。素材剥片縁辺の一部または全部に細部加工剥離による刃部が形成されたもののうち、上記の定形石器に分類されなかつたものをまとめた。本来他の器種に帰属させるべき個体が含まれている可能性がある。342は薄い素材剥片の両側縁に連続的な細部加工が両面から施され長軸の一端に尖頭部が作り出されているものである。表裏両面の中央部には広く素材原面が残されている。折損により本来形状が不明だが、幅広の尖頭器または石匙等に分類すべきものかもしれない。

#### 磨敲器類 (357~401)

45点登録、9点図示した。面的な広がりを持つ磨痕・敲打痕や点的な打撃痕の凹部など、使用痕が複合して観察される石器である。凹部を持たないもの (357~382)、凹部を持つもの (393~401)、いわゆる「特殊磨石」(383~392) の3類に分けている。

**石皿・台石 (402~407)**

6点登録、1点図示した。402は周縁に高まりが作り出されている。裏面にも磨り作用による平滑面が認められる。他の個体もやや大きめの自然礫に磨り作用による平滑面や敲打を受けた痕跡が認められるものである。

**石斧 (408~411・420)**

5点登録、4点図示した。401~411は磨製石斧である。全ての面に研磨による擦痕が認められる。このうち411は欠損個体であるが、おそらく本来形状の長軸（正中線）上の表裏に、擦り切りによる溝が形成されている。420は打製石斧である。

**棒状石製品 (412~414)**

3点登録、全て図示した。細長く扁平な素材礫に打ち欠きや研磨を加え整形したものである。

**その他 (415~419)**

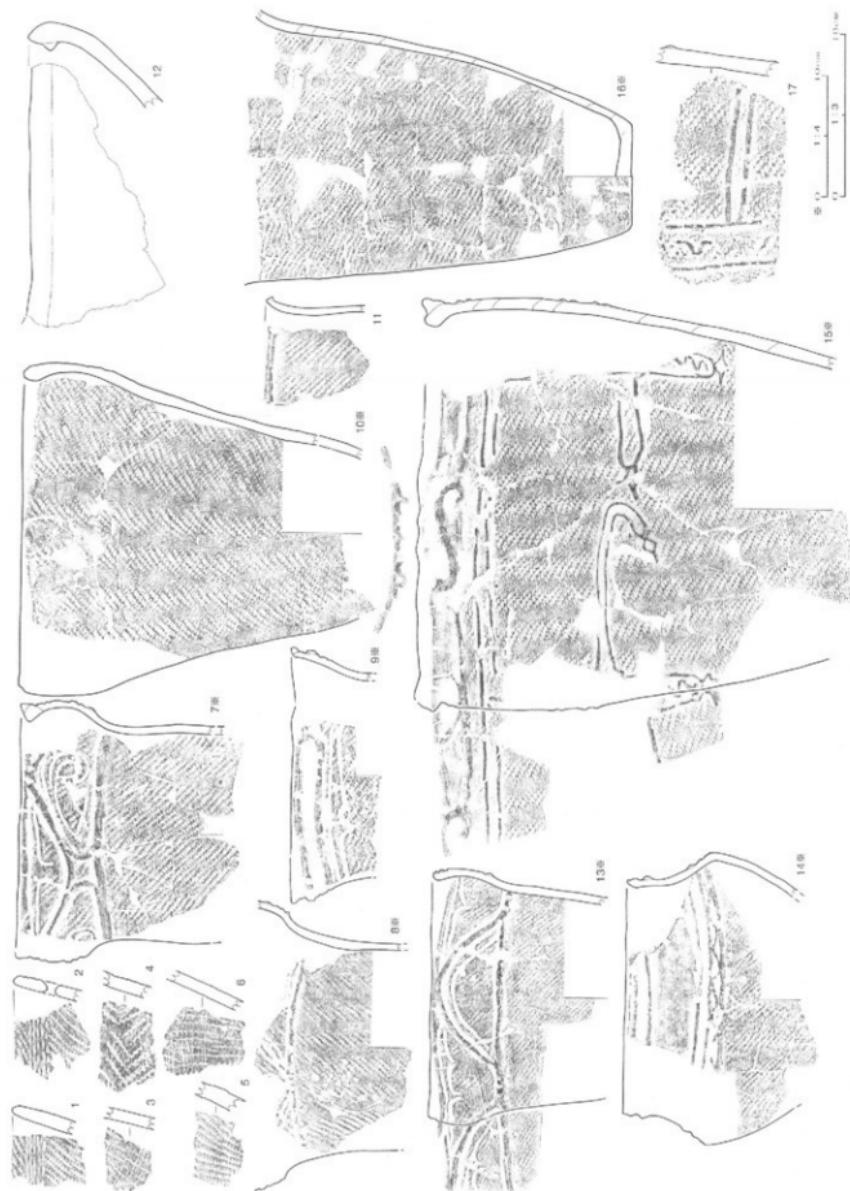
415は凝灰岩製の石製品である。石斧の基部に良く似た成形がされているが欠損品のため原形は不明である。

416はいわゆる三角彫形石製品である。研磨によって成形されているが、表面には磨痕・敲打痕・円錐状の凹部など、磨礫器と同様の使用痕が認められる。

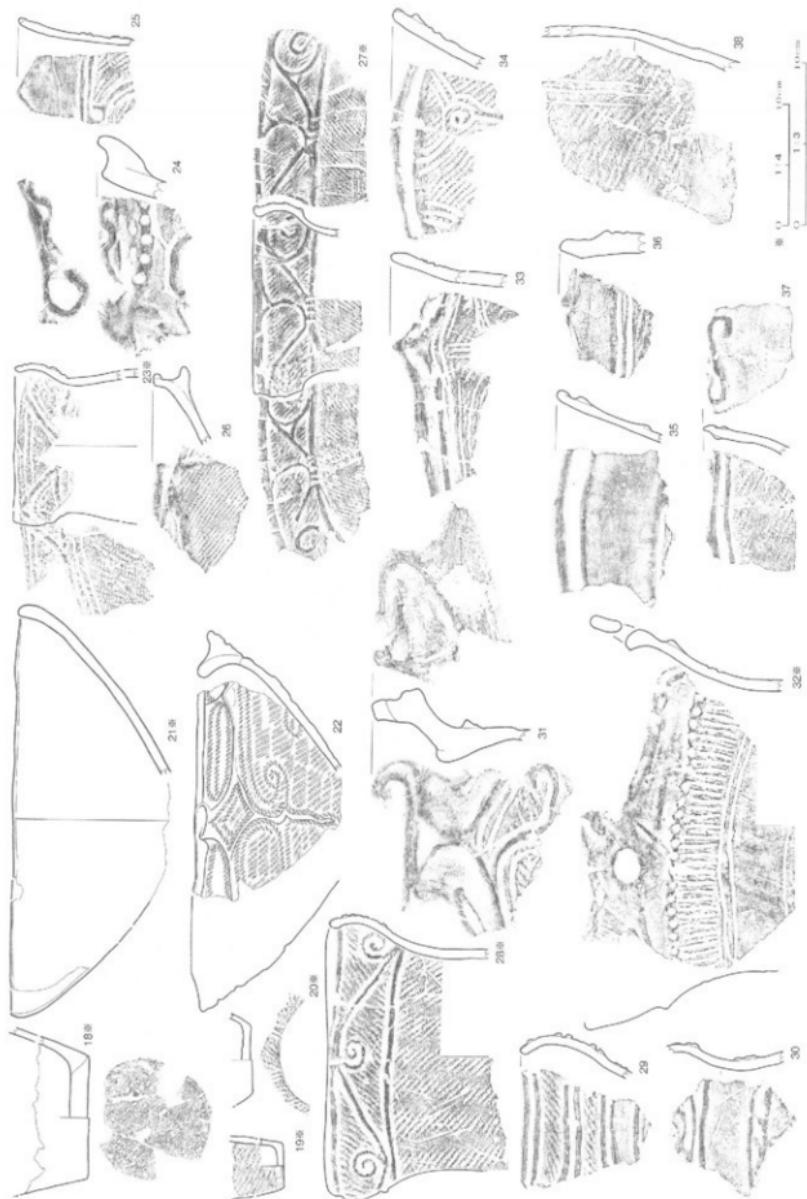
417はRA15埋土から集中して出土した微細剥片である。写真のみ掲載した。採取した総量は53.7gだが、周辺土壤に紛れて拾い漏らしたものがある可能性は高い。全て奥羽山脈産頁岩で、母岩は少なくとも4種ある。大きさはいずれも長さ・幅が20mm以下で、打瘤を残す最小個体は5mm四方程度である。二次的加工や使用痕を持つ個体は含まれていない。石器の細部加工段階で生じた微細剥片(屑片)が集められたものと思われる。

418はコ Hak である。保存のため乾燥重量は計測していないが、出土総量は直径80mmのシャーレに適量入れた状態で約10個分となり、このうちの一部を写真掲載した。大半が微細な欠片だが、わずかに含まれる玉状の個体は加工を受けている可能性が高い。玉状の個体は20×10mmほどの楕円球状を呈するものが多く、その欠損品と見られるものも複数認められる。

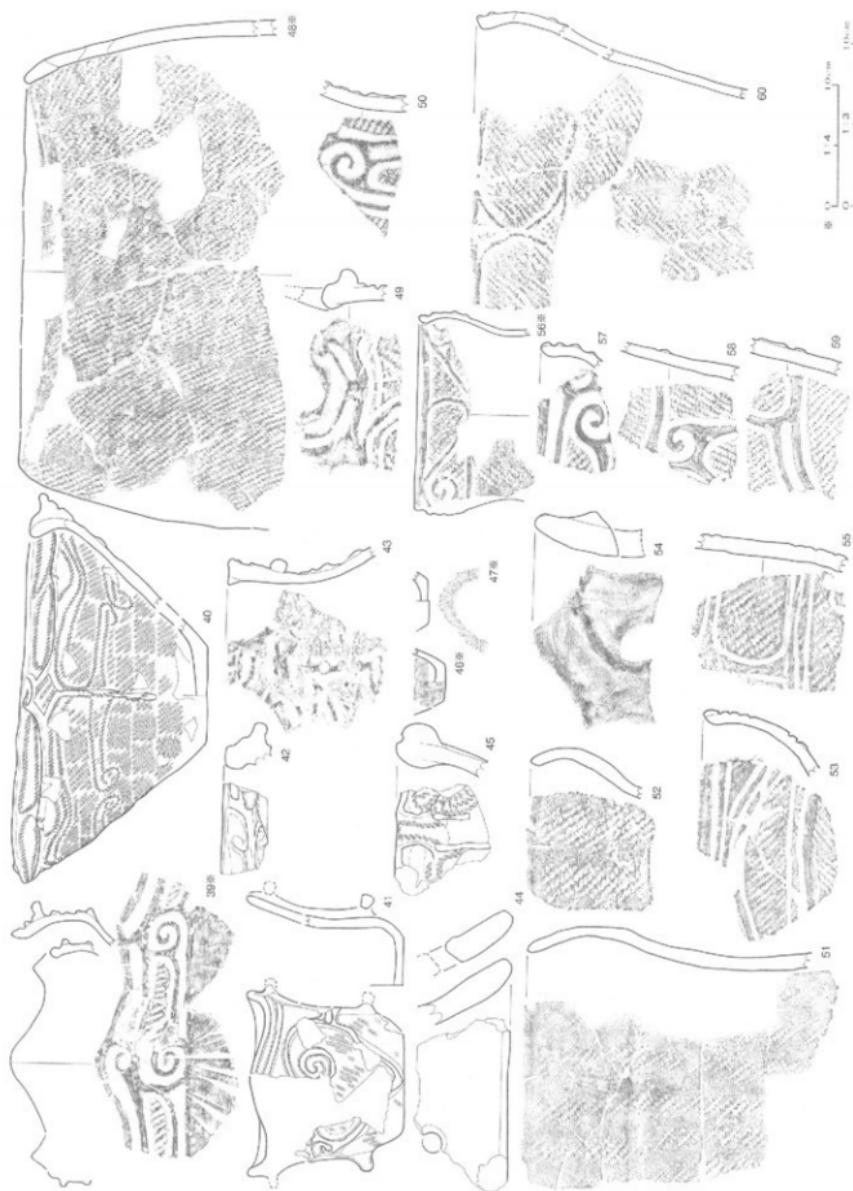
419はメノウの原石である。加工痕はないが滑らかで光沢のある美しい個体である。住居埋土からの出土であることから特に登録したものである。



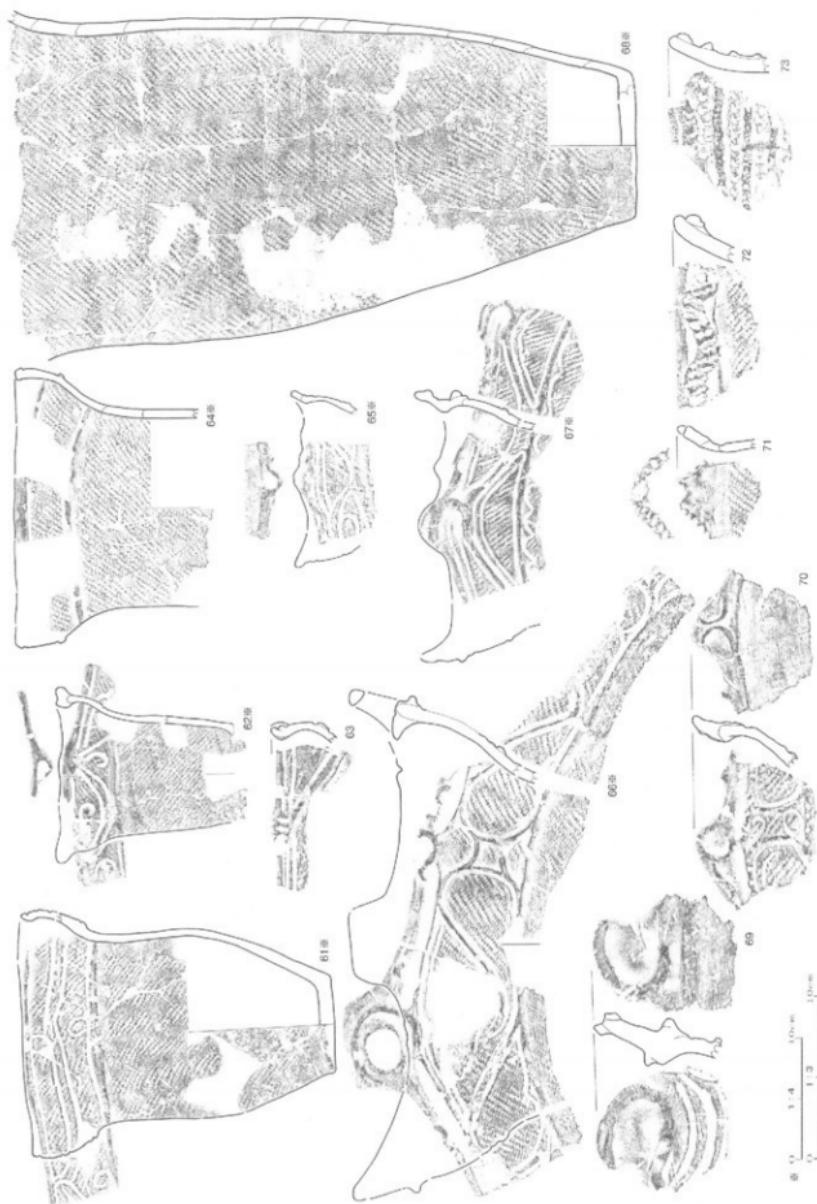
第13図 出土遺物（1）



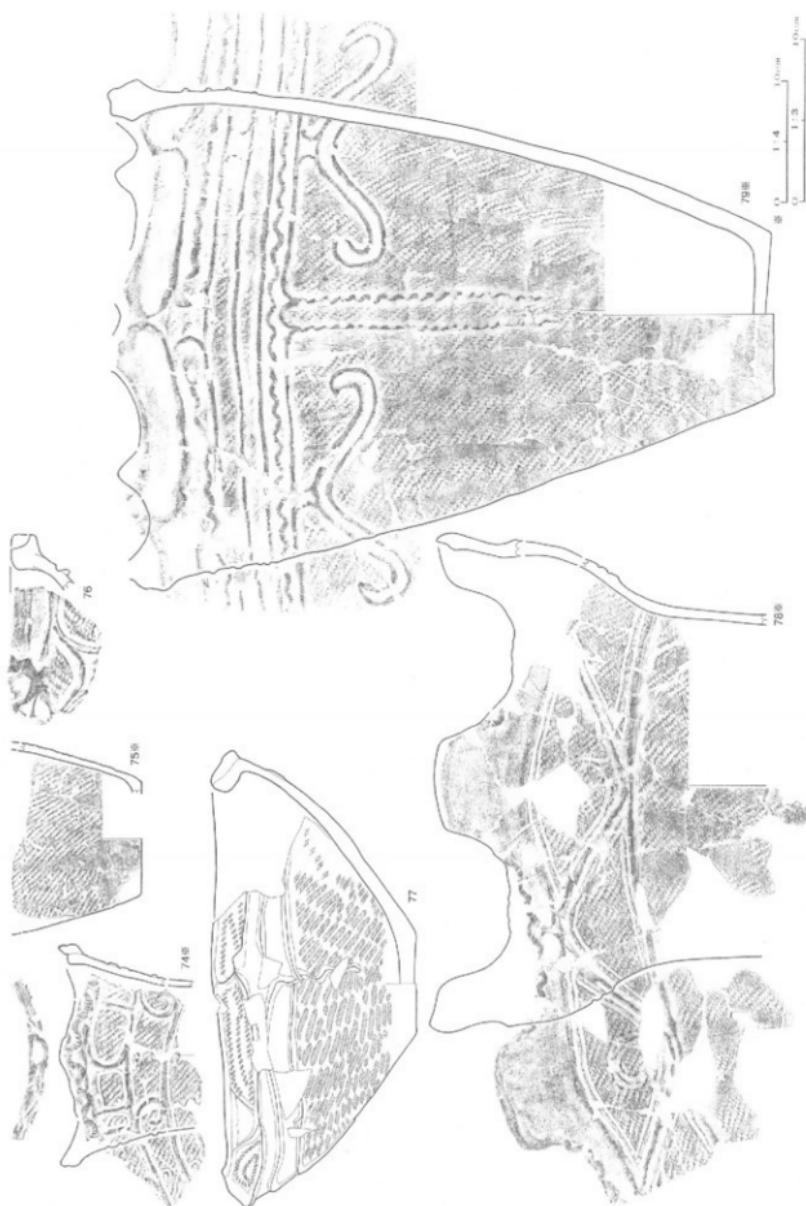
第14図 出土遺物（2）



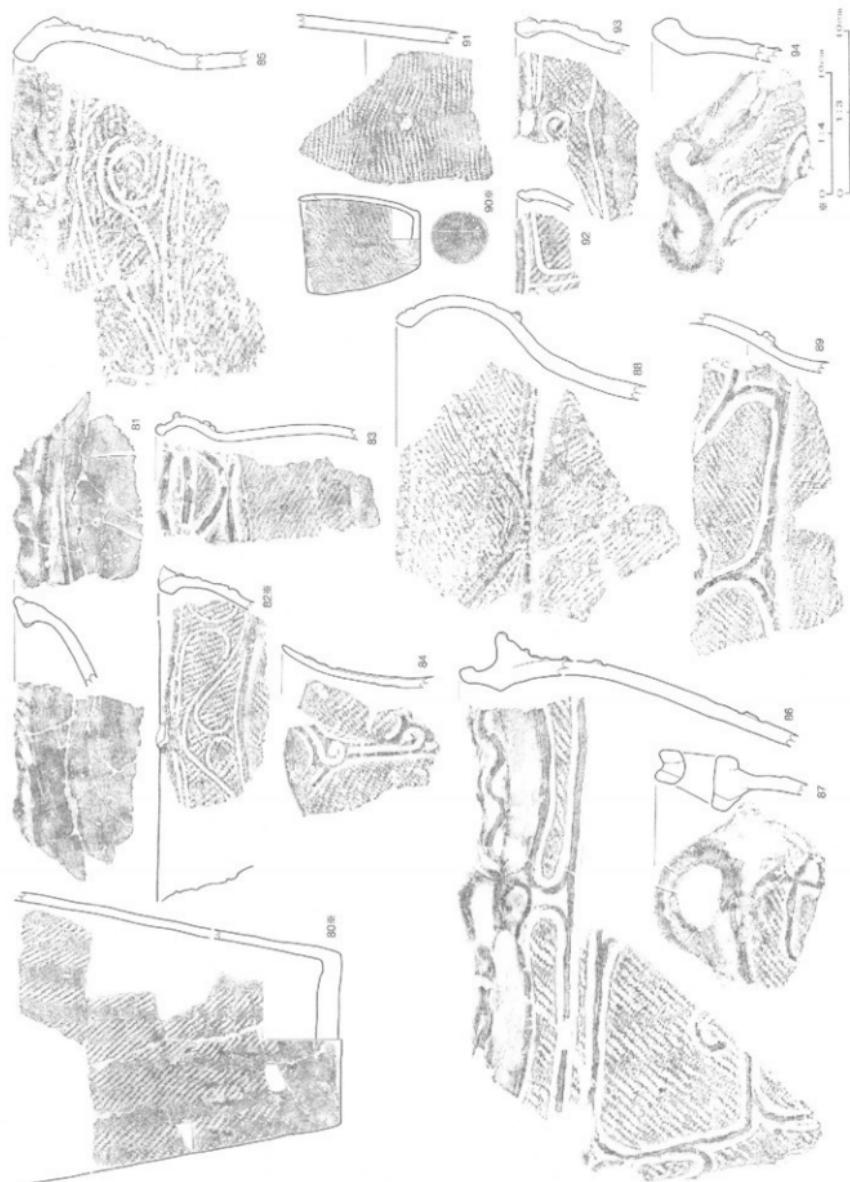
第15図 出土遺物 (3)



第16図 出土遺物 (4)



第17図 出土遺物（5）



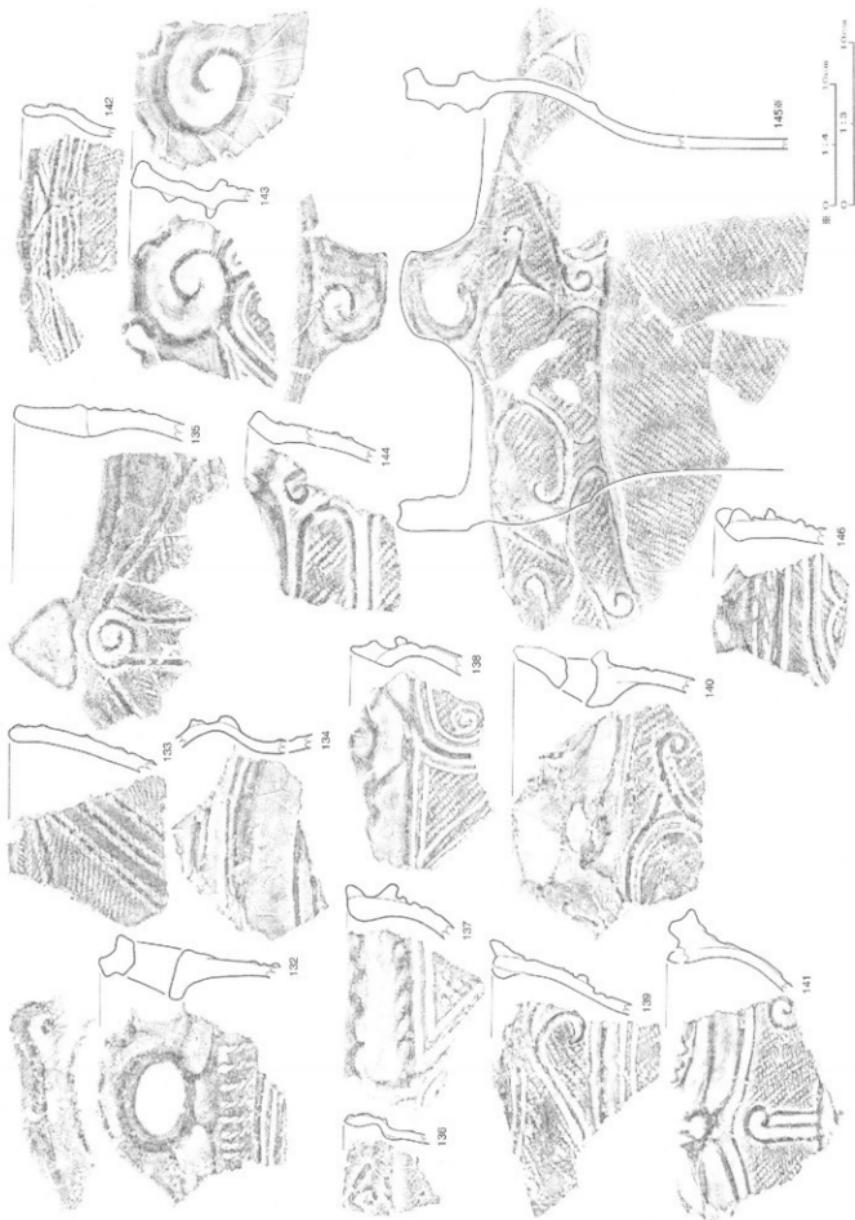
第18図 出土遺物 (6)



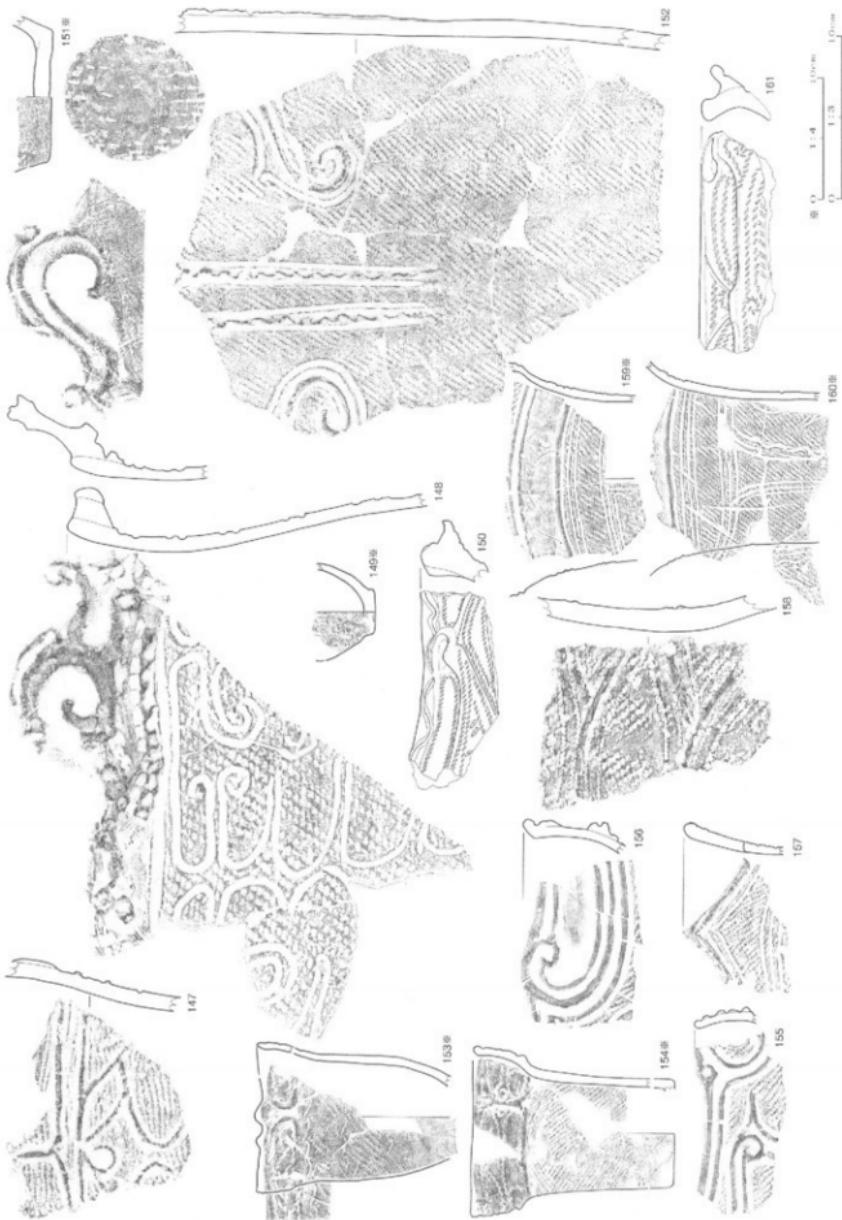
第19図 出土遺物（7）



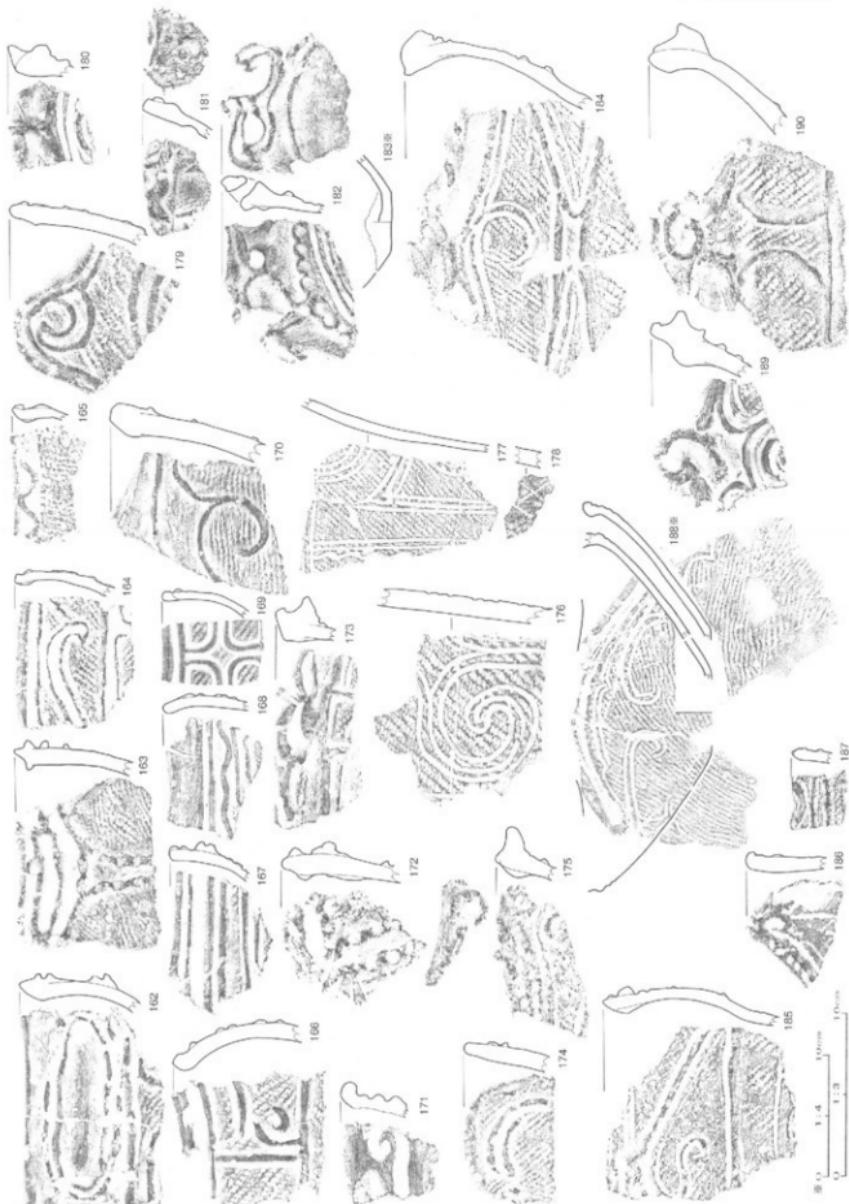
第20図 出土遺物 (8)



第21図 出土遺物（9）



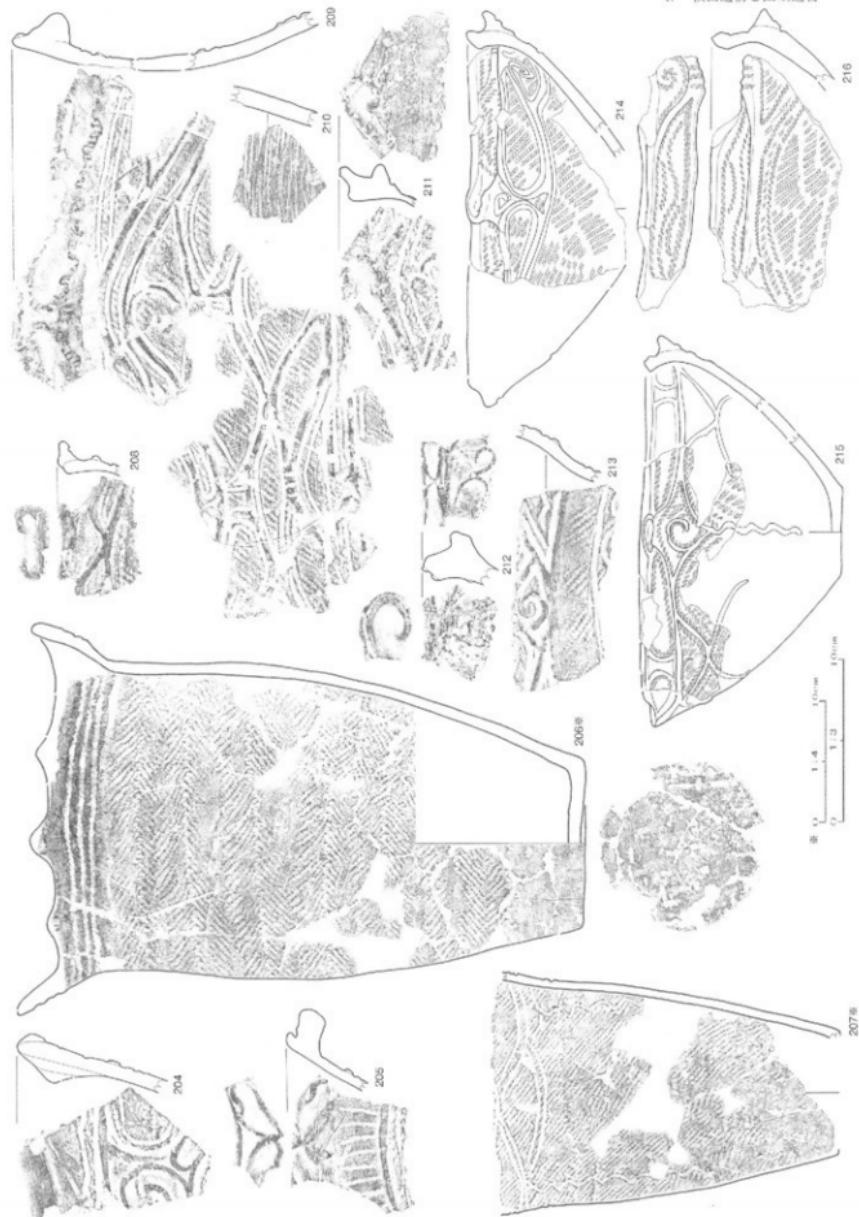
第22図 出土遺物 (10)



第23図 出土遺物 (11)



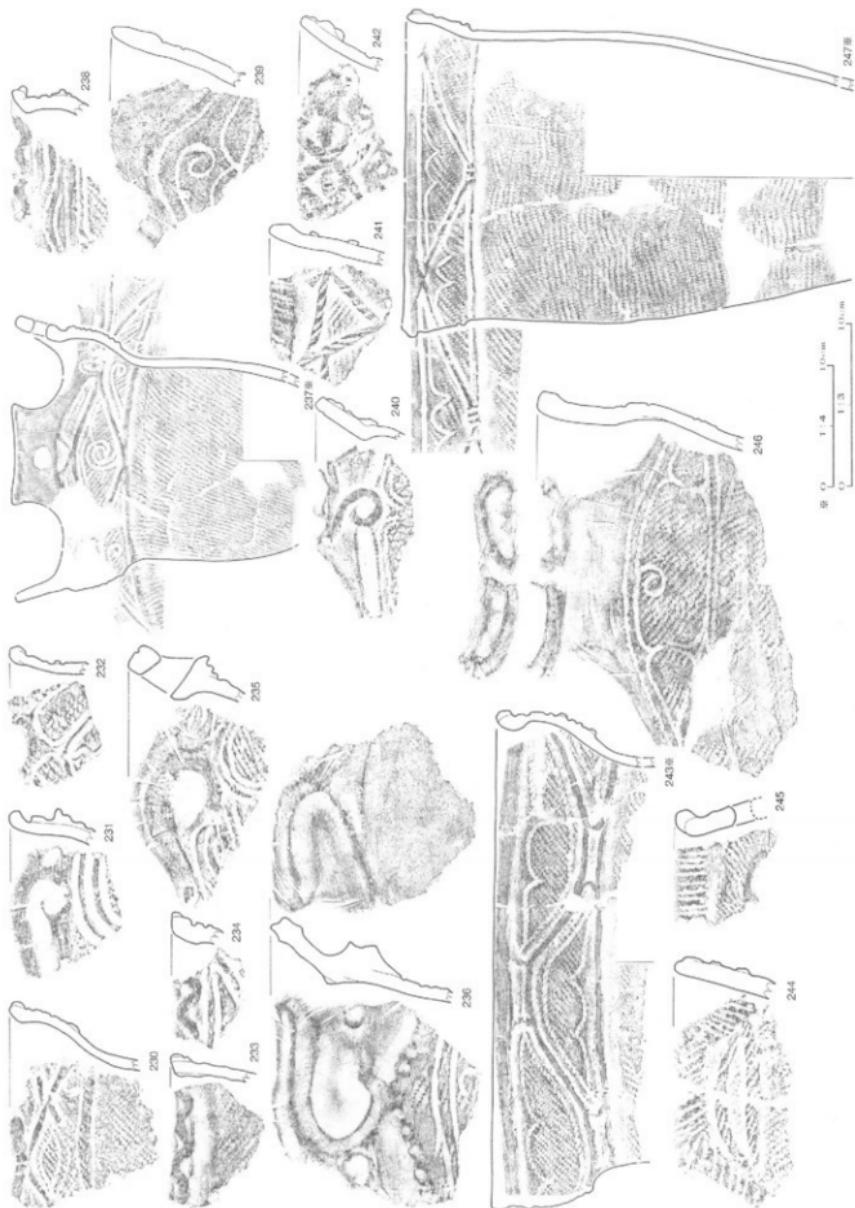
第24図 出土遺物 (12)



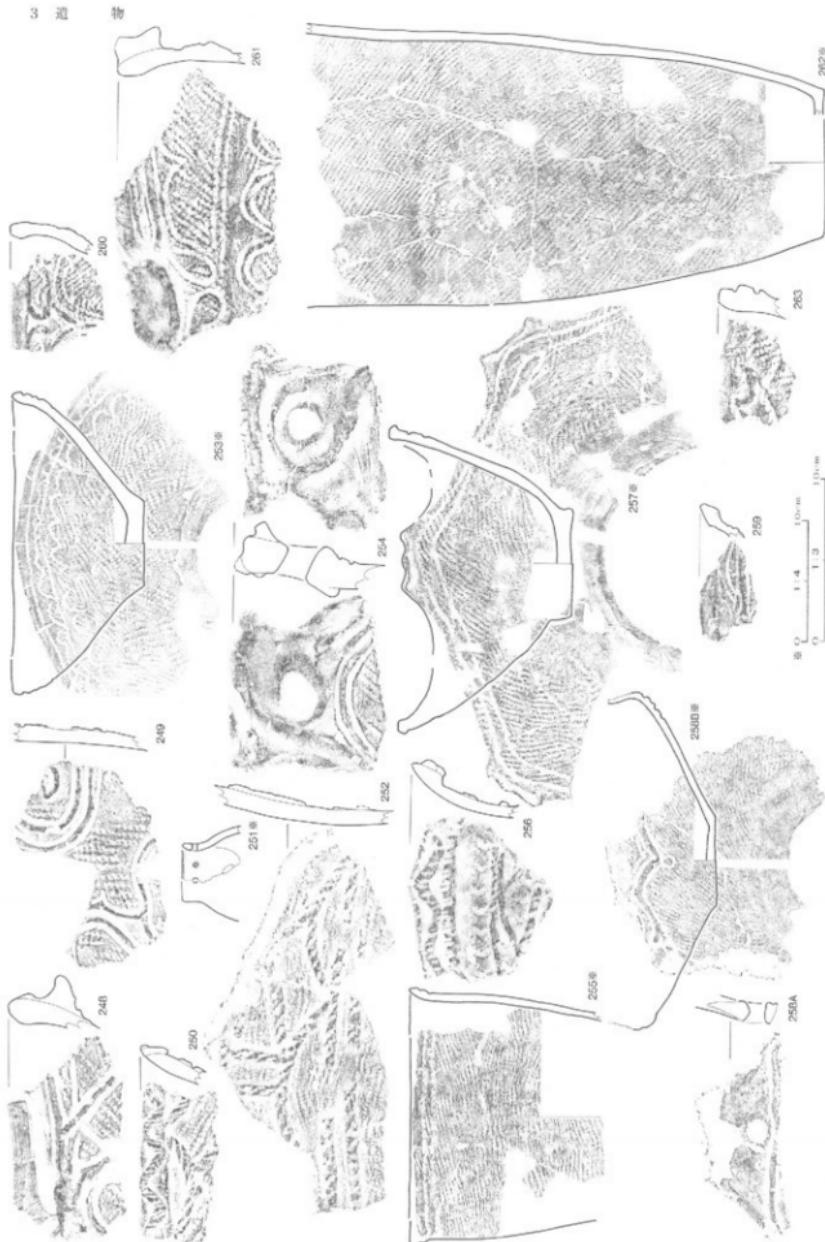
第25図 出土遺物 (13)



第26図 出土遺物 (14)



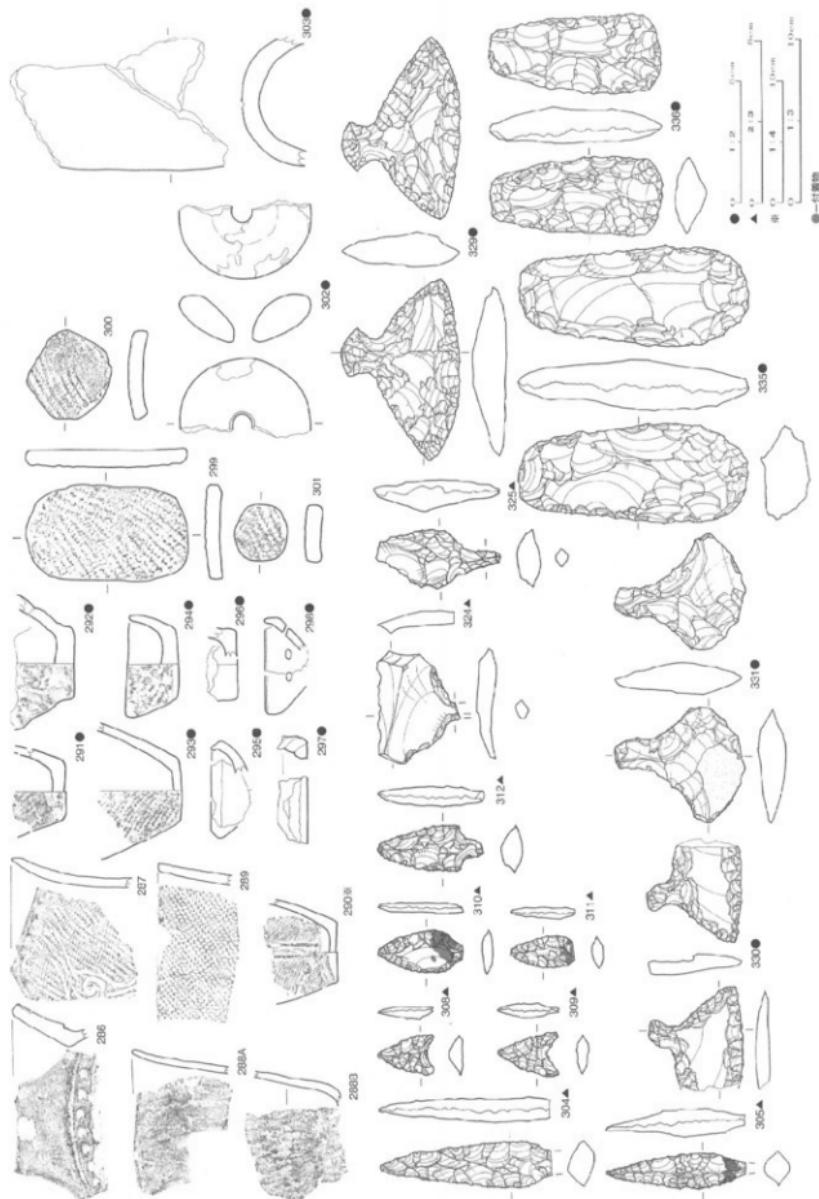
第27図 出土遺物 (15)



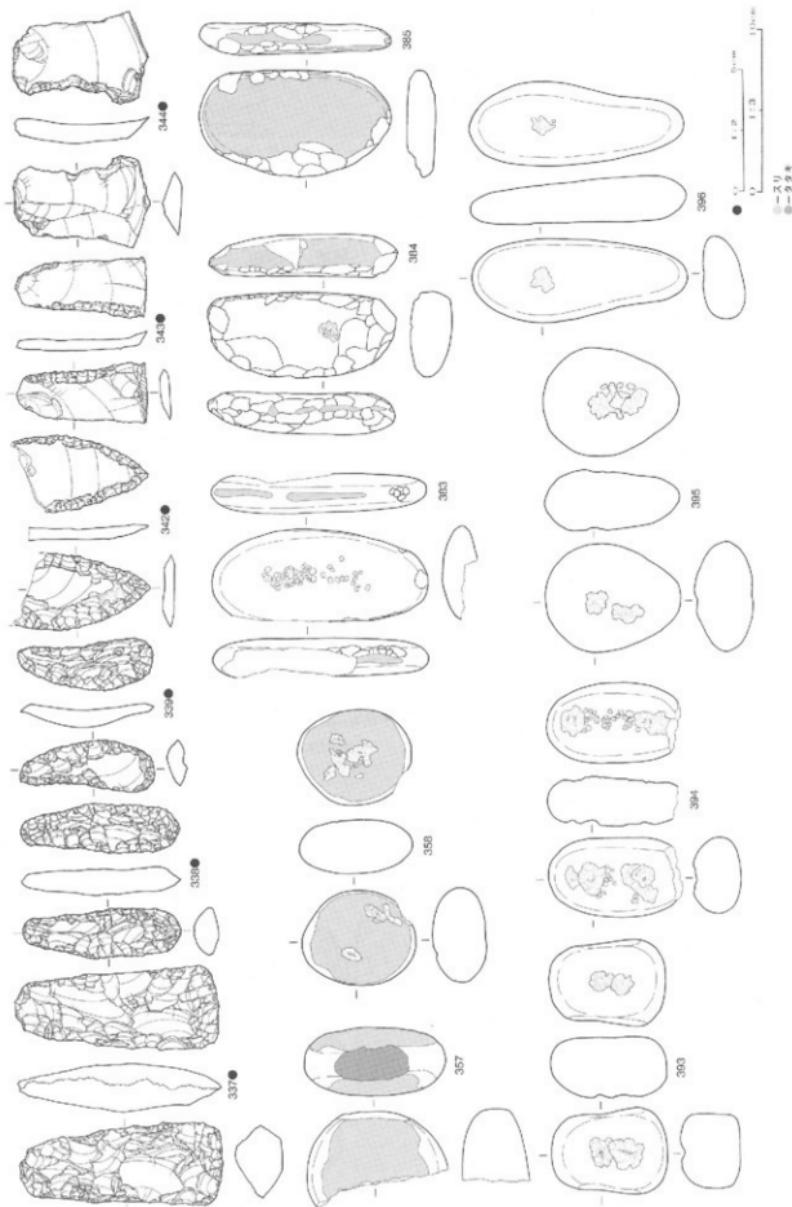
第28図 出土遺物 (16)



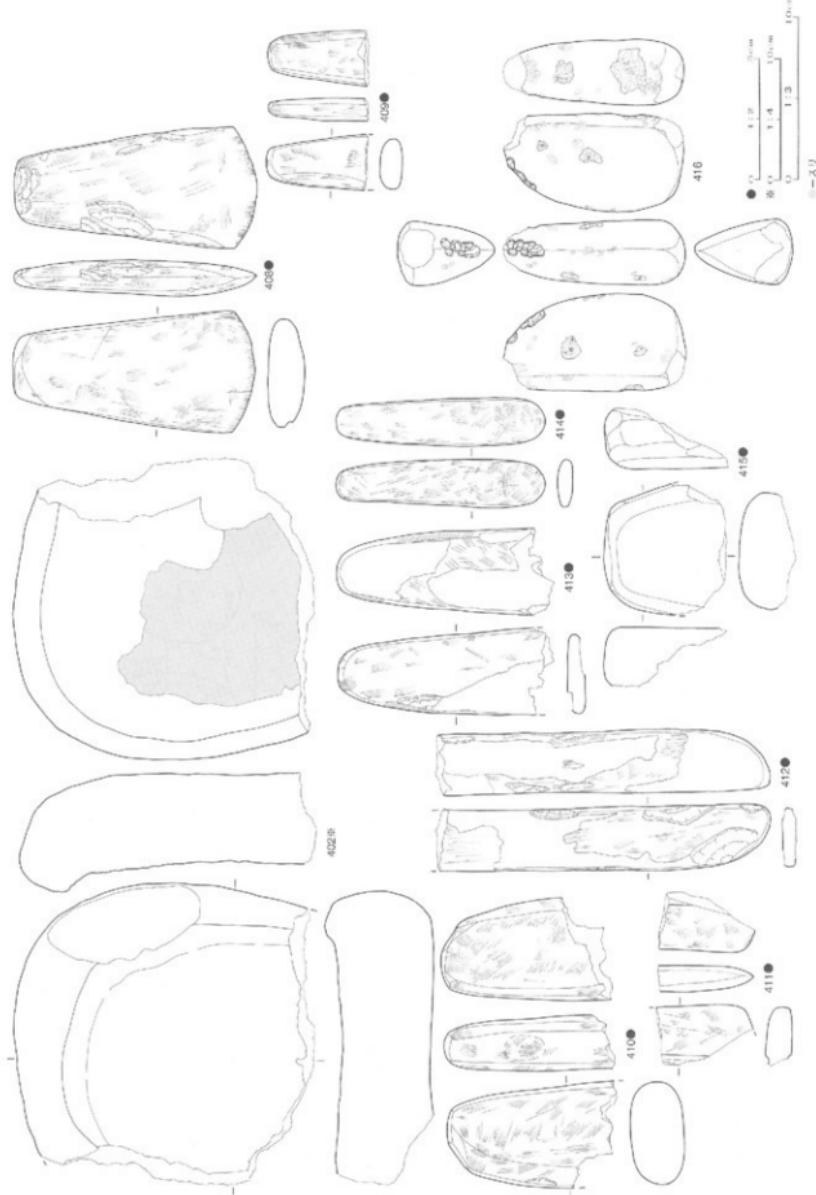
第29図 出土遺物 (17)



第30図 出土遺物 (18)



第31図 出土遺物 (19)



第32図 出土遺物 (20)

第3表 出土土器一覧

掘 出 番 号	假 名	出土位置・遺物名	層位	器種	大きさ		原体	方向	分類	写真図版	特徴
					最大径	底径					
13-1	281	東部2区	Ⅲ層	深鉢	—	—	貝殻文	↑	Ⅰ群	12-1	側文。
13-2	280	東部2区	Ⅳ層	深鉢	—	—	貝殻文	→	Ⅰ群	12-2	側文。
13-3	125	RA15(中央⑩)	埴土	深鉢	—	—	貝殻文	—	Ⅰ群	12-3	
13-4	313	調査区東部	埴土	深鉢	—	—	貝殻文 (羽状)	↑	Ⅰ群	12-4	
13-5	220	RM-3区	Ⅲ層	深鉢	—	—	貝殻文	—	Ⅰ群	12-5	
13-6	218	YIW-23	Ⅲ層	深鉢	—	—	貝殻文	—	Ⅰ群	12-6	
13-7	16	RA15(中央⑤)	埴土	深鉢	21.6 (16.8)	—	LR	縦	Ⅱ群 3 級	12-7	山形波状・横曲隆脊文、波状沈縞文、縦点に刻み。
13-8	11	RA15(中央⑦)	埴土	深鉢	23.8 (12.1)	—	RL	縦	Ⅱ群 2 級	12-8	貝殻文、原体は灰文、縦点に刻み。
13-9	13	RA15(中央⑦)	埴土	深鉢	21.0 (6.0)	—	LR	縦	Ⅱ群 3 級	12-9	縫帶文と沈縞文。
13-10	12	RA15(中央⑦)	埴土	深鉢	27.4 (27.8)	—	RLR	横	Ⅱ群 5 級	12-10	
13-11	18	RA15(中央⑨)	埴土	深鉢	—	—	LR	縦	Ⅱ群 5 級	12-11	
13-12	17	RA15(中央⑨)	埴土	浅鉢	—	—	無文	—	Ⅱ群 5 級	12-12	穴軸、内面に浮き。
13-13	8	RA15(中央⑥)	埴土	深鉢	21.0 (14.5)	—	LR	縦	Ⅱ群 3 級	12-13	山形波状隆脊文、縦点に刻み。
13-14	10	RA15(中央⑥)	埴土	浅鉢	21.0 (14.4)	—	LR	縦	Ⅱ群 3 級	12-14	波状隆脊文。
13-15	26	RA15(中央⑥)	埴土	深鉢	34.2 (31.0)	—	LRL	縦	Ⅱ群 3 級	12-15	円錐形にS字状張帶文、作部に理壓文柄、外輪接合。
13-16	7	RA15(中央⑧)	埴土	深鉢	22.7 (31.3)	8.7	RL	横	Ⅱ群 5 級	12-16	外輪接合。
13-17	30	RA15(中央⑧)	埴土	深鉢	—	—	RLR	縦	Ⅱ群 3 級	12-17	波状文。
14-8	27	RA15(中央⑨)	埴土	深鉢	12.6 (6.5)	18.0	不明	—	Ⅱ群 5 級	12-18	外輪接合、底面に削伏面。
14-9	20	RA15(中央⑨)	埴土	深鉢	9.5 (4.4)	3.5	LR	横	Ⅱ群 5 級	12-19	小形土器。
14-10	28	RA15(中央⑩)	埴土	深鉢	7.6 (1.6)	5.6	RL	縦	Ⅱ群 5 級	12-20	縫帶文と沈縞文。
14-11	9	RA15(中央⑩)	埴土	浅鉢	33.8 (12.8)	—	無文	—	Ⅱ群 5 級	12-21	
14-12	21	RA15(中央⑩)	埴土	深鉢	23.5 (9.0)	—	LR	縦	Ⅱ群 5 級	12-22	溝状捺痕文、原体は灰文。
14-13	31	RA15(中央⑩)	埴土	深鉢	13.0 (10.0)	—	RL	縦	Ⅱ群 5 級	12-23	山形波状縫帶文。
14-14	35	RA15(中央⑩)	埴土	深鉢	—	—	LR	縦	Ⅱ群 3 級	12-24	波状隆脊文、斜削面。
14-15	26	RA15(中央⑩)	埴土	深鉢	—	—	LRL	縦	Ⅱ群 4 級	12-25	過伏縫帶文。
14-16	34	RA15(中央⑩)	埴土	浅鉢	—	—	LR	縦	Ⅱ群 5 級	12-26	夷状帶文、原体は灰文。
14-17	4	RA15(中央⑪)	埴土	深鉢	16.0 (7.1)	—	RL	口縁基盤、作部接合	Ⅱ群 3 級	12-27	山形波状・高状縫帶文、接点に刻み。
14-18	5	RA15(中央⑫)	埴土	深鉢	23.5 (13.3)	—	LR	口縁部横、外輪接合	Ⅱ群 3 級	12-28	山形波状縫帶文、原体は灰文。
14-19	42	RA15(中央⑫)	埴土	深鉢	—	—	LR	横	Ⅱ群 3 級	12-29	縫帶文。
14-20	44	RA15(中央⑫)	埴土	深鉢	—	—	RL	横	Ⅱ群 3 級	12-30	波状縫帶文。
14-21	45	RA15(中央⑬)	埴土	深鉢	—	—	LR	横	Ⅱ群 3 級	12-31	舟形突起、陰唇文。
14-22	6	RA15(中央⑬)	埴土	深鉢	23.5 (9.0)	—	RL	横	Ⅱ群 3 級	12-32	溝状捺痕文、原体は灰文。
14-23	43	RA15(中央⑬)	埴土	深鉢	13.0 (10.0)	—	RL	縦	Ⅱ群 3 級	12-33	山形波状縫帶文。
14-24	35	RA15(中央⑬)	埴土	深鉢	—	—	LR	縦	Ⅱ群 3 級	12-34	波状縫帶文、斜削面。
14-25	36	RA15(中央⑬)	埴土	深鉢	—	—	LRL	縦	Ⅱ群 4 級	12-35	過伏縫帶文。
14-26	34	RA15(中央⑬)	埴土	浅鉢	—	—	LR	縦	Ⅱ群 5 級	12-36	夷状帶文、原体は灰文。
14-27	4	RA15(中央⑭)	埴土	深鉢	16.0 (7.1)	—	RL	口縁基盤、作部接合	Ⅱ群 3 級	12-37	山形波状・高状縫帶文、接点に刻み。
14-28	5	RA15(中央⑭)	埴土	深鉢	23.5 (13.3)	—	LR	口縁部横、外輪接合	Ⅱ群 3 級	12-38	山形波状縫帶文、原体は灰文。
14-29	42	RA15(中央⑭)	埴土	深鉢	—	—	LR	横	Ⅱ群 3 級	12-39	縫帶文。
14-30	44	RA15(中央⑭)	埴土	深鉢	—	—	RL	横	Ⅱ群 3 級	12-40	波状縫帶文。
14-31	45	RA15(中央⑭)	埴土	深鉢	—	—	LR	横	Ⅱ群 3 級	12-41	舟形突起、陰唇文。
14-32	6	RA15(中央⑭)	埴土	深鉢	31.2 (14.8)	—	不明	—	Ⅱ群 3 級	12-42	波状縫帶文(酒甕)、根付焼沈縞。
14-33	22	RA15(中央⑭)	埴土	深鉢	—	—	LR	縦	Ⅱ群 4 級	12-43	山形突起、沈縞文。
14-34	43	RA15(中央⑭)	埴土	深鉢	—	—	LR	縦	Ⅱ群 4 級	12-44	過伏縫帶文。
14-35	40	RA15(中央⑭)	埴土	深鉢	—	—	LR	縦	Ⅱ群 5 級	12-45	過伏縫帶文。
14-36	29	RA15(中央⑮)	埴土	深鉢	—	—	RLR	倒位	Ⅱ群 5 級	12-46	山形突起、沈縞文。
14-37	24	RA15(中央⑮)	埴土	深鉢	—	—	LR	縦	Ⅱ群 5 級	12-47	内面にS字状捺痕文。
14-38	23	RA15(中央⑮)	埴土	深鉢	—	—	LR	縦	Ⅱ群 5 級	12-48	解剖式縫帶文。
14-39	3	RA15(中央⑯)	埴土	深鉢	—	—	RL	横	Ⅱ群 4 級	12-49	波状縫帶文、原体は灰文。
15-40	1	RA15(中央⑯)	埴土	深鉢	24.1 (11.7)	6.0	LR	縦	Ⅱ群 3 級	13-40	過伏縫帶文。
15-41	37	RA15(中央⑯)	埴土	深鉢	12.9 (9.6)	5.8	RL	縦	Ⅱ群 3 級	13-41	過伏縫帶文。
15-42	25	RA15(中央⑯)	埴土	深鉢	—	—	不明	—	Ⅱ群 5 級	13-42	過伏縫帶文。
15-43	38	RA15(中央⑰)	埴土	深鉢	—	—	TRL	横	Ⅱ群 1 級	13-43	山形突起、沈縞文。
15-44	39	RA15(中央⑰)	埴土	深鉢	—	—	5.6	無文	Ⅱ群 5 級	13-44	草孔、縫帶文。
15-45	105	中央表土一括	埴土	深鉢	—	(5.6)	LR	横	Ⅱ群 5 級	13-45	横状突起、黒帯焼灰文。
15-46	109	中央表土一括	埴土	深鉢	44.4 (27.1)	3.2	無文	—	Ⅱ群 5 級	13-46	小形土器。
15-47	104	中央表土一括	埴土	深鉢	44.7 (10.1)	2.6	LR	縦	Ⅱ群 5 級	13-47	沈縞文。小形土器。
15-48	14	RA15(中央⑱)	埴土	深鉢	6.429 (20.5)	—	LR	縦	Ⅱ群 5 級	13-48	過伏縫帶文。
15-49	36	RA15(中央⑲)	埴土	深鉢	—	—	LR	横	Ⅲ群 5 級	13-49	介状突起、沈縞文。
15-50	47	RA15(中央⑲)	埴土	深鉢	—	—	LR	縦	Ⅲ群 4 級	13-50	介状突起、沈縞文。
15-51	58	RA15(中央⑲)	埴土	深鉢	—	—	LR	縦	Ⅲ群 5 級	13-51	介状突起、沈縞文。
15-52	51	RA15(中央⑲)	埴土	深鉢	—	—	?	縦	Ⅲ群 5 級	13-52	
15-53	62	RA15(中央⑲)	埴土	深鉢	—	—	RL	口縁部横、体部縦	Ⅱ群 3 級	13-53	山形波状沈縞文。
15-54	50	RA15(中央⑲)	埴土	深鉢	—	—	不明	—	Ⅱ群 5 級	13-54	介状突起。
15-55	49	RA15(中央⑲)	埴土	深鉢	—	—	LR	縦	Ⅱ群 5 級	13-55	屈曲沈縞文。
15-56	2	RA15	埴土	深鉢	16.6 (9.1)	—	RLR	口縁部横、体部縦	Ⅱ群 3 級	13-56	山形波状・波状縫帶文。
15-57	56	RA15	埴土	深鉢	—	—	RLR	横	Ⅱ群 4 級	13-57	夷状縫帶文。

※は記定値。( )は仮定値。

掲載番号	伝No.	告上地点・通称名	層級	層種	大きさ			原体	方向	分類	写真版面	特徴
					最大径	表面	底径					
15.58	69	RA15	堆土下部	深鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群 4 種	13.58	溝状隆起文。
15.59	62	RA15	堆土下部	深鉢	—	—	—	RL	縦	Ⅱ群 3 種	13.59	溝状縞文。
15.60	77	RA16(中央⑤)	堆土	深鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群 3 種	15.60	溝筋文。
16.61	65	RA16(中央⑤)	3層	深鉢	Φ20.4	25.5	8.0	LR	縦	Ⅱ群 3 種	13.61	溝状縞文。
16.62	67	RA16(中央⑤)	3層	深鉢	Φ14.4	11.6	—	LR	口縫部横 体部縦	Ⅱ群 3 種	13.62	山形突起、溝状縞文。接着に突起。
16.63	89	RA16(中央⑤)	堆土	深鉢	—	—	—	RL	縦	Ⅱ群 3 種	13.63	山形状状縞文、稜点に削み。
16.64	66	RA16(中央⑤)	3層	深鉢	Φ23.0	14.9	—	RLR	縦	Ⅱ群 3 種	14.64	
16.65	80	RA15(中央⑤)	堆土	深鉢	Φ14.4	5.2	—	LR	口縫部横 体部縦	Ⅱ群 3 種	14.65	山形突起、山形状状縞文、溝状縞文。
16.66	72	RA16(中央⑤)	堆土	深鉢	Φ41.8	15.5	—	RL	縦	Ⅱ群 3 種	14.66	弁状突起、山形状状縞文、縦曲筋文。
16.67	75	RA16(中央⑤)	3層	深鉢	Φ22.1	9.8	—	LR	縦	Ⅱ群 3 種	14.67	弁状突起、山形状状縞文。
16.68	64	RA16(中央⑤)	3層	深鉢	Φ25.8	(30.4)	12.0	RLR	縦	Ⅱ群 5 種	14.68	溝筋直上ミガキ。
16.69	84	RA15(中央⑤)	堆土	深鉢	—	—	—	不明	—	Ⅱ群 5 種	14.69	弁状突起。
16.70	83	RA16(中央⑤)	堆土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群 3 種	14.70	弁状突起、縦曲、溝状縞文、内面に肩形降伏文。
16.71	83	RA16(中央⑤)	堆土	深鉢	—	—	—	RL	縦	Ⅱ群 3 種	14.71	Ⅰ群厚原体直筋。
16.72	81	RA16(中央⑤)	堆土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群 5 種	14.72	波状舞合、陰寄上に原体直筋文。
16.73	78	RA16(中央⑤)	堆土	深鉢	—	—	—	LR	—	Ⅱ群 1 種	14.73	陰寄文、承物原縞文直筋文。
16.74	72	RA15(中央⑤)	堆土	深鉢	Φ15.2	(10.9)	—	LR	縦	Ⅱ群 3 種	14.74	波状降伏文に原体直筋文、溝状降伏文。
17.75	74	RA16(中央⑤)	3層	深鉢	Φ15.8	(10.5)	0.9.3	LR	縦	Ⅱ群 5 種	14.75	成都直上ミガキ。
17.76	87	RA16(中央⑤)	堆土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群 3 種	14.76	縫合文。
17.77	26	RA16(中央⑤)	3層	深鉢	Φ28.3	12.5	6.3	LR	縦	Ⅱ群 3 種	14.77	原宿文、原体直筋文、腹多筋。
17.78	69	RA16(中央⑤)	堆土	深鉢	Φ41.0	(27.0)	—	LR	縦	Ⅱ群 3 種	14.78	弁状突起、山形状状縞文、溝状縞文。
17.79	70	RA16(中央⑤)	堆土	深鉢	42.0	(53.8)	13.2	LR	縦	Ⅱ群 3 種	15.79	溝状降伏文、体部に隣合文様。
18.80	68	RA16(中央⑥)	堆土	深鉢	Φ24.2	(26.6)	14.0	LR	縦	Ⅱ群 5 種	14.80	成都直上ミガキ。
18.81	90	RA16(中央⑥)	3層	深鉢	—	—	—	不明	—	Ⅱ群 3 種	14.81	口V型突起。
18.82	91	RA16(中央⑥)	3層	深鉢	Φ26.0	(7.9)	—	RL	口縫部横 体部縦	Ⅱ群 3 種	14.82	口V型突起、山形状状縞文。
18.83	113	中央⑥	堆土	深鉢	—	—	—	L	縦	Ⅱ群 3 種	15.83	山形状状縞文。
18.84	112	中央⑥	堆土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群 4 種	15.84	溝状縞文。
18.85	71	RA16(中央⑥)	堆土	深鉢	—	—	—	RL	口縫部横 体部縦	Ⅱ群 3 種	15.85	弁突列、波状、溝状縞文。
18.86	98	RA16	堆土	深鉢	—	—	—	RL	縦	Ⅱ群 3 種	15.86	洞曲、溝状降伏文、体部に隣合文。
18.87	97	RA16	堆土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群 3 種	15.87	弁状突起。
18.88	94	RA16	堆土	深鉢	—	—	—	LR	口縫部横 体部縦	Ⅱ群 3 種	15.88	山形状状縞文、堆体直筋文、斑点に削み。
18.89	93	RA16	堆土	深鉢	—	—	—	LR	口縫部横 体部縦	Ⅱ群 3 種	15.89	縫合文。
18.90	99	RA17	周溝	深鉢	8.2	9.8	4.4	LR	縦	Ⅱ群 5 種	15.90	木葉質、小形土器。
18.91	127	RA17(中央④)	床直	深鉢	—	—	—	LR	縫合	Ⅱ群 5 種	15.91	
18.92	115	圓窓区中央	表土	深鉢	—	—	—	RL	縦	Ⅱ群 5 種	15.92	沈攢文。
18.93	114	圓窓区中央	表土	深鉢	—	—	—	LR	口縫部横 体部縦	Ⅱ群 3 種	15.93	口唇突起(側面)、溝状縞文。
18.94	120	圓窓区中央	表土	浅鉢	—	—	—	RL	縦	Ⅱ群 3 種	15.94	S字状彫文、障壁文。
19.95	119	圓窓区中央	表土	深鉢	—	—	—	不明	—	Ⅱ群 5 種	15.95	弁状突起、沈攢文。
19.96	130	圓窓区中央	表土	深鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群 4 種	15.96	溝状縞文障壁文。
19.97	122	圓窓区中央	表土	深鉢	—	—	—	RLR	縫合	Ⅱ群 4 種	15.97	溝状縞文障壁文。
19.98	121	圓窓区中央	表土	深鉢	—	—	—	—	—	Ⅱ群 5 種	15.98	口唇突起(側面)、溝状縞文。
19.99	63	圓窓区中央	表土	深鉢	—	—	—	LR	—	Ⅱ群 3 種	15.99	要体直筋文。
19.100	125	圓窓区中央	表土	—	串8.8	(3.0)	9.7.4	—	—	Ⅱ群 5 種	15.100	土師器質。
19.102	345	RD14	堆土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群 5 種	15.101	沈攢文。
19.102	347	RD14	堆土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群 5 種	15.102	沈攢文。
19.103	346	RD14	堆土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群 5 種	15.103	沈攢文。
19.104	107	RD15	堆土	深鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群 3 種	15.104	溝状縞文。
19.105	109	RD15	堆土	深鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群 5 種	15.105	斜突列、路彫文。
19.106	110	RD15	堆土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群 4 種	15.106	溝状縞文障壁文。
19.107	108	RD15	堆土	深鉢	—	—	—	不明	—	Ⅱ群 5 種	15.107	路帶文。
19.108	192	Y17T22	堆土	浅鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群 3 種	16.108	舜岱文。
19.109	191	Y17T22	Ⅱ層	深鉢	—	—	—	RLR	縦	Ⅱ群 6 種	16.109	溝状縞文。
19.110	133A	Y17T22	Ⅱ層	深鉢	Φ24.0	(9.3)	—	LR	縦	Ⅱ群 5 種	16.110	舜岱文、原体直筋文。
19.111	176	Y17T22	Ⅱ層	不明	—	—	—	RL	—	Ⅱ群 5 種	16.111	溝状縞文に原体直筋文、障孔。
19.112	181	Y17T22	表土	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群 3 種	16.112	舜岱文、原体直筋文、稜点に突起と削み。
19.113	189	Y17T23	Ⅱ層	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群 4 種	16.113	溝状縞文。
19.114	168	Y17T23	Ⅲ層上	深鉢	—	—	—	LR	縦	Ⅱ群 5 種	16.114	弁状突起、兩面に溝状縞文。

※は新定値。( )は既存値。

復號 番号	假No.	出土地点・棟名	層級	器種	人字5		脛	方向	分類	写真図版	特徴
					最大径 単位	高さ 単位					
19-115	175	Y17V23	Ⅲ層	漆鉢	—	—	LR(L)	横	Ⅱ群 3 番	16-115	溝状縦帯文。
19-116	180	Y17V23	表土	漆鉢	—	—	LR・RL 底状	横	Ⅱ群 1 番 b	16-116	糸形原体柱鉢文。
19-117	173	Y17V23	Ⅳ層	漆鉢	—	—	LR	—	Ⅱ群 1 番 c	16-117	原体直彎文。
19-118	216	Y17V23	Ⅳ層	漆鉢	—	—	LR	横	Ⅱ群 2 番	16-118	口縁部二重突起、原体直彎文。
19-119	134	Y17W20	Ⅲ層	漆鉢	幸158 (112)	—	LR	縦回転	Ⅱ群 1 番 b	16-119	山形突起、糸形原体柱鉢文。
20-120	156	Y17W20	Ⅲ層	漆鉢	—	—	LR	横	Ⅱ群 5 番	16-120	溝鉢文。底部肩上に牛耳。
20-121	190	Y17W20	Ⅲ層	漆鉢	—	—	RL	—	Ⅱ群 5 番	16-121	原体江叔文、單孔。
20-122	129	Y17W20	Ⅲ層	漆鉢	幸289 (136)	11.8	LR	横	Ⅱ群 1 番	16-122	山形突起、M字状捺文。原体直彎文。
20-123	186	Y17W22	Ⅲ層	漆鉢	—	—	RL	縦	Ⅱ群 5 番	16-123	波状縦帶文。口縁部直彎。
20-124	182	Y17W22	Ⅲ層	漆鉢	—	—	LR	横	Ⅱ群 2 番	16-124	原体直彎文。
20-125	132	Y17W23	Ⅲ層	漆鉢	幸294 (10.9)	—	LR	—	Ⅱ群 5 番	16-125	—
20-126	184	Y17W23	Ⅲ層	漆鉢	—	—	RL	縦	Ⅱ群 5 番	16-126	—
20-127	167	Y17W23	表土	漆鉢	—	—	LR	縦	Ⅱ群 5 番	16-127	刺突列、波状沈微文。
20-128	138	Y17W23	Ⅲ層	漆鉢	幸250 (27.1)	—	LR	縦回転	Ⅱ群 1 番 c	16-128	弁状突起、隨滑文に原体直彎。
20-129	143	Y17W23	Ⅲ層	漆鉢	(幸408) (25.3)	—	LR (?)	II型底部 体部縫	Ⅱ群 3 番	16-129	有脊突起、山形後張、溝狀直彎文、接点に割込み。
20-130	215	Y17X21	Ⅲ層	漆鉢	—	—	LR	斜位	Ⅱ群 3 番	16-130	斜位直彎文。原体直彎文。
20-131	174	Y17X22	Ⅲ層	漆鉢	—	—	LR	横	Ⅱ群 3 番	16-131	波状沈微文。接点に突出と崩れ。
20-132	176	Y17X22	Ⅲ層上面	漆鉢	—	—	RL	—	Ⅱ群 3 番	16-132	弁状突起、縦位原体直彎文。
21-133	171	Y17X22	Ⅲ層	漆鉢	—	—	RL (?)	—	Ⅱ群 3 番	16-133	原体直彎文。
21-134	169	Y17X22	Ⅲ層	漆鉢	—	—	不明	—	Ⅱ群 3 番	17-134	随滑文。
21-135	141	Y17X22	Ⅲ層	漆鉢	—	—	LR	横 (?)	Ⅱ群 3 番	17-135	三角突起、波状直彎文、原体直彎文。
21-136	164	Y17X23	Ⅲ層	漆鉢	—	—	LR	口縁無縫 体部縫	Ⅱ群 3 番	17-136	溝状縦帯文。
21-137	167	Y17X23	Ⅲ層	漆鉢	—	—	RLR (?)	縦	Ⅱ群 5 番	17-137	沈微文。
21-138	178	Y17X23	表土	漆鉢	—	—	LR	縦	Ⅱ群 5 番	17-138	溝状沈微文。
21-139	161	Y17X23	Ⅲ層	漆鉢	—	—	LR	II型底部 体部縫	Ⅱ群 3 番	17-139	溝状縦帯文、接点に崩れ。
21-140	177	Y17X23	表土	漆鉢	—	—	RL	横	Ⅱ群 3 番	17-140	溝状直彎文。原体直彎文。
21-141	179	Y17X23	表土	漆鉢	—	—	RLR	横	Ⅱ群 3 番	17-141	溝状縦帯文。
21-142	140	Y17X23	Ⅲ層上面	漆鉢	—	—	LR	縦	Ⅱ群 3 番	17-142	原体直彎文。
21-143	159	Y17X23	Ⅲ層上面	漆鉢	—	—	LR	縦	Ⅱ群 3 番	17-143	弁状突起、隨滑文。兩面に溝状彌寄文。
21-144	157	Y17X23	Ⅲ層上面	漆鉢	—	—	LR	縦	Ⅱ群 2 番	17-144	溝状縦帯文。
21-145	131	Y17X23	Ⅲ層上面	漆鉢	幸380 (31.0)	—	RL	口縁無縫 体部縫	Ⅱ群 3 番	17-145	弁状突起、山形後張・履足・溝状彌寄文。
21-146	153	Y17X23	Ⅲ層上面	浅鉢	(4.1)	—	RLR (?)	縦	Ⅱ群 5 番	17-146	銅穴列、沈微文。
21-147	172	Y17X23	Ⅲ層上面	漆鉢	—	—	LR	斜位	Ⅱ群 4 番 d	17-147	銅滑文。
21-148	130A	Y17X23	Ⅲ層上面	漆鉢	—	—	RLR	縦	Ⅱ群 3 番	17-148	銅突起、溝状沈微文。
22-149	145	Y17X23	Ⅲ層上面	漆鉢	(幸80) (4.8)	3.2	—	—	Ⅱ群 5 番	17-149	小形土器。
22-150	156	Y17X23	Ⅲ層上面	漆鉢	—	—	LR	—	Ⅱ群 2 番	17-150	溝状彌寄文。原体直彎文。
22-151	141	Y17X23	Ⅲ層	漆鉢	(12.3) (2.8)	10.7	無文	—	Ⅱ群 5 番	17-151	銅代乳。
22-152	158	Y17X23	Ⅲ層上面	漆鉢	—	—	RLR	縦	Ⅱ群 3 番	17-152	溝状彌寄文。縦位直彎文。
22-153	137	Y17X23	Ⅲ層	漆鉢	幸223 (16.1)	—	RL	縦回転	Ⅱ群 2 番	17-153	懸垂彌寄文。
22-154	135	Y17X23	Ⅲ層	漆鉢	幸140 (16.4)	0.86	LR	縦	Ⅱ群 2 番	18-154	原体直彎文。
22-155	153	Y17X23	Ⅲ層	漆鉢	—	—	RLR	縦	Ⅱ群 5 番	18-155	溝状彌寄文。原体直彎文。
22-156	149	Y17X23	Ⅲ・Ⅳ層	漆鉢	—	—	RL	縦	Ⅱ群 3 番	18-156	溝状彌寄文。
22-157	150	Y17X24	Ⅲ層	漆鉢	—	—	LR	縦	Ⅱ群 1 番 c	18-157	銅鏡文。
22-158	154	Y17X24	Ⅲ・Ⅳ層	漆鉢	—	—	LR	縦	Ⅱ群 4 番 d	18-158	銅滑文。原体直彎文。
22-159	139B	Y17X24	Ⅲ層	漆鉢	(0.92) (10.3)	—	RLR	縦	Ⅱ群 5 番	18-159	160と別固体。無文帶、沈微文。
22-160	151	Y17X24	Ⅲ・Ⅳ層	漆鉢	(0.76) (14.2)	—	RLR	縦	Ⅱ群 3 番	18-160	159と別固体。無文帶、沈微文。
22-161	151	Y17X24	Ⅲ・Ⅳ層	漆鉢	(4.3)	—	RL	縦	Ⅱ群 2 番	18-161	原体直彎文。
22-162	203	Y17T21~W24	複瓦	漆鉢	—	—	RL	縦	Ⅱ群 5 番	18-162	滑文。
22-163	199	Y17T24~W24	複瓦	漆鉢	—	—	RL	縦	Ⅱ群 2 番	18-163	銅鏡文。
23-164	200	Y17T24~W24	複瓦	漆鉢	—	—	LR	口縁無縫 体部縫	Ⅱ群 5 番	18-164	溝状縦帯文。
23-165	208	Y17T24~W24	複瓦	漆鉢	—	—	LR	縦	Ⅱ群 5 番	18-165	波状縦帯文。
23-166	201	Y17T24~W24	複瓦	漆鉢	—	—	R	II型底部 体部縫	Ⅱ群 5 番	18-166	溝状縦帯文。
23-167	205	Y17T24~W24	複瓦	漆鉢	不明	—	LR ?	—	Ⅱ群 5 番	18-167	角谷文。
23-168	206	Y17T24~W24	複瓦	漆鉢	不明	—	LR	横	Ⅱ群 5 番	18-168	溝状縦帯文。
23-169	195	Y17T24~W21	複瓦	漆鉢	—	—	RLR	縦	Ⅱ群 5 番	18-169	1丁状彌寄文。
23-170	194	Y17T24~W24	複瓦	漆鉢	—	—	漆高丸?	—	Ⅱ群 5 番	18-170	隨滑文。
23-171	210	Y17T24~W21	複瓦	漆鉢	不明	—	—	—	Ⅱ群 5 番	18-171	銅鏡文。

※は鑑定線。( )は残存度。

掲載 番号	仮号	出土施主・遺物名	層位	器種	大きさ		原体	方向	分類	写真図版	特徴	
					最大径	最小径						
23-172	204	Y17T24-W24	複数	深鉢	—	—	—	—	Ⅱ群 5 類	18-172	複数俗文に剪み。	
23-173	198	Y17T24-W24	複数	浅鉢	—	—	LR	縦	Ⅱ群 5 類	18-173	複数俗文、原体往復文。	
23-174	307	Y17T24-W24	複数	不明	—	—	LR	縦	Ⅱ群 5 類	18-174	複帶文。	
23-175	193	Y17T24-W24	複数	浅鉢	—	—	—	—	Ⅱ群 5 類	18-175	複次列、複次疊書き。	
23-176	211	Y17T24-W21	複数	浅鉢	—	—	LR	縦	Ⅱ群 5 類	18-176	複次列、複次疊書き。	
23-177	212	Y17T24-W24	複数	深鉢	—	—	LR	縦	Ⅱ群 5 類	18-177	複次文。	
23-178	217	Y17T24-W24	複数	不明	—	—	—	—	Ⅱ群 5 類	18-178	原体往復文。	
23-179	241	東部 1 区	不明	浅鉢	—	—	LR	横	Ⅲ群 5 類	18-179	複次疊書き。	
23-180	257	東部 2 区	Ⅱ・Ⅲ層	浅鉢	—	—	不明	—	Ⅲ群 5 類	18-180	複次疊書き。	
23-181	238	東部 2 区	Ⅱ・Ⅲ層	浅鉢	—	—	LR	縦	Ⅲ群 5 類	18-181	複次疊書きに原体往復文。	
23-182	262	東部 2 区	Ⅱ・Ⅲ層	浅鉢	—	—	不明	—	Ⅲ群 5 類	18-182	升状突起、穿孔。	
23-183	213	東部 2 区	Ⅱ・Ⅲ層	不明	(9.9)	(8.8)	不明	—	Ⅲ群 5 類	18-183	小形土器。	
23-184	244	東部 2 区	Ⅱ層	深鉢	—	—	LR	縦	Ⅲ群 5 類	18-184	山形底状、肩直腹斂口、油抹捺縞文。	
23-185	208	東部 2 区	Ⅱ層	深鉢	—	—	LR	縦	Ⅲ群 5 類	18-185	油抹捺縞文。	
23-186	249	東部 2 区	Ⅱ層	深鉢	—	—	不明	—	Ⅲ群 5 類	18-186	小曾竹質文。	
23-187	251	東部 2 区	Ⅱ層	鉢	—	—	—	—	Ⅲ群 5 類	18-187	原体往復文。	
23-188	228	東部 2 区	Ⅱ層	深鉢	(29.0)	(20.0)	LR	縦	Ⅲ群 5 類	18-188	油抹捺縞文、原体往復文。	
23-189	246	東部 2 区	Ⅱ層	浅鉢	—	—	LR	横	Ⅲ群 5 類	18-189	油抹捺縞文。	
23-190	215	東部 2 区	Ⅱ層	浅鉢	—	—	LR	縦	Ⅲ群 5 類	18-190	肩部隆起。	
24-191	242	東部 2 区	Ⅱ層	深鉢	—	—	LR	横	Ⅲ群 5 類 c	19-191	邊縫に原体往復。	
24-192	235	東部 2 区	Ⅱ層	深鉢	46.0	(11.1)	4.5	LR	横	Ⅲ群 5 類	19-192	小形土器、施釉直上にガキ。
24-193	222	東部 2 区	Ⅱ層	深鉢	—	—	RL	横	Ⅲ群 2 類	19-193	原体往復文(LR)。	
24-194A	231A	東部 2 区	Ⅱ層下面	深鉢	41.5	(22.0)	—	LR	Ⅰ群底部、 部底縫	Ⅲ群 3 類	19-191A	柄曲隆縞文に原体往復。
24-195	234D	東部 2 区	Ⅱ層下面	深鉢	—	—	LR	Ⅰ群底部、 部底縫	Ⅲ群 5 類	19-194B	柄曲隆縞文に原体往復、縫丸に突起と割込み。	
24-196	269	東部 2 区	Ⅱ層下面	深鉢	—	—	LR	横	Ⅲ群 2 類	19-195	Q段多条、原体往復。	
24-196	311	東部 2 区	Ⅱ層下面	深鉢	(62.0)	(11.7)	LR (一部縫)	縫	Ⅲ群 3 類	19-196	山形底状、無縫斜垂文、原体往復。	
24-197	260	東部 2 区	Ⅱ層下面	深鉢	—	—	LR	縫	Ⅲ群 3 類	19-197	原体往復文。	
24-198	225	東部 2 区	Ⅱ層下面	深鉢	26.0	(27.6)	RLR	縫	Ⅲ群 3 類	19-198	山形底垂文、抜丸に突起と割込み。	
24-199	270	東部 2 区	Ⅱ層下面	深鉢	—	—	LR	縫	Ⅲ群 3 類	19-199	油抹捺縞文、油抹捺縞文。	
24-200	267	東部 2 区	Ⅱ層下面	深鉢	—	—	LR	縫	Ⅲ群 2 類	19-200	橋状突起、原体往復文。	
24-201	272	東部 2 区	Ⅱ層下面	深鉢	—	—	LR	—	Ⅲ群 2 類	19-201	原体往復文。	
24-202	262	東部 2 区	Ⅱ層下面	深鉢	—	—	RLR	縫	Ⅲ群 2 類	19-202	原体往復文。	
24-203	260	東部 2 区	Ⅱ層下面	深鉢	—	—	RLR	縫	Ⅲ群 2 類	19-203	原体往復文。	
25-204	261	東部 2 区	Ⅱ層下面	深鉢	—	—	—	?	Ⅲ群 5 類	19-204	縫带文。	
25-205	273	東部 2 区	Ⅱ層下面	深鉢	—	—	LR	—	Ⅲ群 5 類	19-205	油抹捺縞文、縫位原体往復。	
25-206	221	東部 2 区	Ⅲ層下面	深鉢	32.2	45.1	13.5	RL- LR 縫	Ⅲ群 2 類	19-206	原体往復文、網代底。	
25-207	236	東部 2 区	Ⅲ層下面	深鉢	(9.30)	(27.4)	(19.0)	LR	縫	Ⅲ群 1 類 e	20-207	網代底垂文、縫縞文。
25-208	268	東部 2 区	Ⅲ層下面	深鉢	—	—	RLR	縫	Ⅲ群 5 類	20-208	原体往復文。	
25-209	240A	東部 2 区	Ⅲ層下面	深鉢	—	—	RLR	縫	Ⅲ群 1 類 e	20-209	油抹捺縞文、油抹捺縞文。	
25-210	276	東部 2 区	Ⅲ層下面	深鉢	—	—	RLR	縫	Ⅲ群 5 類	20-210	橋状突起、原体往復文。	
25-211	271	東部 2 区	Ⅲ層下面	深鉢	—	—	LR	—	Ⅲ群 2 類	20-211	原体往復文。	
25-212	274	東部 2 区	Ⅲ層下面	深鉢	—	—	RLR	縫	Ⅲ群 5 類	20-212	突起、内凹に縫帶文。	
25-213	275	東部 2 区	Ⅲ層下面	深鉢	—	—	RLR	縫	Ⅲ群 3 類	20-213	縫狀縞文。	
25-214	223	東部 2 区	Ⅲ層下面	深鉢	中2.43	(9.6)	—	LR	縫	Ⅲ群 3 類	20-214	油抹捺縞文、原体往復文。
25-215	239	東部 2 区	Ⅲ層下面	深鉢	中2.42	12.2	5.1	RL	縫	Ⅲ群 3 類	20-215	油抹捺縞文、原体往復文(RL)。
25-216	265	東部 2 区	Ⅲ層下面	深鉢	(7.6)	—	RLR	縫	Ⅲ群 2 類	20-216	原体往復文。	
25-217	237	東部 2 区	Ⅲ層下面	深鉢	(22.8)	(7.6)	—	RLR	縫	Ⅲ群 3 類	20-217	縫狀縞文。
25-218	266	東部 2 区	Ⅲ層下面	深鉢	—	—	RLR	縫	Ⅲ群 2 類	20-218	原体往復文。	
25-219	263	東部 2 区	Ⅲ層下面	深鉢	—	—	RLR	縫	Ⅲ群 2 類	20-219	油抹捺縞文、原体往復文。	
25-220	283A	東部 2 区	Ⅳ層	深鉢	—	—	RLR	縫	Ⅲ群 3 類	20-220	油抹捺縞文。	
25-220	282D	東部 2 区	Ⅳ層	深鉢	—	—	RLR	縫	Ⅲ群 3 類	20-220B	油抹捺縞文。	
26-220	283C	東部 2 区	Ⅳ層	深鉢	—	—	RLR	縫	Ⅲ群 3 類	20-220C	油抹捺縞文。	
26-221	268	東部 2・3 区	表土	浅鉢	—	—	RLR	縫	Ⅲ群 5 類	20-221	縫帶に割込み。	
26-222	281	東部 2・3 区	表土	浅鉢	—	—	RL	—	Ⅲ群 5 類	20-222	縫位原体往復文。	
26-223	280	東部 2・3 区	表土	浅鉢	—	—	RLR	縫	Ⅲ群 5 類	20-223	油抹捺縞文。	
26-224	283	東部 2・3 区	表土	深鉢	—	—	RLR	縫	Ⅲ群 5 類	20-224	S字底縫文。原体往復文。	
26-225	281	東部 2・3 区	表土	浅鉢	—	—	RL	—	Ⅲ群 5 類	20-225	油抹捺縞文、縫位原体往復文。	
26-226	280	東部 2・3 区	表土	浅鉢	—	—	RLR	縫	Ⅲ群 5 類	20-226	油抹捺縞文、油抹文。	
26-227	254	東部 2・3 区	表土	深鉢	—	—	RLR	縫	Ⅲ群 5 類	21-227	更羽状縞文、原体往復文。	
26-228	302	東部 3 区	表土	深鉢	—	—	RLR	縫	Ⅲ群 5 類	21-228	青吹尖端、油抹捺縞文、側列。	

※は推定値、( )は残存値。

器種 番号	仮名 表記	出土点・測定 区	部位	基盤	大きさ			分類	写真図版	特徴	
					最大 径(件)	高さ (mm)	底厚 (mm)				
26-229	308	東部3区	表土	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 5 類	波状模様に原体形状。	
27-230	295	東部3区	表土	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 3 類	山形波状模様文、原体形状。	
27-231	293	東部3区	II層	泥鉢	—	—	不明	—	Ⅱ群 5 類	溝状縦書き。	
27-232	299	東部3区	II層	泥鉢	—	—	RLR	板	Ⅱ群 5 類	沈縞文。	
27-233	298	東部3区	II層	泥鉢?	—	—	LR	板	Ⅱ群 5 類	波状縦書き。	
27-234	297	東部3区	II層	泥鉢?	—	—	不明	—	Ⅱ群 5 類	波状縦書き、沈縞文。	
27-235	291	東部3区	II層	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 3 類	原体形状。	
27-236	290	東部3区	II層	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 5 類	井状突起、原体形状。	
27-237	223	東部3区	II層	泥鉢	Φ256	(25.0)	—	板	Ⅱ群 3 類	井状突起、山形波状・溝状縦書き。	
27-238	308	東部3区	II層	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 5 類	波状縦書き、原体形状。	
27-239	310	東部3区	II層	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 5 類	原体形状。	
27-240	309	東部3区	II層	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 5 類	波状縦書き、原体形状。	
27-241	312	東部3区	II層	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 5 類	波状縦書き。	
27-242	313	東部3区	II層	泥鉢	—	—	RL	板	Ⅱ群 5 類	波状縦書きに原体形状(原体LR)。	
27-243	227	東部3区	II層上部	泥鉢	Φ41.0	(13.0)	—	LR	板	Ⅱ群 3 類	波状・弧状縦書き文、原体形状。
27-244	306	東部3区	II層上部付近	泥鉢	—	—	RLR	板	Ⅱ群 5 類	原体形状。	
27-245	307	東部3区	II層上部付近	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 5 類	波状縦書き、原体形状。	
27-246	233	東部3区	II層上部	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 2 類	井状突起、原体形状。	
27-247	228	東部3区	II層下面	泥鉢	27.0	(36.2)	—	RLR	板	Ⅱ群 3 類	山形波状縦書き、「W」状捺縞文、瓣点に肩型と肩み。
28-248	316	東部3区	II層下部	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 5 類	波状文。	
28-249	316	東部3区	II層下部	泥鉢	—	—	RLR	板	Ⅱ群 5 類	原体文。	
28-250	319	東部3区	II層下部	泥鉢	—	—	RLR	板	Ⅱ群 1 類	波状縦書きに原体形状。	
28-251	317	東部3区	II層下部	泥鉢	(Φ7.8)	(4.8)	—	加文	—	Ⅱ群 5 類	孔型・小形土器。
28-252	314	東部3区	II層下部	泥鉢	—	—	LR	斜位	Ⅱ群 1 類 c	原体形状。	
28-253	229	東部3区	II層下部	泥鉢	串248.1	108	6.9	LR	板	Ⅱ群 2 類	原体文。
28-254	322	東部3-4区	II層下部	泥鉢	串210.0	(15.8)	—	LR	斜位	Ⅱ群 5 類	井状突起・空孔。
28-255	326	東部3-4区	II層下部	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 2 類	原体形状。	
28-256	321	東部3-4区	II層下部	泥鉢	—	—	RL	板	Ⅱ群 1 類 b	波状文。	
28-257	238	東部3-4区	II層下部	泥鉢	25.2	15.2	8.6	RLR	板	Ⅱ群 2 類	波状縦書きに原体形状。後代降壙に原体形状。爪形原体形状。
28-258a	231B	東部3-4区	II層下部	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 2 類	波状縦書き、原体形状。	
28-258b	231A	東部3-4区	II層下部	泥鉢	Φ178.0	(8.7)	7.4	LR	板	Ⅱ群 2 類	原体形状。空孔。
28-259	204	東部3-4区	II層下部	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 5 類	波状文。	
28-260	236	東部3-4区	II層下部	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 5 類	波状文、原体形状。	
28-261	325	東部3-4区	II層下部	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 2 類	原体文。	
28-262	222	東部4区	II層下部	泥鉢	串234.0	(42.0)	10.8	LR	板	Ⅱ群 5 類	波状文、底部席上マガキ。
28-263	228	東部4区	II層下部	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 5 類	原体文。	
29-264	219	東部4区	II層	泥鉢	Φ300.0	(46.0)	—	LR	斜位・各部縫合	山形波状縦書き、沈縞文、接点に突起と肩み。	
29-265	331	東部4区	II層	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 2 類	波状文。	
29-266	330	東部4区	II層	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 5 類	波状文。	
29-267	333	東部4区	II層	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 5 類	原体形状。	
29-268	332	東部4区	II層	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 5 類	原体形状。	
29-269	329	東部4区	II層	泥鉢	—	—	RLR	板	Ⅱ群 5 類	原体形状。	
29-270a	334	東部4区	II層	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 5 類	平行沈縞文。	
29-270b	331B	東部4区	II層	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 2 類	波状縦書き。	
29-271	338	鶴丘区東部	表土	不明	—	(5.0)	LR	板	Ⅱ群 5 類	S字状縦書き文。	
29-272	332	西北斜面	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 2 類	井状突起・原体形状。		
29-273	302	西北斜面	泥鉢	—	—	RLR	板	Ⅱ群 4 類	波状縦書き文。		
29-274	353	西北斜面	泥鉢?	—	—	LR	板	Ⅱ群 5 類	溝状縫合縞文。		
29-275	365	西北斜面	泥鉢	—	—	不明	—	Ⅱ群 3 類	波状縫合縞文。		
29-276	356	西北斜面	泥鉢	—	—	RLR	板	Ⅱ群 5 類	平行沈縞文。		
29-277	358	西北斜面	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 5 類	井状突起に肩孔・原体形状。		
29-278	370	西北斜面	泥鉢	—	—	RL	板	Ⅱ群 4 類	波状縫合縞文。		
29-279	351	西北斜面	泥鉢	—	—	RL	板	Ⅱ群 4 類	波状縫合縞文。		
29-280	359	西北斜面	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 4 類	波状縫合縞文、刺突孔。		
29-281	364	西北斜面	泥鉢	—	—	RLR	板	Ⅱ群 5 類	波状縫合縞文。		
29-282	371	西北斜面	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 4 類	波状縫合縞文。		
29-283	369	西北斜面	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 5 類	縫合文。		
29-284	372	西北斜面	泥鉢	—	—	LR	板	Ⅱ群 4 類	波状縫合縞文。		
29-285	368	西北斜面	泥鉢	—	—	RLR	板	Ⅱ群 4 類	波状縫合縞文。		
29-286	361	西北斜面	泥鉢	—	—	R	板	Ⅱ群 5 類	波状縫合縞文、刺突孔。		
29-287	363	西北斜面	泥鉢	—	—	KL	板	Ⅱ群 4 類	波状縫合縞文。		

半形等価。( )は焼成値。

編 番 号	保 証 番 号	井 丸 直 ・ 造 風 名	層位	器種	大きさ			單体	方向	分類	写真図版	特 徴	
					最大径	深さ	底径						
30-288A	373A	北西斜面	擾乱	深鉢	—	—	?	?	II群 5 箇	23-288A	小形土器。		
30-289	373B	北西斜面	擾乱	深鉢	—	—	?	?	II群 5 箇	23-289	小形土器。		
30-289	380	北内斜面	擾乱	深鉢	—	—	?	?	II群 5 箇	23-289			
30-290	348	北西斜面	擾乱	深鉢	(辛8.6)	(5.6)	5.0	LR	縦	II群 5 箇	23-290	小形土器。	

第4表 出土土製品一覧

編 番 号	保 証 番 号	出 土 地 点 ・ 遺 物 名	層位	器種	大きさ			單体	方向	分類	写真図版	特 徴
					最大径	高さ	底径					
30-291	128	RA16(中央部)	擾土	コニカル?	辛3.3	(2.1)	2.5	無文	—	—	23-291	手捏ね。
30-292	146	Y17W23	Ⅱ層上面	コニカル?	(辛5.6)	(2.4)	#28	無文	—	—	23-292	手捏ね。
30-293	147	Y17W23	Ⅱ層上面	コニカル?	辛5.6	(2.4)	2.3	L無節	腹	—	23-293	手捏ね。
30-294	148	Y17W23	Ⅱ層上面	コニカル?	4.2	2.3	2.9	L無節	縦	—	23-294	手捏ね。
30-295	227	東部2区	Ⅱ層下面	コニカル?	(辛4.0)	(1.6)	—	無文	—	—	23-295	浅鉢形。
30-296	278	東部2区	Ⅱ層下面	コニカル?	(辛2.0)	(1.2)	(#2.6)	—	—	—	23-296	
30-297	279	水25.2区	Ⅱ層下面	コニカル?	—	(1.7)	—	無文	—	—	23-297	輪投標。
30-298	367	北内斜面	擾乱	コニカル?	(辛4.0)	(1.6)	—	無文	—	—	23-298	浅鉢形。穿孔。
30-299	491	東部3区	Ⅱ層	円盤状土製品	—	—	LR	—	—	—	23-299	指印形。
30-300	492	RA15(中央部)	擾土	円盤状土製品	—	—	—	RL	—	—	23-300	
30-301	403	東部2区	Ⅱ層下面	円盤状土製品	—	—	—	LR	—	—	23-301	
30-302	404	RA15(中央部)	擾土	土質高	(5.4)	(3.3)	(2.0)	—	—	—	23-302	穿孔。
30-303	400	Y17V22	Ⅱ層	土製品	(8.9)	(5.5)	—	—	—	—	23-303	穿孔。

単は指定値。( )は残存値。

第5表 出土石器・石製品一覧

採集番号	採取場所	浜土地点・標識名	層位	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	器種	石質	産地	備考	写真図版
30-304 20	東部4区	Ⅱ層	53	1.5	0.8	5.2	尖頭器	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	有茎	—	23-304
30-305 21	RA16(中央③)	住居埋土	4.4	1.1	0.9	3.0	尖頭器	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	北部黑色有茎物、有茎	—	23-305
306 17	RA16(中央④)	住居埋土	4.0	2.4	1.2	9.9	尖頭器	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	未成品	—	—
307 18	北西斜面	櫛孔	4.9	2.7	0.7	7.7	尖頭器	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	未成品	—	—
30-308 13	RA16(中央⑤)	住居埋土	1.7	1.2	0.4	0.7	石礫	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	有茎凹凸	—	23-308
30-309 15	東部2区	Ⅱ層	1.9	1.5	0.5	0.8	石礫	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	有茎凹凸	—	23-309
30-310 4	東部3区	Ⅱ層	2.7	1.8	0.4	1.3	石礫	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	北部黑色有茎物、有茎凸基	—	23-310
30-311 8	RA16	住居埋土	2.0	1.0	0.4	0.7	石礫	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	北部黑色有茎物、有茎凸基	—	23-311
30-312 1	RA16(中央②)	住居埋土	3.3	1.8	0.7	2.8	石礫	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	有茎凸基	—	23-312
313 2	RA16(中央④)	住居埋土	2.5	1.3	0.5	1.3	石礫	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	有茎凸基	—	—
314 5	RA15	住居埋土	2.3	1.5	0.9	3.3	石礫	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	不明	—	—
315 6	Y1TV22	Ⅱ層	2.7	1.3	0.4	1.4	石礫	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	有茎凸基	—	—
316 7	東部2区	Ⅱ層	2.5	1.2	0.5	1.6	石礫	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	北部黑色有茎物、有茎凸基	—	—
317 9	RA15	埋土下部	2.0	1.2	0.4	0.9	石礫	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	不明	—	—
318 10	RA15(中央④)	住居埋土	2.6	1.5	0.6	1.7	石礫	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	火はね、有茎	—	—
319 11	東部3区	Ⅱ層	2.8	1.4	0.9	2.7	石礫	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	不明	—	—
320 12	Y1TX23	Ⅱ層	2.8	1.4	0.6	2.3	石礫	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	有茎凸基	—	—
321 14	RA15(中央②)	住居埋土	1.8	1.1	0.5	0.6	石礫	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	無茎凸基	—	—
322 16	中央⑥	住居埋土	1.9	1.3	0.5	0.8	石礫	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	無茎凸基	—	—
323 53	東部3区	Ⅱ層下部	2.9	1.1	0.5	1.5	石礫	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	有茎字条	—	—
30-324 25	RA15(中央④)	住居埋土	3.3	3.5	0.7	4.8	石礫	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	—	—	23-324
30-325 3	RA15(中央④)	住居埋土	3.9	1.9	1.0	4.6	石礫	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	—	—	23-325
326 22	RA15(中央⑦)	住居埋土	2.7	1.0	0.7	2.2	石礫	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	—	—	—
327 23	RA16(中央④)	住居埋土	4.7	1.6	1.1	5.6	石礫	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	—	—	—
328 24	Y1TV23	Ⅱ層	4.5	1.1	0.8	19	石礫	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	—	—	—
30-329 26	Y17T22	Ⅱ層	4.9	7.5	1.5	36.4	石块	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	—	—	23-329
30-330 27	Y17W20	Ⅱ層	3.9	4.3	0.9	11.3	石块	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	—	—	23-330
30-331 28	西岸区中央	表土	5.4	4.8	1.4	22.0	石块	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	未成品?	—	23-331
337 29	Y17V23	Ⅱ層	8.0	4.4	1.7	45.3	削刮器類?	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	未成品	—	—
338 30	RA15(中央④)	住居埋土	1.5	5.5	1.8	30.0	削刮器類?	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	未成品	—	—
334 31	Y17T24-W24	櫛孔	4.5	8.7	1.9	66.0	削刮器類?	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	未成品	—	—
30-335 32	Y17V22	Ⅱ層上面	9.4	4.2	2.1	77.4	石块	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	—	—	23-335
30-336 33	Y17U24	Ⅱ層	7.1	3.3	1.5	37.7	石块	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	—	—	23-336
31-337 34	Y17V23	Ⅱ層	8.4	3.4	2.0	53.1	石块	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	—	—	23-337
31-338 41	Y17W22	Ⅱ層上面	6.6	2.1	1.2	16.6	石块	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	両面加工	—	23-338
31-339 40	SK02	住居埋土	5.5	2.2	1.0	9.1	石块	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	両面加工	—	23-339
340 35	東部3区	表土	5.8	4.0	2.0	49.3	石块	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	—	—	—
341 37	Y17W22	Ⅱ層上面	3.7	3.5	1.3	20.7	石块?	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	—	—	—
31-342 19	RA15(中央④)	住居埋土	(5.6)	3.2	0.6	10.1	スクレイパー (尖頭器?)	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	墨色付青物	—	23-342
31-343 29	東部3区	Ⅱ層	5.4	2.6	1.5	7.9	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	—	—	23-343
31-344 36	RA16	住居埋土	3.6	3.8	1.1	18.9	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	—	—	23-344
345 38	X24	Ⅱ層	3.3	1.5	0.5	1.8	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	—	—	—
346 42	RA16(中央④)	住居埋土	7.4	2.7	0.6	9.7	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	—	—	—
347 43	中央民主一橋	住居埋土	4.7	2.0	0.9	5.5	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	—	—	—
348 44	RA16(中央④)	住居埋土	3.6	3.7	0.9	10.1	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	—	—	—
349 45	V22	Ⅱ層	2.2	2.2	0.5	2.9	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	—	—	—
350 46	東部4区	Ⅰ-Ⅱ	1.6	2.6	0.4	1.8	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	—	—	—
351 47	RA15(中央④)	住居埋土	2.1	2.6	0.7	3.3	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	—	—	—
352 48	RA15	埋土下部	4.7	2.5	0.8	8.1	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	—	—	—
353 49	Y17V22	Ⅱ層上面	5.9	3.9	1.7	16.3	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	—	—	—
354 50	Y17W23	Ⅱ層	4.1	4.5	1.2	18.3	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	—	—	—
355 51	Y17X22	Ⅱ層	4.3	2.8	0.9	7.6	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	—	—	—
356 52	Y17X22	Ⅱ層	9.1	3.2	1.5	20.6	スクレイパー	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	—	—	—
31-337 51	東部4区	Ⅱ層下面	11.6	(7.8)	5.6	546.3	磨石頭	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—	24-367
31-338 60	RA16(中央④)	表土	9.4	7.8	4.4	462.9	磨石頭	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—	23-358
359 57	RA15(中央④)	住居埋土	8.6	6.0	4.9	350.3	磨石頭	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—	—
360 58	RA15(中央④)	住居埋土	(9.7)	9.5	6.7	923.3	磨石頭	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—	—
361 59	RA16(中央④)	住居埋土	11.2	7.4	3.9	460.2	磨石頭	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—	—
362 61	RA16(中央④)	住居埋土	10.0	10.4	7.1	1018.8	磨石頭	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—	—
363 64	—	—	10.5	10.5	5.6	886.8	磨石頭	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—	—
364 66	北西斜面	櫛孔	9.4	7.9	3.7	576.6	磨石頭	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—	—

1) は無錫の都合で撮影を省略した。※は推定位。( )は複数個。

掲載番号	鉱名 <sup>a</sup>	地名・施設名	部位	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 量 (g)	器種	石質	産地	参考	写真図版
365 67	Y17W23	Ⅴ層	104	9.4	6.1	810.6	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—	
366 68	Y17T24-W21	櫻丸	104	6.9	4.9	537.2	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代第三紀	磨石	—	
367 69	Y17T24-W21	櫻丸	76	5.9	5.2	321.8	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—	
368 71	瀬戸内市中央東部	表土	8.6	4.7	29	190.6	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—	
369 72	東部2区	Ⅴ層下部	8.4	6.8	4.7	27.9	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代第四紀	磨石	—	
370 73	東部2区	Ⅴ層下部	11.5	9.9	5.0	647.0	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—	
371 74	東部2区	Ⅴ層	(122)	9.9	6.7	308.1	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—	
372 75	東部2区	Ⅴ層下部	6.6	3.7	3.7	324.2	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—	
373 76	東部2区	Ⅴ層下部	9.9	7.2	4.5	441.4	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—	
374 77	東部3区	Ⅱ層	7.9	7.5	3.7	312.2	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—	
375 80	東部3区	Ⅱ層	17.9	4.1	4.2	123.2	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代第三紀	磨石	—	
376 83	RA16(中央⑤)	住居地上	(10.1)	5.1	3.7	364.3	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—	
377 87	RA15(中央⑥)	住居地上	14.2	8.0	4.1	734.2	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—	
378 91	北西斜面	櫻丸	11.0	5.2	3.2	380.9	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—	
379 92	東部2区	Ⅳ層	12.8	6.9	3.8	469.7	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—	
380 94	RA15(中央⑦)	住居地上	10.3	8.6	3.7	777.4	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—	
381 96	Y17V22	Ⅲ層上部	12.6	8.3	5.0	865.9	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—	
382 99	Y17V24	Ⅲ層	13.4	9.2	7.7	1380.2	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	磨石	—	
31-383 85	RA15(中央⑦)	床直	17.8	(7.6)	(3.2)	574.4	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	特殊磨石	24-383	
31-384 84	RA16(中央⑥)	住居壁土	15.5	6.9	3.5	591.4	磨石類	安山岩	北上山地、中生代白堊紀	特殊磨石	24-384	
31-385 82	RA15(中央⑦)	住居壁土	15.8	8.8	2.6	571.2	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	特殊磨石	24-385	
388 86	RA15(中央⑦)	住居地上	(10.1)	5.8	2.6	242.6	磨石類	安山岩	北上山地、中生代白堊紀	特殊磨石	—	
387 93	東部3区	Ⅲ層	(11.9)	8.0	(2.6)	266.8	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	特殊磨石	—	
388 98	東部2区	Ⅲ層下部	15.7	9.2	(5.5)	899.8	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	特殊磨石	—	
389 100	東部2区	Ⅲ層	(8.6)	8.2	3.6	666.2	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	特殊磨石	—	
390 101	東部2区	Ⅲ層	(16.9)	8.1	(2.6)	425.6	磨石類	砂岩	北上山地、中生代白堊紀	特殊磨石	—	
391 102	東部3区	Ⅲ層	(8.0)	6.9	3.7	338.5	磨石類	砂岩	北上山地、中生代白堊紀	特殊磨石	—	
392 103	東部3区	Ⅲ層	(9.0)	9.0	3.4	397.5	磨石類	安山岩	北上山地、新生代	特殊磨石	—	
31-393 62	RA15(中央⑧)	住居壁土	9.6	7.1	4.9	565.2	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	四石	24-393	
31-394 63	RA16(中央⑨)	住居壁土	11.0	6.5	4.1	442.2	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	四石	24-394	
31-395 66	RA15	床直	11.1	8.9	5.0	581.2	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	四石	24-395	
31-396 89	RA15(中央⑨)	床直	17.7	6.9	3.7	665.9	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	四石	24-396	
397 65	北西斜面	櫻丸	9.3	6.5	4.3	368.6	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	四石	—	
398 70	Y17V23	Ⅲ層上部	10.3	7.7	5.8	683.5	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	四石	—	
399 78	北西斜面	櫻丸	11.7	9.4	4.0	452.2	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	四石	—	
400 79	東部2区	Ⅲ層	8.0	8.4	3.9	296.4	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代第四紀	四石	—	
402 99	北西斜面	櫻丸	12.5	6.1	3.7	433.9	磨石類	安山岩	奥羽山脈、新生代	四石	—	
32-322 102	東部2区	Ⅲ層	(24.5)	24.8	9.7	6060.0	石皿	安山岩	奥羽山脈、新生代	24-402		
403 106	Y17V23	Ⅲ層上部	(10.8)	(21.5)	5.5	1857.1	石皿	安山岩	奥羽山脈、新生代	—		
404 108	RA15(中央⑨)	住居壁土	(21.3)	(21.0)	7.4	5990.0	石皿	安山岩	奥羽山脈、新生代	—		
405 109	RA15(中央⑨)	床直	(21.0)	(12.6)	6.7	2041.6	石皿	安山岩	奥羽山脈、新生代	—		
406 110	東部2区	Ⅱ層	(19.3)	(7.7)	6.7	1965.2	石皿	安山岩	奥羽山脈、新生代	—		
407 113	RA15(中央⑨)	床直	(35.5)	(27.0)	11.2	2749.0	石皿	安山岩	奥羽山脈、新生代第四紀	—		
32-408 201	東部4区	Ⅳ層	9.9	5.0	1.5	108.1	研製石盤	頁岩	北上山地、中生代三疊～ジュラ紀	24-408		
32-409 203	RA15	住居壁土	(4.1)	2.3	0.9	115.8	研製石盤	頁岩	北上山地、中生代三疊～ジュラ紀	24-409		
32-410 204	Y17T24-W21	櫻丸	(6.9)	4.3	2.3	111.5	研製石盤	頁岩	北上山地、中生代三疊～ジュラ紀	24-410		
32-411 204	東部2区	Ⅲ層	(3.9)	(2.5)	1.1	17.3	研製石盤	頁岩	北上山地、中生代三疊～ジュラ紀	24-411		
32-412 205	RA15(中央⑨)	住居壁土	(13.6)	2.6	(0.6)	11.0	微灰石盤	頁岩	北上山地、中生代三疊～ジュラ紀	24-412		
32-413 206	Y17X24	Ⅲ層	(8.8)	(3.6)	(0.8)	31.7	微灰石盤	頁岩	北上山地、中生代三疊～ジュラ紀	24-413		
32-414 207	RA16	床直	8.5	2.0	0.6	16.3	微灰石盤	頁岩	北上山地、中生代三疊～ジュラ紀	24-414		
32-415 86	RA16(中央⑨)	住居壁土	(5.0)	(5.4)	(2.5)	53.8	研製石盤	頁岩	奥羽山脈、新生代第三紀	24-415		
32-416 209	RA15	住居壁土	11.0	4.0	6.0	329.5	三角形研製品	微灰石盤	奥羽山脈、新生代第三紀	24-416		
417 114	RA15(中央⑨)	住居壁土	—	—	—	537	研磨調子	頁岩	奥羽山脈、新生代新第三紀	24-417		
210 203	東部3区	Ⅲ層	—	—	—	—	研製石	頁岩	北上山地、久慈？若泉？			
211 204	東部2区	Ⅲ層下部	—	—	—	—	研製石	頁岩	北上山地、久慈？若泉？			
212 210	Y17X24	Ⅳ層	—	—	—	—	研製石	頁岩	北上山地、久慈？若泉？			
213 214	RA17(中央⑩)	床直	—	—	—	—	研製石	頁岩	北上山地、久慈？若泉？			
214 216	東部3区	Ⅳ層	—	—	—	—	研製石	頁岩	北上山地、久慈？若泉？			
215 217	Y17X23	Ⅲ層下部	—	—	—	—	研製石	頁岩	北上山地、久慈？若泉？			
216 217	東部3区	Ⅳ層	—	—	—	—	研製石	頁岩	北上山地、久慈？若泉？			
419 111	RA15(中央⑨)	住居壁土	—	—	—	2.2	研製石	頁岩	北上山地、中生代白堊紀			
420 54	RA15(中央⑨)	住居壁土	18.5	6.5	3.5	325.1	研製石盤	頁岩	北上山地、中生代三疊～ジュラ紀			

1

は新船の都合で測定を省略した。車は新定値。

( ) は既存値。

## V まとめ

### 1 遺構

今回の調査では、縄文時代中期中葉の3棟の堅穴住居跡が重複して検出された。今次調査区は平成5年度に実施された第1次調査の「A区」と、現在の学校グラウンド以北の広がりのある平坦面との間に位置する。地形的見ると、今次調査区付近は東西それぞれに延びる小谷に挟まれて平坦面が極めて狭隘化している。一次調査の総括では「A区」の北西側が急斜面となっていることから中期集落は以北に展開しないものと推定されていたが、今次調査区で該期の住居跡が検出されたことに加え、県教委の試掘調査ではさらに北の養護学校グラウンドでも複数の堅穴住居跡が確認されていることから、この集落は小谷の発達に伴う狭隘部を越え、より北側の広い平坦面へと連続して展開していた可能性が高いと考えられる。また、楕円形を呈する住居跡の長軸が狭隘な平坦面の伸展方向に平行するように揃えられ、さらに同一地点に3棟が繰り返し建てられている状況をみると、住居の配置には不利と思えるこの地点を選択せざるを得ない何らかの規制が働いたように思われてならない。北側（グラウンド側）には十分な開けた土地がありながらあえて狭小な地点を選択する理由は何だったのか。集落内が過密となつたために不適な地点をも利用するに至ったというような合理的な理由、または何らかの定形的設計に基づく集落構造を志向した住居配置の結果、あるいは構成員（世帯）間の取り決め（慣習等）による居住地点の制約など、様々な理由が考えられる。現時点では集落のごく一部を調査したに過ぎず想像の域を出ないが、集落の主要部と思われるグラウンド以北の平坦部の状況が将来明らかになれば、より具体的な解釈が可能となろう。

さて今回の調査で我々が大いに苦しんだのは、堅穴住居跡の埋土の識別が極めて困難だったことである。埋土の主体は地山土層とほとんど区別がつかない褐色土であり、通常の地表面に見られるような黒みを帯びた土は、検出面から床面までの埋土に全く堆積していないかったのだ。出土土器の形態をみても廃絶直後から埋没の完了までは長い時間を経ていないとおもわれた。そこで、まず住居周縁の「周堤」（あるいは屋根？）など、地山土を掘削して上屋構造に用いられた上砂が、崩壊と共に一気に堆積した可能性を想定し解釈を試みた。しかしこの仮説では黒色土の堆積が埋土に全く入らないことを十分に説明できない。住居建築に伴う堅穴の掘削段階から居住期間を経て廃絶後に至るまで、周縁に表土として黒色土が存在したならば、全く埋土に含まれないはどう考えても不自然だからだ。したがって、当時間にはほとんど黒色土が発達していなかったのでは、と考えるに至るのである。現在でも尾根の頂部では表土（黒土）層の発達は乏しいのが一般的だ。だが、住居跡を切っている陥し穴状遺構に黒々としたシルトが大量に堆積していることを見れば、単に地形に起因する現象とは判断できないだろう。そこで集落存続期に黒色土の生成が抑制されるような人為的管理が行われたと仮定してみてはどうか。たとえば集落内において草木の生育を制限するような樹木の伐採・除草・整地等が行われたとしたなら、集落が營まれた一定期間においては黒色土の生成堆積が大幅に抑制されたに違いない。そして集落廃絶後は周辺の植生が変化し樹木等が繁茂、これに伴って黒色土の形成が進み、狩り場となった当地に設置された陥し穴に大量の黒色土が流入したと説明することができるだろう。人間による土地利用の変化に伴って自然環境も変化した痕跡をとらえたのだとしたなら、極めて興味深い事例と言えるだろう。この点についても周辺における調査の進展、また他の遺跡での類例などから、より詳細な実態が判明することを期待したい。

## 2 遺物

I 群土器は縄文時代早期に属するもので、貝殻腹縁文と刺突文が見られる。これらは第1次調査で出土した早期のものと同じく早期中葉で、寺ノ沢遺跡出土土器や白浜・小船平式に比定されるものと考えられる。

II 群土器は縄文時代中期に属するもので、RA15・16堅穴住居跡と調査区東部の遺物包含層から出土したものが大半を占める。RA15・16出土のII群土器は、造構の堆積状況から住居廃絶後、半埋没の状態である凹地に一括廃棄されたものであることがわかっている（第8図13・14・27・40・61・62・66・67・78・85）。これらはII群3類（大木8a式）に属するもので、その中でも特に平縁のキャリバー形で、口縁部に山形波状降帶文が施された深鉢が主体となり、II群1・2・4類はほとんど見られない。RA16はRA15によって切られており、造構の新旧関係は明らかであるが、出土遺物についてはその差は見られない。これは、RA15・16堅穴住居跡への遺物廃棄が、大きな時間差のないうちに行われたことを示していると考えられる。これらの一括廃棄された遺物には、RA15出土の器台(44)や微細剥方(417)も含まれる。

一方、住居埋上位には遺物が多量に廃棄されていたが、それに比べると堅穴住居跡の床面にはほとんど遺物が残されていなかった。その中で、RA16からは79の深鉢が床面に置かれたように出土している。この深鉢は、住居廃絶時に何らかの意図で、人為的に住居の床面に置かれたものと解される。

調査区東部に形成された遺物包含層では、主にIII層の黄褐色土層（IIIa層）から遺物が出土している。RA15・16堅穴住居跡の埋土と類似した土層で、同じくII群3類を主体とするが、II群1・2類も見られる。II群4類は出土していない。東部包含層II～IV層には、II群1～3類が混在して包含されており、堆積層と各類との相関関係は把握できなかった。またII群1類（円筒上層式土器）とII群2・3類（大木式土器）との共伴関係を示す資料も見受けられなかった。

調査区西部斜面から出土した土器は攪乱層からではあるが、II群4類（大木8b式）を主体としており、RA15～17や東部遺物包含層よりも若干新しいものが見られる。

さて、今回の調査で出土したII群3類は、キャリバー形で、口縁部文様帶に隆帯による山形波状文や溝状文が描かれること、口縁部に弁状突起やS字状貼付が見られること、原体压痕による文様がほとんど見られることなどから、大木8a式でも比較的新しい段階にあたる大木8a-2式（神原2004）に属するものと思われる。盛岡市内で同時期と考えられる資料が、大館町遺跡、霧遺跡、柿ノ木遺跡などで出土している。紙幅の都合もあり、ここでは他遺跡との比較検討は行なわず、今後の課題としたい。

### [引用・参考文献]

- 阿部勝則 1995 「松屋敷遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第224集
- 阿部勝則 2001 「岩手県内出土の縄文時代中期の器台について」「紀要」XX (財) 岩手文
- 阿部勝則 2003 「岩手県における縄文時代中期の洞片集中遺構について」「紀要」XXII (財) 岩手文
- 岩手大学考古学研究会 1978 「大館町遺跡」盛岡市教育委員会
- 上野猛ほか 1982 「繁V遺跡」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第30集
- 神原雄一郎 2004 「溝文文様の展開—盛岡の縄文中期土器—」「縄文の彩華—中期の技と美—」盛岡市遺跡の学び館
- 熊谷常正 1989 「北上川中流域における大木8a式土器」「岩手県立博物館研究報告」第7号
- 高橋憲太郎 1982 「柿ノ木遺跡」盛岡市教育委員会
- 盛岡市教育委員会 1997 「大館町遺跡群 大館町遺跡一平成6・7年度発掘調査概報」

# 写 真 図 版





調査開始時の状況（西から）

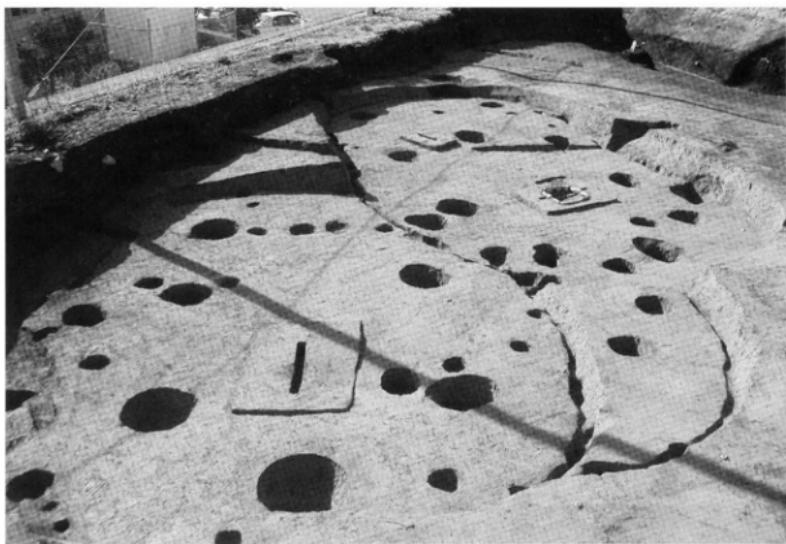


調査開始時の状況（北東から）

写真図版 1 調査開始時の状況



調査区全景（西から）



調査区中央部の竪穴住居跡群（北東から）

写真図版2 調査区全景



R A 1 5 竪穴住居跡 全景 (南西から)



R A 1 5 竪穴住居跡 床面除去後 (北東から)

写真図版3 R A 1 5 竪穴住居跡 (1)

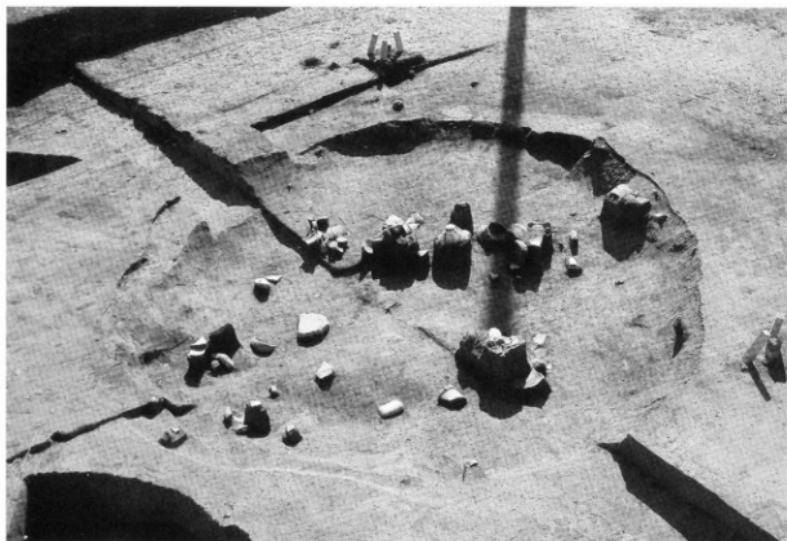


RA 15 壁穴住居跡 断面（埋土上部 南東から）



RA 15 壁穴住居跡 断面（埋土中～下部 南西から）

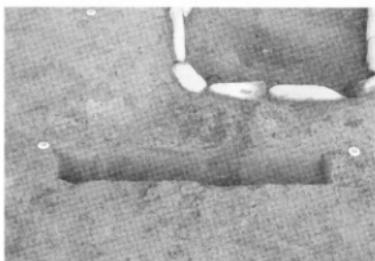
写真図版 4 RA 15 壁穴住居跡（2）



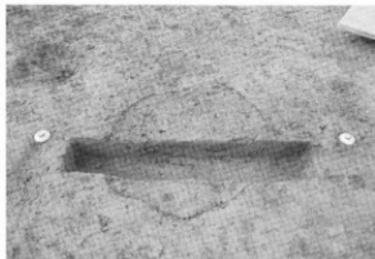
R A 1 5 穹穴住居跡 遺物出土状況（北東から）



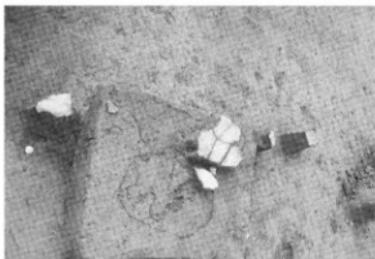
炉跡 a



炉跡 b



炉跡 c



R F O 2 烧土

写真図版5 R A 1 5 穹穴住居跡（3）



微細剝片の集中（検出初段階）



微細剝片の集中（周辺掘り下げ後）



遺物の出土状況（RA 15）



住居跡の精査風景（RA 15）



住居跡の精査風景（RA 15）



陥し穴の精査風景（RD 14）

#### 写真図版6 RA 15竪穴住居跡（4）・作業風景



RA 16 壁穴住居跡 全景（南西から）



RA 16 壁穴住居跡 床面除去後（北東から）

写真図版7 RA 16 壁穴住居跡（1）

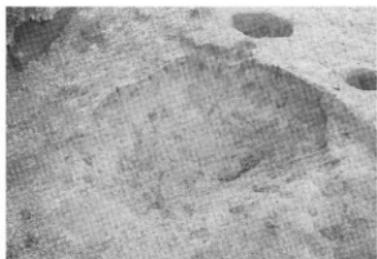


R A 1 6 壁穴住居跡 断面（東から）



R A 1 6 壁穴住居跡 遺物出土状況（北東から）

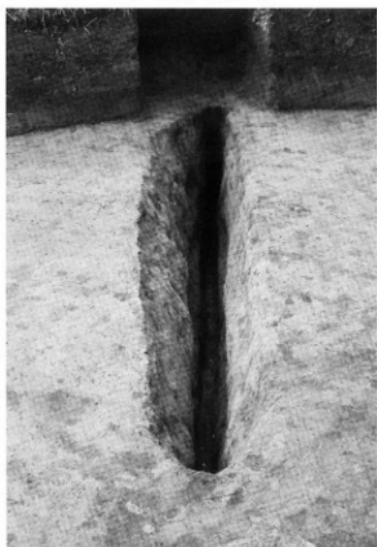
写真図版 8 R A 1 6 壁穴住居跡（2）



RD 13 土坑 (北東から)



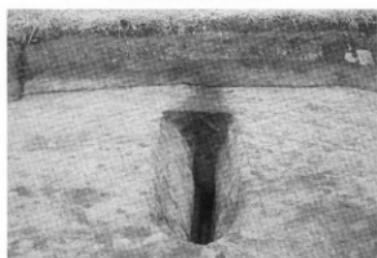
RD 13 土坑断面 (北東から)



RD 14 脫し穴 (北から)



RD 15 脱し穴 (南東から)



RD 14 脱し穴 断面



RD 15 脱し穴 断面

写真図版9 土坑・脱し穴



中央～東部の出土状況



東端部の出土状況

写真図版10 捨て場



中央部～東部の堆積状況



東端部の堆積状況



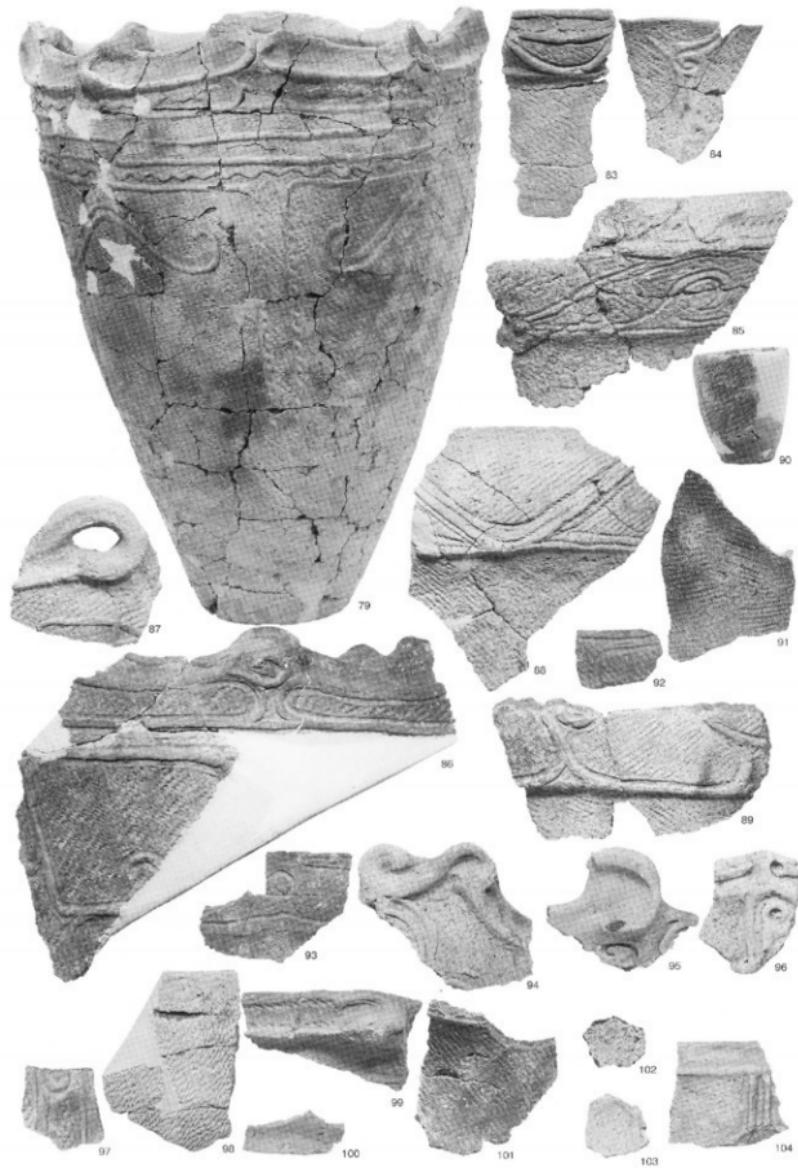
写真図版12 出土遺物（1）



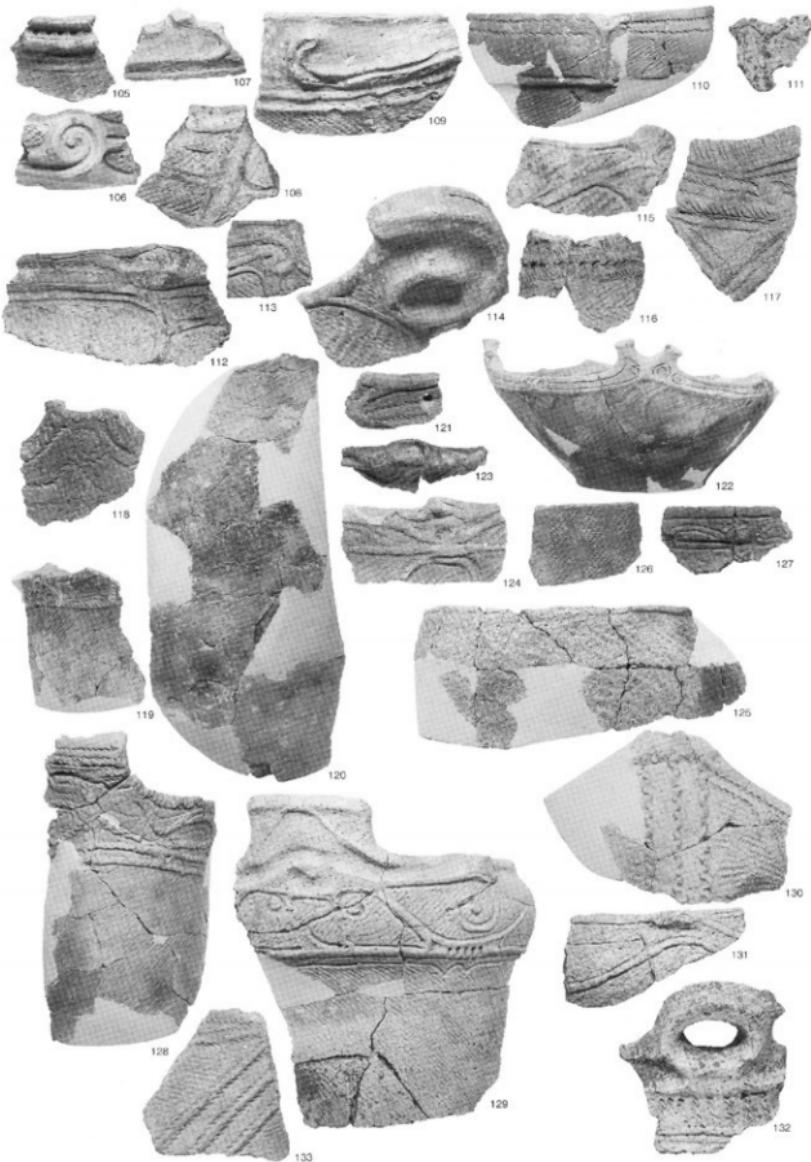
写真図版13 出土遺物（2）



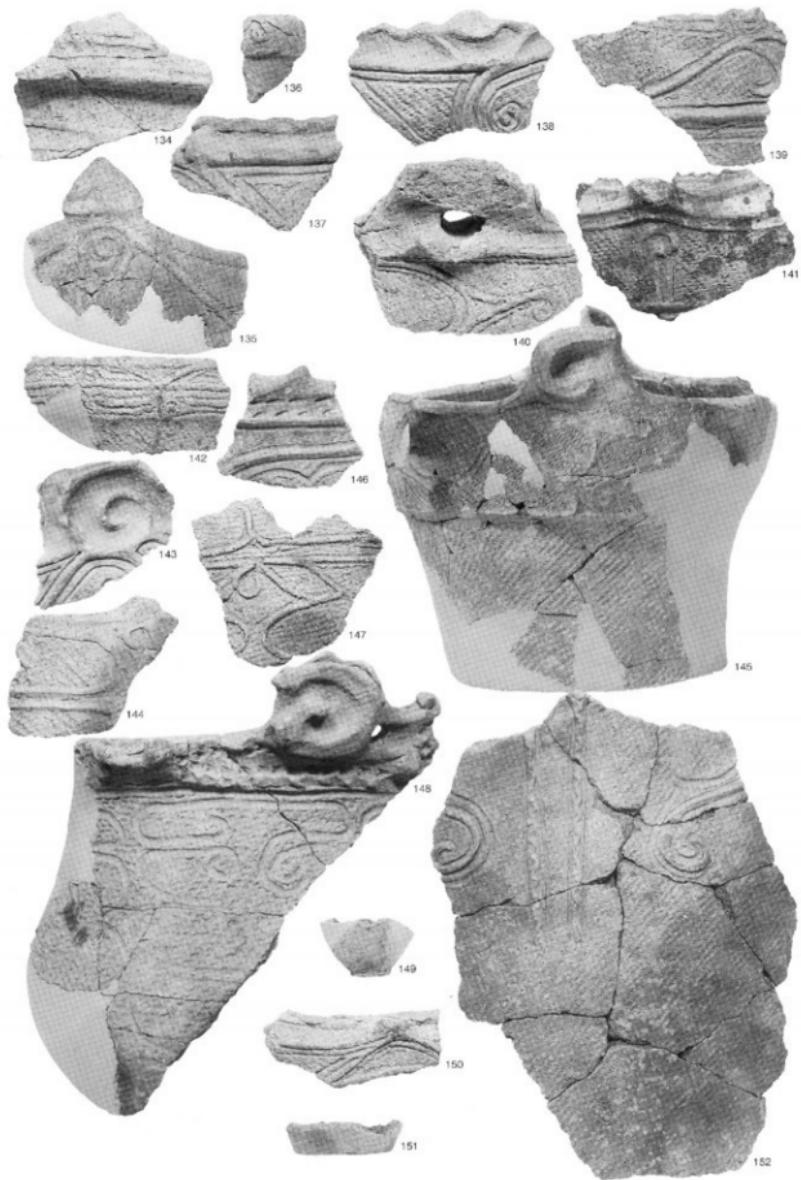
写真図版14 出土遺物（3）



写真図版15 出土遺物（4）



写真図版16 出土遺物（5）



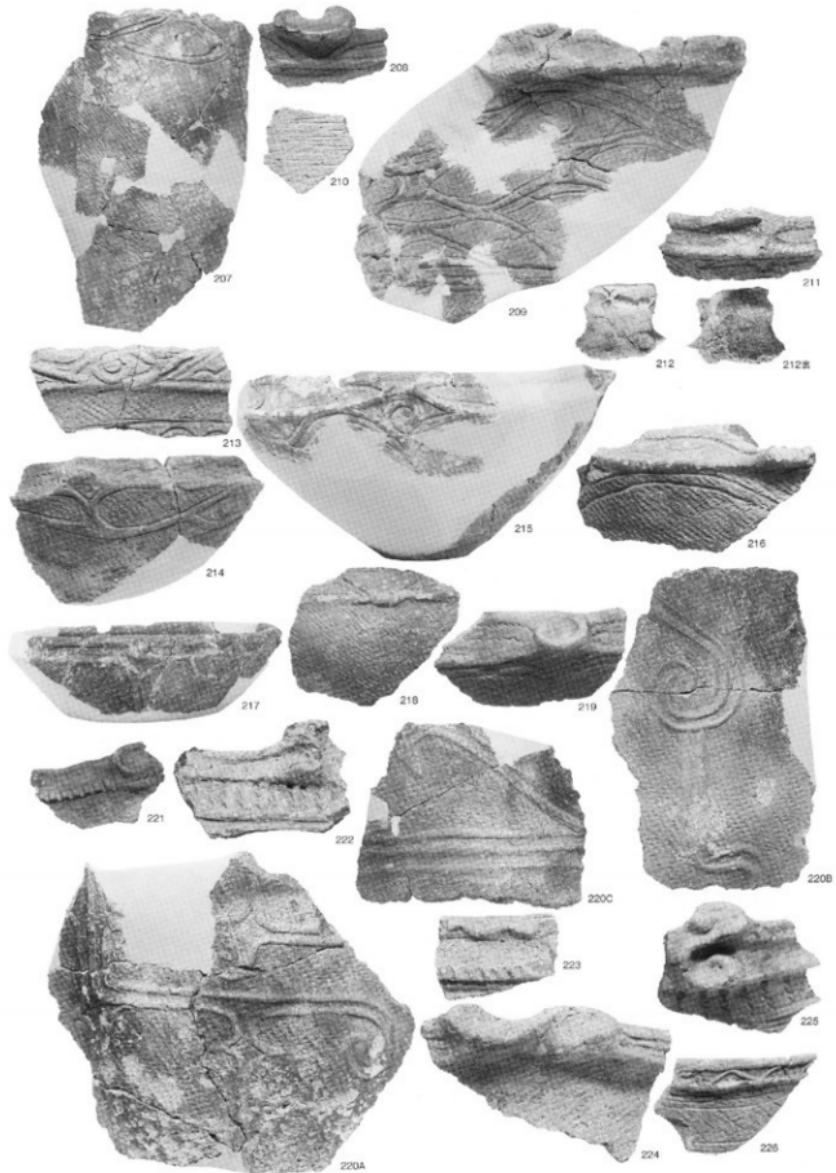
写真図版17 出土遺物（6）



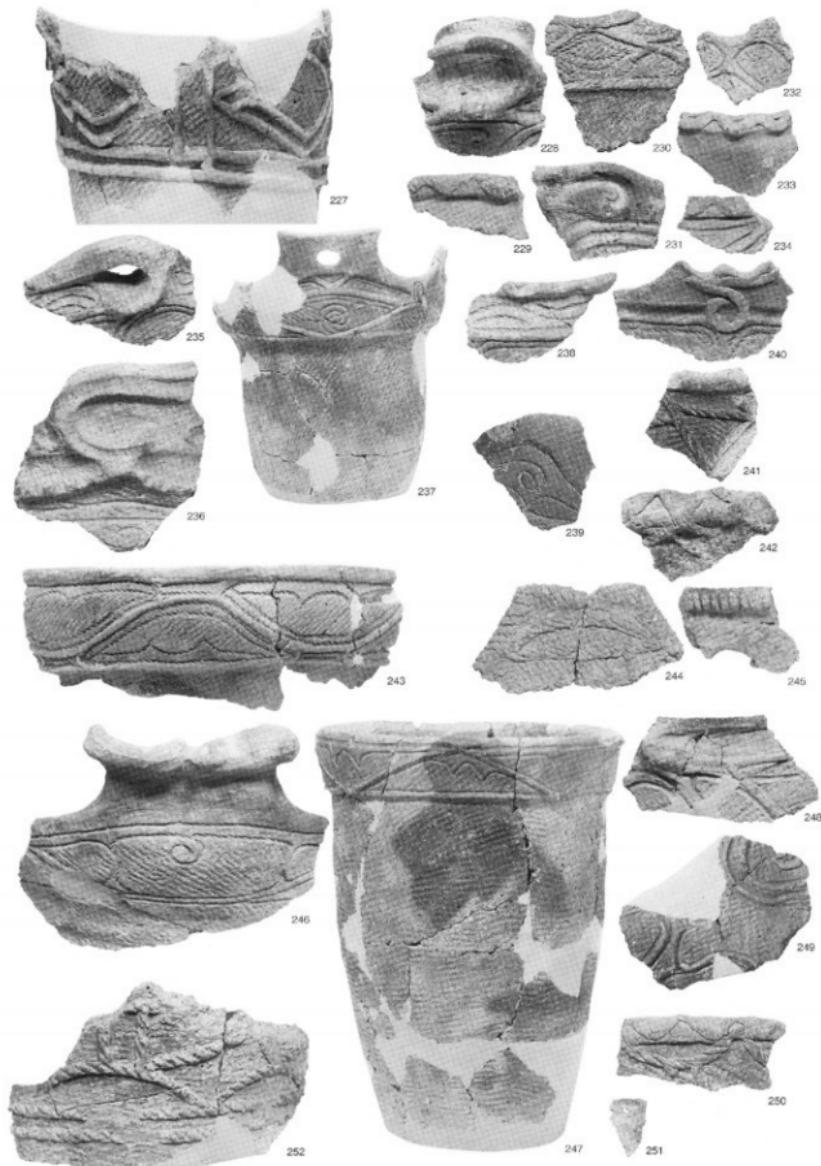
写真図版18 出土遺物（7）



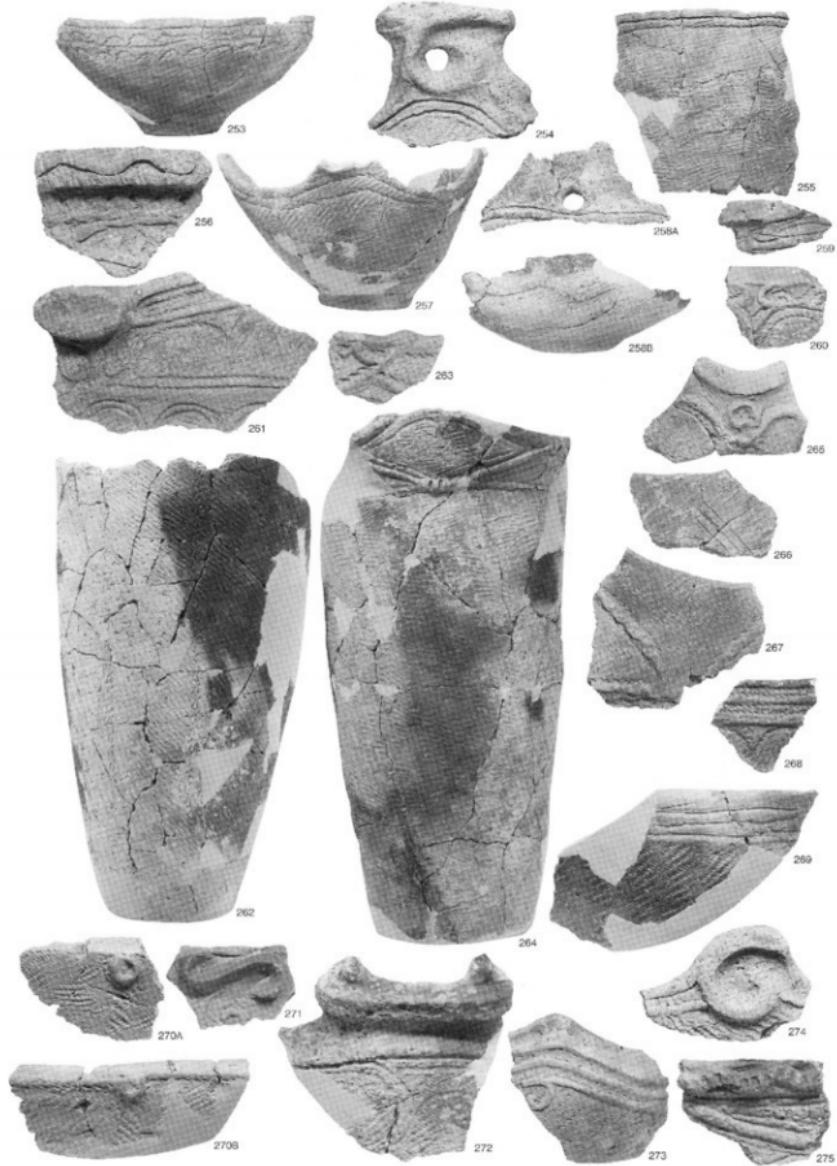
写真図版19 出土遺物（8）



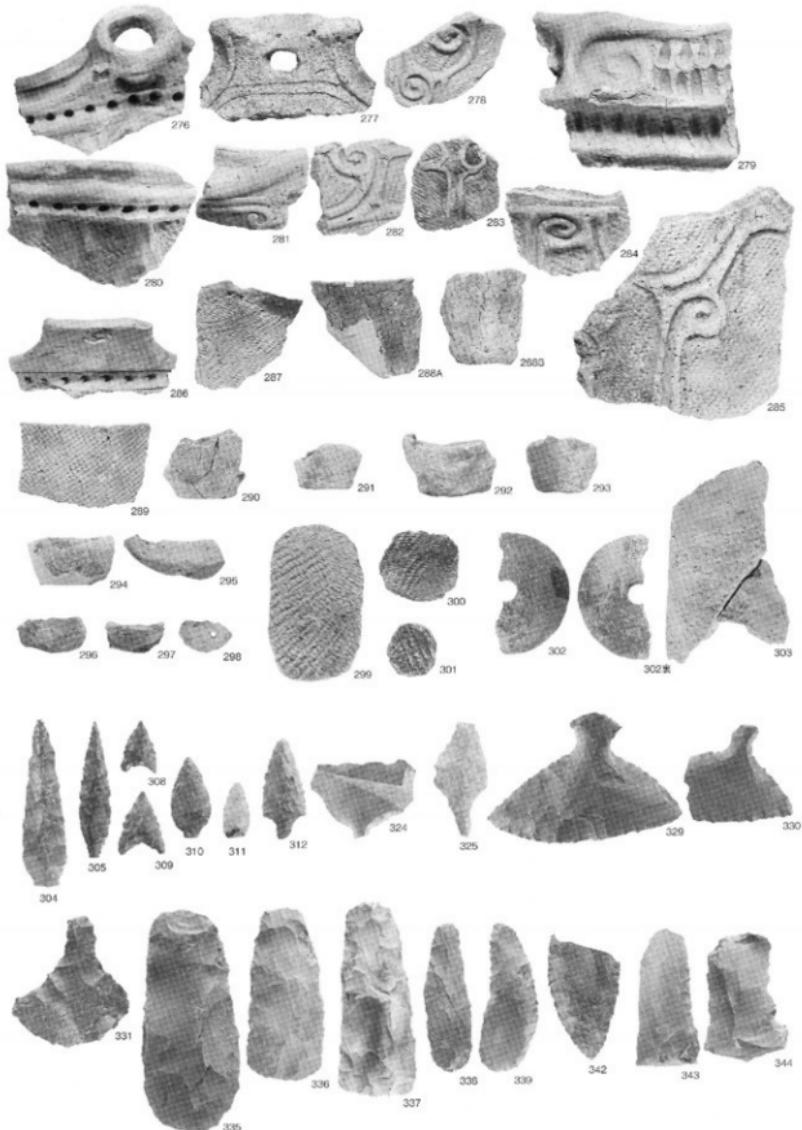
写真図版20 出土遺物（9）



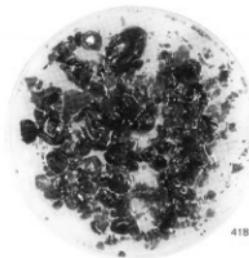
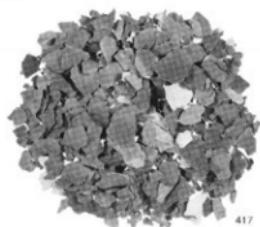
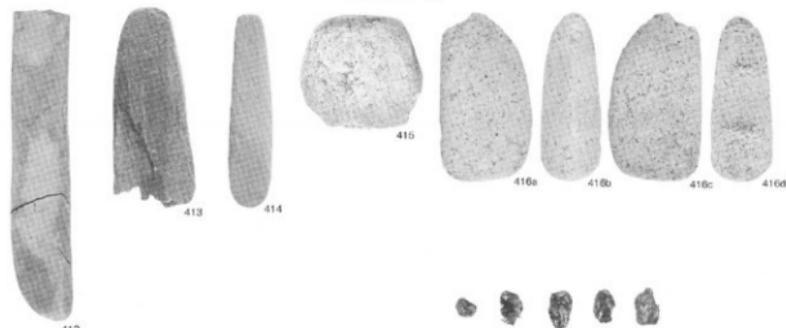
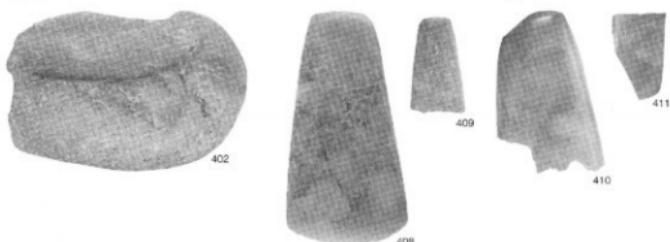
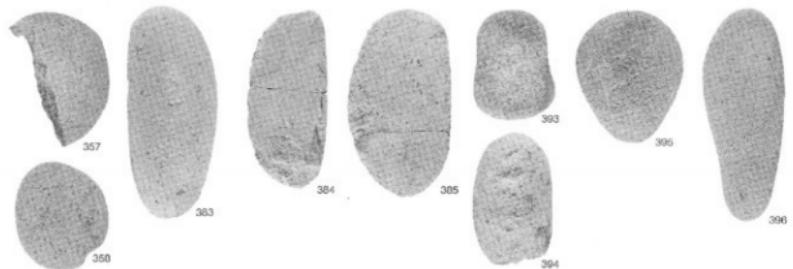
写真図版21 出土遺物 (10)



写真図版22 出土遺物 (11)



写真図版23 出土遺物 (12)



写真図版24 出土遺物 (13)

## 報告書抄録

ふりがな	まつやしきいせきだいにじはっくつちょうさほうこくしょ					
書名	松屋敷遺跡第2次発掘調査報告書					
副書名	県立松園養護学校整備事業関連遺跡発掘調査					
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書					
シリーズ番号	第545集					
編著者名	村上拓・横山寛剛					
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター					
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185 TEL (019) 638-9001					
発行年月日	2008年12月26日					
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 度 東經 度	調査期間	調査面積	調査原因
松屋敷遺跡	岩手県盛岡市上 田字松屋敷11- 25ほか	032018 KE86 -2378	39度 45分 27秒	141度 9分 33秒	2007.09.03 ~ 2007.12.05	780m <sup>2</sup> 県立松園養護学校 整備事業関連 遺跡発掘調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
松屋敷遺跡 (第2次)	集落跡	縄文時代	竪穴住居(中期)3棟 上坑(中期)1基 焼土(中期)1基 階級状遺構2基 捨て場	縄文土器・石器・土製品		
要約	尾根頂部に相当する調査区中央で、縄文時代中期（人木8a式期主体）の竪穴住居跡3棟が重複して検出された。尾根頂部の両側はそれぞれ斜面となっており、このうち南東斜面には捨て場が形成されていた。出土遺物の大半は縄文時代中期に属するが、ごくわずかに数片の早期土器（貝殻文）破片を含む。また、住居跡埋土や捨て場からは多数の琥珀細片が出土した。					

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第545集

## 松屋敷遺跡第2次発掘調査報告書

県立松園養護学校整備事業関連遺跡発掘調査

印 刷 平成20年12月22日

発 行 平成20年12月26日

編 集 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地

電話 (019) 638-9001

発 行 岩手県教育委員会事務局教育企画室

〒028-8570 岩手県盛岡市内丸10番1号

電話 (019) 651-3111

(財)岩手県文化振興事業団

〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号

電話 (019) 638-9001

印 刷 有限会社 内 海 印 刷

盛岡営業所 〒020-0853 岩手県盛岡市清水町8-8-108

電話 (019) 622-0288

本 社 〒026-0041 岩手県釜石市上中島町4-2-4

電話 (0193) 23-5511

